

山梨県立富士山世界遺産センター 研究紀要
山梨県富士山総合学術調査研究 報告

世界遺産 富士山

World Heritage Fujisan

第1集 2017
特集「御中道調査報告」



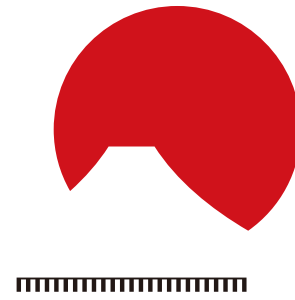
山梨県立富士山世界遺産センター

山梨県立富士山世界遺産センター

世界遺産 富士山

第一集

二〇一七年三月

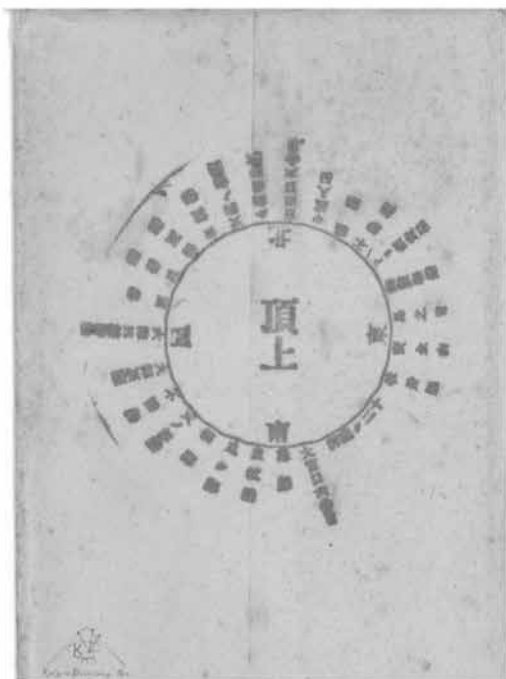


Bulletin
of the Yamanashi Prefectural Fujisan World Heritage Center
Report
of the Yamanashi Prefecture Fujisan Comprehensive Academic Research

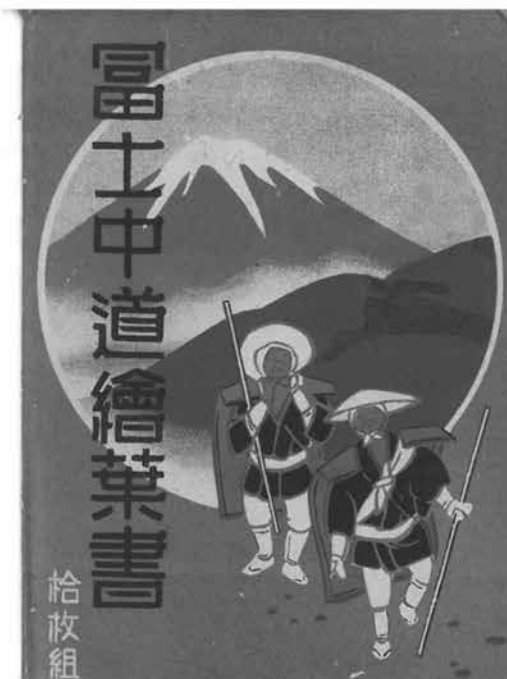
World Heritage Fujisan

vol.1 2017
Special Issue “Ochudo Route”

Yamanashi Prefectural Fujisan World Heritage Center



「富士中道絵葉書」封筒 裏



「富士中道絵葉書」封筒 表



1 賣永山



2 十二ヶ薬師牡丹畑

口絵1 富士中道絵葉書 (1)



4 不動岩



3 天ノ浮橋



6 大澤石瀧ノ全景



5 大澤大行



8 大澤達磨岩



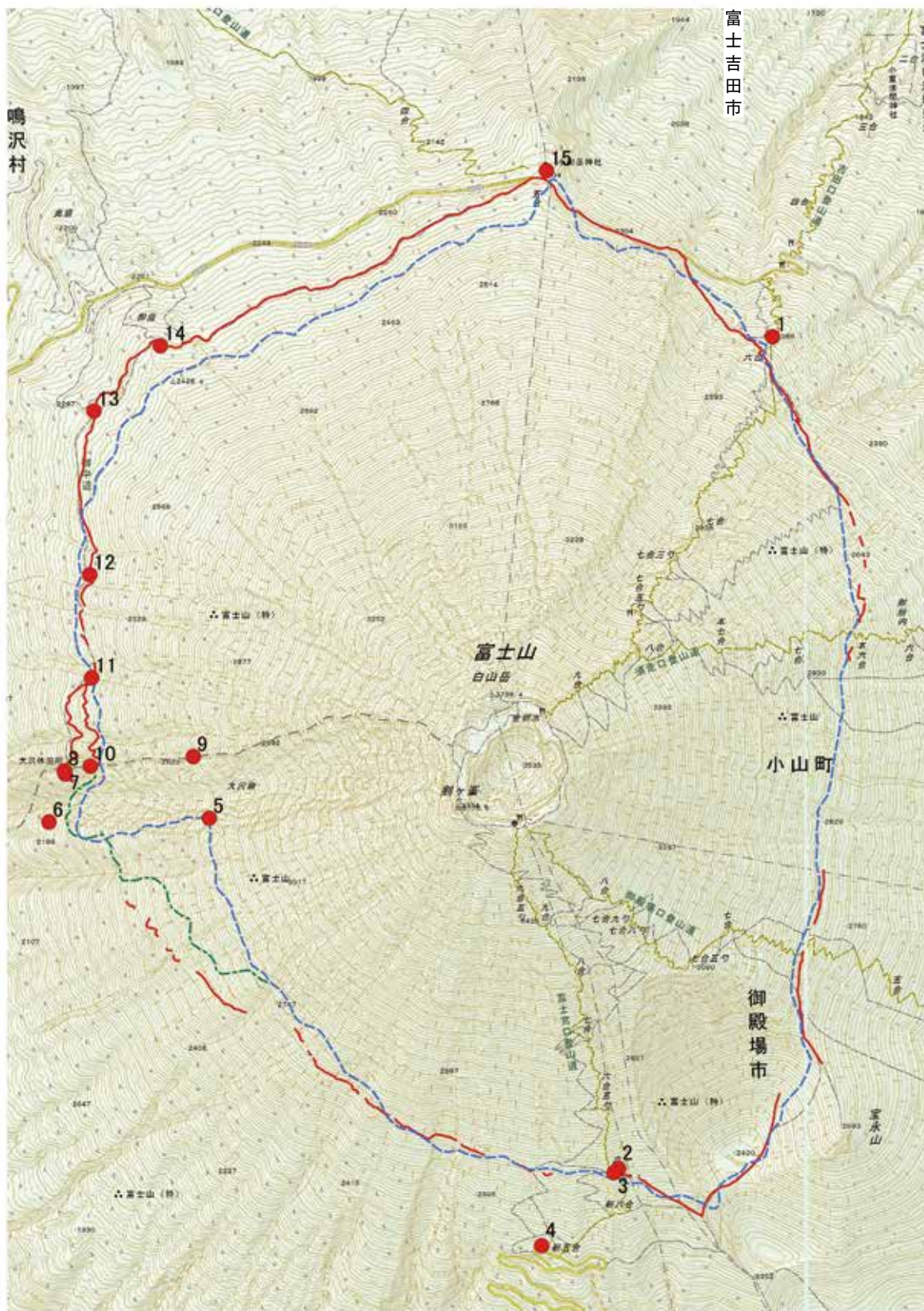
7 三柱神社



9 御庭



10 小御岳神社



口絵2 富士山御中道関連地図（『山梨県富士山総合学術調査報告書2』挿入図「富士山地形図と御中道」に一部加筆）

序

富士山は、その秀麗な山容と広大な裾野をもつ火山という自然環境を背景に、山岳修験の霊場や富士講等の信仰の対象としても多くの人々を惹きつけてきました。その結果、平成二十五年六月には念願の世界文化遺産登録を達成することができました。

この間、富士山をめぐる自然と人との関わりを総合的に解明するために、山梨県富士山総合学術調査研究委員会を設け、平成二十年度以降、四年間を単位として各分野に分けて調査・研究を進めてまいりました。

同二十七年度を一区切りとして第二次調査を総括する報告書が刊行されました。その内容は、ユネスコ世界遺産センターに提出した保全状況報告書に反映されるなど、富士山の登録やその後の保全にあたっても活用されており、継続される調査・研究の指針となるものといえます。しかし同調査の中では、膨大なデータの僅かな部分しか収録することができませんでした。特に考古・歴史・民俗部会が合同で実施した御中道の調査は、文字・画像資料の掲載に限られました。そこで本年度は、その成果を富士山世界遺産センターの調査・研究活動に位置づけ、内容を補足・再整理することで、富士山のもつ歴史や文化の特質を解明することを目的に編集いたしました。

調査・研究の成果については、今後の調査報告会や企画展等の中で公開することとし、さらに本書として取りまとめました。

本書が富士山の総合的な調査・研究のいっそうの深化をはかるための基礎となることを願ってやみません。本調査・研究に御協力をいただいた多くの方々に厚くお礼申し上げます。

平成二十九年三月

山梨県立富士山世界遺産センター 所長 秋道智彌

目次

口絵

序

目次

山梨県富士山総合学術調査研究の経緯と方針
平成二十八年度活動記録

第一部 本文編

第一章 御中道の変遷

村石眞澄……5

はじめに―富士山を巡る三線―

一 御中道のもつ意義

中道巡りの成立 巡廻がもつ意味 御中道の起点

二 御中道と登山道

北口↪東口↪南口↪西口 西口↪大沢 大沢↪小御岳

まとめ―御中道の判読―

第二章 静岡県側の御中道調査の概要

大高康正……12

はじめに

一 御中道の行程について

二 御中道における大沢の越場の変遷

三 大宮・村山口登山道及び大沢における山小屋

おわりに

第三章 御中道の絵葉書

赤池栄人……22

はじめに

絵葉書

小括

第四章 御中道と大沢室の奉納物

堀内 眞……25

はじめに

一 中道の顕在化と巡拝行

二 富士講中の御中道

三 中道大沢地点

四 大沢室「神殿」の奉納物

五 三浦半島の富士講社と御中道

まとめにかえて

第二部 資料編 大沢室奉納物一覧

……91

凡例

- ・本書は、平成二十八年度における、富士山御中道の調査・研究報告書である。
- ・本調査は、山梨県立富士山世界遺産センター（以下「本センター」という。）による調査・研究事業として実施した。
- ・本調査の経緯は次のとおりである。平成二十四年度から平成二十七年まで実施した山梨県富士山総合学術調査研究（第二次調査）の中で、歴史考古民俗部会が合同で行った御中道の調査成果をもとに、平成二十八年度には静岡県及び富士宮市教育委員会と共同で現地調査を行った。これらを整理したものである。
- ・本書の編集は、堀内眞（本センター学芸員）・三浦さゆり（同職員）が行った。また、執筆は、第一部の第一章を村石眞澄（山梨県教育委員会学術文化財課文化財指導監）、第二章を大高康正（静岡県文化・観光部世界遺産センター整備課准教授）、第三章を赤池栄人（本センター学芸員）、第四章と第二部の資料を堀内眞が分担で執筆した。
- ・掲載した写真は、主に調査参加者が撮影したものをを用いた。

山梨県富士山総合学術調査研究の経緯と方針

山梨県では、富士山が有する世界的な文化遺産としての学術的な価値を高めるため、富士山をめぐる自然と人との関わりを総合的に調査・研究する山梨県富士山総合学術調査研究（以下「総合学術調査研究」という）を平成二十年度以降推進してきた。このうち平成二十年度から同二十三年度までは、県教育委員会学術文化財課を事務局として実施し（以下「第1期」という）、また平成二十四年度から同二十七年まででは、山梨県立博物館を事務局として実施した（以下「第2期」という）。

第1期では、世界遺産富士山を構成する二十五か所の構成資産で育まれた信仰・芸術に関する研究（いわば「点」の研究）を実施し、この成果は、平成二十三年七月に文化庁に提出した推薦書原案を作成する段階で大いに寄与したところである。

また第2期では、平成二十五年六月に発表されたイコモス勧告等を踏まえて、富士山周辺の巡礼路の特定を通じた各構成資産間の結び付きに関する研究（いわば「線」の研究）を実施し、この成果は同二十八年一月に日本政府がユネスコ世界遺産センターに提出した保全状況報告書に反映された。

しかしながら、巡礼路の未特定区間に関する研究を継続する必要性に加えて、世界遺産富士山の価値である富士山の信仰文化が、構成資産や巡礼路を拠点にして、日本列島各地に普及・定着していった変遷に関する研究（いわば「面」の研究）は、現在のところ未だ実現していない。

これが進むことにより、「点」から「線」、「線」から「面」へと展開した富士山の信仰文化を世界に向けて情報発信し、「構成資産全体の集合としての価値や巡礼に関連する種々の部分の機能が、より理解されやすくなるような情報提供を行う」ことが必要であるとした、イコモス勧告等の指摘への対応をさらに充実すること

ができる。

また、保全状況報告書には、長期的な展望の下に調査研究を実施し、その成果を計画的・段階的に情報提供戦略等へと反映させていく必要性が記されており、世界遺産富士山の価値を明らかにする調査研究の継続が求められている。

こうした状況を踏まえて、山梨県では平成二十八年度から、同年六月に開館した山梨県立富士山世界遺産センター（以下「世界遺産センター」という）に学芸員を配置し、世界遺産センターを事務局として継続して総合学術調査研究を推進していくこととした。また、引き続き山梨県富士山総合学術調査研究委員会（以下「委員会」という）を設置するとともに、委員会の下に各専門分野別に部会を設け、各部会の部会長を務める委員会の委員及び各部会に所属する調査員が調査・研究を実施する体制となっている。

なお、第2期の事務局である山梨県立博物館、及び自然科学の分野における富士山研究の拠点である山梨県富士山科学研究所等との連携を強化し、資料・設備等の活用や学芸員・研究員を引き続き調査員に任命することにより、共同で総合学術調査研究に対応する。また、将来的には静岡県が実施する富士山関係の調査・研究とも連携を図り、情報交換や共同による調査を実施していくことを検討している。

調査・研究の実施にあたっては、委員会における協議を踏まえて、本年度から基本テーマ「富士山文化の広がりに関する調査研究」を設定し、この基本テーマのもとで各部会が個別テーマを決めて対応することとなった。

そして、調査・研究の成果は、報告書の刊行やシンポジウム・講座の開催等を通して公開するほか、世界遺産センターの企画展、及び山梨県が計画を進めている「REBIRTH! 富士講プロジェクト」と呼ばれる富士山麓を周遊するツアーの醸成等の事業活動にも随時反映していく予定である。

平成二十八年度活動記録

【委員会】

○第1回委員会

- ・月 日 平成二十八年五月二十五日（水）
- ・場 所 山梨県立富士ビクターセンター
- ・内 容 富士山総合学術調査研究の実施体制の説明
課題の整理、及び方針案の検討

○第2回委員会

- ・月 日 平成二十九年二月十八日（土）
- ・場 所 山梨県立富士山世界遺産センター
- ・内 容 平成二十八年度事業報告
研究紀要・報告書刊行とシンポジウム開催の方針検討

【自然環境部会】

○第1回部会

- ・月 日 平成二十八年十二月二日（金）
- ・場 所 山梨県立富士山世界遺産センター
- ・内 容 先行研究に係る文献リスト作成の方針を検討
文献の収集と活用に向けた整理を検討

【歴史考古民俗部会（文書班）】

○資料調査

- ・月 日 平成二十八年九月十六日（金）
- ・場 所 山梨県立博物館
- ・内 容 右左口区有文書及び長沼家資料の調査

○第1回部会

- ・月 日 平成二十八年十一月四日（金）
- ・場 所 山梨県立博物館
- ・内 容 富士山信仰関係の古文書調査及び資料解説を検討
東京都区内を中心とした富士講関係資料の情報収集を検討

○第2回部会

- ・月 日 平成二十九年三月二十二日（水）
- ・場 所 山梨県立博物館
- ・内 容 富士山信仰関係資料の概要報告
【歴史考古民俗部会（考古班、宗教考古班）】

○資料調査

- ・月 日 平成二十八年九月二十八日（水）
- ・場 所 静岡県富士宮市内

- ・内 容 御中道の現状調査

○第1回部会

- ・月 日 平成二十八年十月二十八日（金）
- ・場 所 帝京大学文化財研究所
- ・内 容 巡礼路及び信仰関係遺跡に関する調査を検討
富士北麓地域の遺跡分布調査を検討

○第2回部会

- ・月 日 平成二十九年三月十六日（木）
- ・場 所 帝京大学文化財研究所
- ・内 容 平成二十九年以降の調査計画の検討

【歴史考古民俗部会（民俗班）】

○第1回部会

- ・月 日 平成二十九年二月九日（木）
- ・場 所 山梨県立富士山世界遺産センター
- ・内 容 河口（富士河口湖町）の御師住宅所蔵の什器類等の調査を検討
藤野木（笛吹市）や船津（富士河口湖町）等の調査を検討

【有形文化財部会】

○資料調査

- ・月 日 平成二十八年十月二十七日（金）
- ・場 所 休息山立正寺（甲州市）
- ・内 容 立正寺所蔵の絵画及び彫像の調査

○第1回部会

- ・月 日 平成二十八年十月二十七日（金）
- ・場 所 休息山立正寺（甲州市）
- ・内 容 資料調査における成果の内容確認

【文学部会】

○第1回部会

- ・月 日 平成二十八年十二月十日（土）
- ・場 所 山梨英和大学
- ・内 容 過去の調査・研究の成果を活用した研究報告会を検討
地元俳諧、和製漢詩等に関する調査・研究を検討

【シンポジウム】

○「富士山と熊野三山―世界遺産となった山岳信仰の霊場―」

- ・月 日 平成二十九年二月十八日（土）
- ・場 所 富士河口湖町中央公民館
- ・主 催 山梨県立富士山世界遺産センター、富士河口湖町教育委員会
- ・講 師 石田千尋氏、時枝 務氏、辻林 浩氏

第一部 本文編

第一章 御中道の変遷

村石 眞澄

はじめに―富士山を巡る三線―

御中道は、昭和五十二年の春山遭難を機に、国土地理院の地形図から大沢越場が削除され、大沢を越えることができなくなった。また現状では、平成二十八年春の雪崩等により侵食されて御庭から大沢へ至る道が寸断され、所々に設置されていた道標も撤去されている。御中道を巡り大沢の縁に立つことすら困難になっている。

しかし御中道は、富士講の信者にとって富士山頂上に加えて修行の場として不可欠な巡拝路であった。こうした御中道について、文献や絵図で確認、地図上での判読、現地踏査を行ったのでその成果を報告しておきたい。

植物学者にして登山家であった武田久吉（一九三一）は、富士山を廻る三線とし、山頂の噴火口を巡る「御鉢廻り」、中腹を巡る「中道廻り」、麓を巡る「麓の一周」を示している。「御鉢廻り」は現在でも登頂した折に多く巡られている道であり、「中道廻り」はここで報告する御中道のことである。「麓の一周」は、内八海や外八海を巡拝する「八海廻り」と「木立境」〔1〕である。

一 御中道のもつ意義

中道巡りの成立 『富士山道知留辺』万延元年（一八六〇）（岩科小一郎一九八三）では、中道巡りは役小角が始め、古くは山の中腹を道も定めず廻ったと伝説的に語られている。「八葉九尊図」延宝八年（一六八〇）には中宮から小御岳へ至る道は描かれているが、中道はみえない。ルートが定まらず道が開かれていない段階では樹林帯ではなく森林限界を辿ったものと考えられる。

文政四年（一八二一）には、富士講村上派八世村上照山（照永力）が『富士中道』

の覚書を残している。五合の穴小屋より御中道に入る。不浄岳、乙鳥沢、なめ、と進んだ先に、須走五合の小屋がある。須山口五合にも小屋がある。宝永山、御本畑ケ、八幡石と往けば、大宮口表口五合に小屋があり、そこから大宮口を一里半下って雲切不動に着く。また同じ道を登り鬼ヶ沢、無明之橋、不動石、大沢の縁を二里半下り越場、欠込（駆込、大沢の北岸）と登り、比砂門石（毘沙門岩、達磨岩カ）、なめ沢、仏石山、うつき（空木）沢、桜沢、御庭、小御岳、和泉岳（泉ヶ滝）、五合ひも合（五合五勺の組合）で紐を結ぶように一周する（『富士吉田市史』一九九七）。

巡廻がもつ意味 明治三十七年に中道巡りを行った宮崎紋吉〔2〕の『富士中道巡』（一九〇五）によれば、中道とは中腹を巡ること、信者は御中道と唱へ一度すれば修行済とし行者と称す、故に信心堅固を要し数回頂上をせし者に非ざれば為し能はずとしてある、其中道は山を右方に左へ回るに定まって居る。（中略）頂上と中道を兼ねる者は中道を前にせぬと一周はできぬ、頂上を前にすると北口八合より東口六合へ出れば燕澤と不浄瀧を見ることが能はずと記している。

また宮崎（一九〇五）は、御師の宿坊を出発する朝、同行の富士講の組長某と共に、「中道巡りである富士の例、即ち古来の規則で、中道者は法冠とて頭に白木綿を巻き、神室に入れば、御師は中道安全を祈り不浄を祓うかくて三組盃を恭しく出す即ち余等二人ここに神酒を拝す。」宿坊を出発し、「御本社（北口本宮富士浅間神社）」で中道者として清め料二十五銭を納めている。御中道巡りの巡拝を行うものは別格の扱いを受けていたことがわかる。

武田久吉（一九三一）によれば、御中道は主として富士講が聖地乃至奥ノ院として、巡礼するもので、目出度一周を終えれば大願成就の極印を捺され、山中何処へいっても幅は利くし、意気揚々として下山が出来るという。御中道巡りは、普通の登山道と異なり、困難ばかりでなく危険も伴うため、よほどの決心がなければ巡拝できなかったのである。講社によって異なるようであるが、少なくとも数度は登頂を果たさないと巡拝する資格がないとされた。岩科小一郎（一九八三）

は、菊田式部によると古くは御師宅で「くじ引き」により許可を得て行ったものであり、御中道巡りを大願成就した行者は、御師宅に下山すると「中道成就」を行衣に刷り込んでもらい、道者の勲章となったという。また先達が白木綿を巻いた法冠を頭に戴く姿をみるが、これは本来、御中道で大沢の石の滝などの難所を越えるために備えたザイルの役割を果たすものであったという。

御中道の起点 御中道は熟達者のための巡拝路であり、その内容は多様であり主な文献の比較検討を試みる。

『甲斐国志』巻35文化十一年（一八二四）では、「不浄岳古へハ六七月ノ間山伏ノ処ニ籠リ居テ登山ノ旅人不浄解除ノ祓ヒセシ所ナリ故ニカク称スルトゾ、此ヨリ中堂廻りの道アリ、信者共山ノ中腹ヲ回ルヲ云」と記され、中堂は中道のこと、六合目下の不浄岳で山伏から不浄解除の祓いを受けた信者（富士講中）が御中道巡りに出発したという。

『隔搔録』文化十三年（一八一六）は、「中道廻りの行者、一年に百人は下らず」とある。中道は荒山を踏む修行だといひ、初心者で巡廻することはなかった。古くは穴小屋の岩間に中道巡りの受付帳が存在し、不浄祓いと巡廻の記帳をし、時計回りに不浄沢を渡って須走口六合目を目指したという（堀内眞二〇一六）。

『富士山真景之図』（嘉永元年一八四八）には、御中渡（おちゅうと）、巡り路あり、信心堅固に行者是を御役に入ると云うなり。半腹を周回する路は、経ガ岳よりも出るなり。または六合目より東に出る道があると記されている。

『富士山道知留辺』（万延元年一八六〇）では、北口五合目の窟（室）に中道巡りの行者名を記す帳あり。夫より六合五勾に至り、東の方須走口の五合目の窟を目当てに下ると記されている。

文献ではいずれも北口（吉田口）を起点とし、御中道が盛んに巡拝された頃には、不浄岳付近（五合目）で山伏から不浄払いの祈禱を受け、穴小屋付近で記帳して出発したようである。不浄岳の場所に関する情報としては、富士山吉田口六合目安全指導センターよりやや下方にある標高二三八六m三等三角点の基準点名が

「不浄ヶ岳」（3）と記載されている（口絵2 1）。また、現存しないが、この付近にかつて「六合荘」という山小屋があり、その場所が「清浄ヶ岳」と伝えられている（4）。赤色立体地図を判読すると、六合目安全指導センター付近を源頭とする沢に北面しており、地形的にも妥当な場所と考えられる。『甲斐国志』に記された「山伏ノ処」は、地形的に安定した岩尾根を背負い「五合五勾砂振」の小屋が存在した「六合目安全指導センター」付近にあった可能性が高い。

御中道の起点が北口とされるのは、当時北口が主要な登拝路となっていたことはひとつの要因であろうが、宮崎（一九〇五）が小御岳を富士山とは別嶺で神山とし、中道修行の卒業場と記しているように、小御岳（口絵2 15）の存在を欠くことはできない。火山学からみても、富士山が新富士火山であり小御岳は小御岳火山と別の火山であり、富士講者が慧眼をもっていたことが知られる。

宮崎（一九〇五）は、経ヶ岳を過ぎ、五合五勾にて中道用の麻の草鞋に履き替え、強力を伴って組長と御中道へ出発している。

小田原の「東講」先達夏目作兵衛が記録した「東登山日記簿」は、道中の飲食、宿泊の出納記録簿である。この記録によると小田原の講社であるため、東口（須走口）から山頂へ登り、東口の五合渡辺小屋まで下りここを起点として御中道巡りを行い、小御岳神社に到着しているが、小御岳では御神酒五合を供え宿泊している。他では御神酒を供えておらず、特別な扱いとなっている（小林謙光二〇〇五）。

また、御中道一周の行程については、宮崎（一九〇五）は御中道一周を自らの山行の記録を基に、一時間一里余として普通の休憩で並に巡り、十一時間を要したので十二里で大過ないと見積もっている。武田（一九三二）は一周を十三里としている（5）。

二 御中道と登山道

北口↗東口↘南口↘西口 次は北口（吉田口）、東口（須走口）、南口（須山口）、

西口（大宮・村山口）へ辿ってみた。

「富士中道」（一八二二）では、前述のごとく、不浄岳は、乙鳥沢、なめ、と進んだ先に、須走五合の小屋がある。須山口五合にも小屋がある。宝永山、御本畑ケ、八幡石と往けば、大宮口表口五合に小屋があり、そこから大宮口を一里半下って雲切不動に着く。

『富士山真景之図』（一八四八）では、北口を出発した後は、ツハクロクチ（燕口、燕沢）、不浄流し、砂走り口室（須走口の室）、赤岩ノ御前、宝永山より一里ばかり下る、ムナツキ沢、南大宮の室に出る。この辺りより雲切不動へ下るなり。

『富士山道知留辺』（一八六〇）では、中道巡りの行者名を記帳後には、夫より六合五勾に至り、東の方須走口の五合目の窟を目当てに下り、須山口六合目の下を通り、宝永山の頂に登る、此所を牡丹畑という。夫より左の方に下り宝永の焼出の口を通り、下の窪き処に下りる、此処に十二神の窟といえるあり。この洞窟を拝してまた左の方へ下りて、下の方の山の西にいで、村山口三合五勾に至る。

宮崎の『富士中道巡』（一九〇五）では、五合五勾を出発し、燕沢、柳沢、不浄滝を経て、東口五合目の室に近づく、強力は「金剛杖を掲げてくれという。その故は室の傍は不浄ありと、中道杖は神聖にして冒すべからず」と御中道巡拝に用いる中道杖が特別な扱いを受けていることを記している。さらに不動沢を越え、南口五合目の室の前を通り、登って六合目の室で休憩し、宝永山の馬の背状の頂上、十二の薬師を眺め、牡丹畑を経て、西口六合目の室にて宿泊し、室の中の雨水を溜める桶について記している。

江戸時代の記録ではいずれも、西口の室から三合五勾もしくは雲切不動へ下り、同じ道を辿って登っている。三合五勾には室があり、ここに宿泊していると思われる、この室もしくは室の場所を雲切不動と呼んでいると思われる。しかし、明治三十七年に巡った宮崎は西口六合目で宿泊している。

武田（一九三一）によれば、牡丹畑というのは火山弾を牡丹の花びらに擬して呼んだものであるが、この方面から採集に来て、皆運び去ったので今は見られな

い。また十二神の窟は、宝永山の火口の北壁は崩壊により現れた幾条かの山骨を、薬師仏の十二神将に擬し十二薬師として礼拝したものという。

平成二十八年九月二十八日の踏査では、静岡県庁と富士宮市教育委員会の合同調査により江戸時代の村山口五合目に相当すると思われる石碑（口絵2 2）と御中道小屋跡（口絵2 3）を森林限界で確認した。

また富士山スカイライン道路の終点五合目レストハウスの北西の樹林帯の中に天水を溜める桶四個と石垣が残る小屋跡（口絵2 4）を確認した。この小屋跡は旧三合五勾の室の可能性がある。

西口→大沢 『富士山真景之図』（西口から）西に巡れば、ムメヤウノ（無明の橋）があり、大きな岩が谷間に挟まれた石をいう。少し下れば、不動石（岩）がある。これは大岩石へ不動の尊像を彫りつけてあるもので、これより小松の木立を二里ばかり下る。そこが大沢淵である。大沢の御前、鳴沢ともいう。この場所を二ノ沢（二ノ越か）という。山の上は釈迦ノ割石と剣ノ峯の間より駿州富士郡の広野まで一条の凹沢が流れて、大きな岩や砂石が一緒に転げ落ちる音は雷鳴のごとく、なお例えるに足りない。

『富士山道知留辺』では、其所（西口三合五勾）より登りて、五合目より大沢の方を目当てに行く。この間に鬼沢というあり。又天の浮橋という石橋あり、これは数十丈の谷の上に渡せる一つの大石にて、天造の石橋此道の奇観也。此所の下の方冠岩という大岩あり。姥が懷という処は洞穴三つあり、一つは二十人をいえる、二つは七、八人をいえる、風雨のときにこの道を来る者宿る所なり。夫より大沢役行者の一の渡り不動岩という所に出づ。此所越えがたき故に、下の方木立迄下りてこの所をこし、毘沙門岩を目当てに登る。

東講「東登山日記簿」の明治十七年の記録では、大宮口→大沢東方茶屋→大沢越え→大沢茶屋→小御岳（泊り）と記されている。とくに注目されるのが、「一、金五銭 大沢東方茶や 茶代」「二、金五拾九銭 大沢石室茶や 中食茶代共」と北岸の大沢室以外に南岸に茶屋があったことを示す記録である（小林謙光二〇〇

五)。

『富士中道巡』(一九〇五)では、西口六合目の室で、昨日ひとりの信者が強力を伴わず北口より中道を巡り宿泊し、これより頂上へ登りまた北口へ下る者を見かけている。中道の東半分を巡る半中道でも行者になれば丸中道は近年少なくな行者で、丸中道の振をする」と記している(6)。

また『富士中道巡』(一九〇五)では、西口から、青滑沢、行者の石の下、金明水、鬼ヶ沢、桜沢、姥ヶ懐を経て、小山の室(大沢北岸に現存する大沢室)まで二里半の枯渥木の中に倒壊した室の腐朽した木材があり、これを「大沢の室」としている。さらに、五、六階の梯子を立て掛けた「無冥の橋」、不動岩、これより二十間ばかり上へ進むと、旧通路の「一ノ越」(口絵2 5)であり、大沢対岸の二十丁も先の崖上に「達磨石」を望む、強力は「頂上の神、中道の神、此の厄場を無難に超さしめ給へ」という意味の祈禱を上げる。「一ノ越」が陥落して更に開きし通を二ノ越と名付けたところ、またも崩壊して今は是れより二里下りて三ノ越であるという。不動岩へ戻り、唐松の鬱蒼とする樹林の中を中道中一に険しい場所を下り、石滝へ出口である小さな平地(口絵2 6か)に至る。石滝は、三百メートルばかりの幅で、砂はぞろぞろ落ち、焼塊のごろごろ落ち、大小数万の角石が推し広がりて今にも流下せんばかりにふわふわしているとあり、石滝は大沢崩の谷底の落石地帯のことをいうようである。これを渡り対岸の「無冥の橋」と同様の梯子に登り新道を辿り、右側の碑(口絵2 7)には「道にこる山は眞のひとずちに ふみわけ初し富士の中道 金山 清新道 明治十三年 野州上彦間 金山 清」と刻まれている。ここよりわずかに登ると半腹中道の別山「小山」(口絵2 8)に至ると記している。

明治三十七年に巡った宮崎は「姥ヶ懐」と「無冥の橋」の間に室跡があることを記しているが、これは東講の明治十七年の記録にある「大沢南岸の茶屋」にあたるものと考えられる。

武田(一九三一)は昭和五年に御中道を巡っているが、無明の橋はなく天ノ浮



上 大沢一ノ越 南岸から(武田1931から転載)



上 大沢一ノ越 北岸から、左手に立つのが達磨石、右手のスカイラインの突出が不動石、小林義秀(武田1931から転載)



右 達磨石 大沢一ノ越の北岸(武田1931から転載)

橋などという棧道（絵葉書（7））が出来たとしている。一ノ越には兜石と称する巨石があり、沢の中程上部には毘沙門石があり、又不動石などと呼んだ拝所もあったのだが、年一年と崩壊する為め、今は定かに判明せず、只右岸に達磨石（写真参照）が僅かに余命を存して居ると一ノ越付近の崩壊が徐々に進んでいることを記している。

御中道巡りの核心部である大沢越えであるが、大沢の崩壊が徐々に進み、その状況は判然としないが要点をまとめてみたい。この付近は大沢の崖の断面を観察すると、砂礫の堆積層がありその上に溶岩が流れてそのまま固まった溶岩層があり、またその上に砂礫層が堆積してさらに溶岩層が形成されて構成されている。

「無明（無冥）の橋」あるいは「天の浮橋」という天然の石橋は、砂礫層が侵食を受けて流出し岩盤層が橋状に残ったものと思われる。同様に『富士山道知留辺』の「姥が懷」は、やはり砂礫層が流出して岩盤層が底状になり雨露をしのげる岩陰になったものと思われる。宮崎（一九〇五）と武田（一九三一）には、「無明の橋」も「姥が懷」も記録がなく、あるのは五、六階の梯子を立て掛けたものとなっている。この「無明（無冥）の橋」あるいは「天の浮橋」で大沢の手前の枝沢を越え、一ノ越の目印となっている不動岩に至っている。宮崎の記述では不動岩から少し登ったところが「一ノ越」であり、大沢と対面し、北岸の達磨石を望んでいる。しかし、武田（一九三一）は、不動岩はなく達磨石のみが残っていると述べている（写真参照）。この達磨石にしても、『富士山真景之図』の絵図では、大沢を北岸から描き、南岸の不動石に対して北岸で対峙するのが毘沙門石であり、その下にカブト石、ダルマ石の順に大沢の中に三つの岩峰が描かれ、宮崎（一九〇五）と武田（一九三一）がみた達磨石とは異なるようである。沢の崩壊により、

岩峰も崩壊し、また新たな岩峰が生まれ、名称も変わっているものと思われる。さて大沢には一ノ越、二ノ越、三ノ越と三つの越場があったとされる。今回検討した文献では、いずれも「一ノ越」は通行困難な古い越場となっている。『富士山真景之図』では不動石から小松の小立を二里ばかり下って「大沢の淵」「大沢の

御前」が「二ノ沢（越か）」となっている。『富士山道知留辺』では「一ノ越」を下った所を通行しているが、名称は記されていない。『富士中道巡』では、「一ノ越」が陥落して更に「二ノ越」を開いたがこれも崩壊し今は二里くだった「三ノ越」を通行していると記している。ところが、武田（一九三一）は、今の越場を「二ノ越」とし、ここを「三ノ越」だというものもあるがにわかに信じがたいとしている。また宮崎（一九〇五）は、石滝を渡り対岸の「無冥の橋」と同様の梯子に登り新道を辿っているが、この新道ができる二五、二六年前には、達磨石まで三里登って小山の室へ出たという。石滝を通行する越場は同じでも大沢の斜面を登る道筋には変遷があったことがわかる。二ノ越と三ノ越はこうした若干の違いであり、宮崎が三ノ越を渡り金山新道を通行していると記していることからすると、三ノ越の位置は現在の大沢崩の実験工事部分までは下らないと考えられる。

大沢、小御岳 『富士山真景之図』では、これ（二ノ沢）を越して一里ばかり登れば大沢ヲサツケ（お授け）の水があり、桶に杖水が垂れてたまる。この水は息継ぎ水という。この場所を鬼力沢という。ナメ沢には小木があり、山上より麓まで通り一石と覚える。赤沢仏心の谷は皆仏の形の岩である。万年雪掘り。御庭樅山の雪水。小御岳の杜へ出る。それより横吹、中宮へ下山する。六合目より中道に入って、天気によって二日位で巡り出られる。吉田師職より食物の用意の品々があるが略すと記されている。

『富士山道知留辺』では、大沢を越し、夫より木花沢、仏石沢あり、この沢一丁ばかりの所、山上より山下まで大小の石みな神仏の形を成す石なり、空木沢といえるに至る、此の所下の方神の御庭と称する所也。それより小御岳に出て下山す。

『富士中道巡』（一九〇五）では、小山の室に入りうどんを食べ休憩している。この室は、元は大宮持を今は船津持となる。北口八合目まで甲州持、その他は皆駿州持なれど一ノ越崩落後は通路の不便にて依って小山は甲州の手に帰した。滑沢、赤沢、木の花沢、神の庭（現在の御庭付近か）、小御岳山到着。中道杖に「中

道大願成就」の焼印を押し、付いた土が落ぬように白紙で包み、これよりは逆さに突くという。さらに、脱いだ麻草鞋を強力は杖へしっかりと括りつけて、頂上杖と異なりいずれの家に赴くも座敷へもって床の間に置けるものという。ここに中道巡りは完了し、元の五合五勺へ戻れば全くの循環なれど、これより登山をするのであらざれば、その要なし、下山には五合目へ出るか、閑道によるか二途であるとして記している。宮崎はここから頂上を目指そうとするが、午後四時と時間が遅く強力らに引き止められている。前述のように御中道を巡拝後に頂上へ登拝する場合があったようである。

まとめ―御中道の判読―

御中道について、ここまで主に文献でから検討を行ってきたが、ここでは地図情報の判読と現地踏査の成果から検討を行いたい。

地形図は、最新の国土地理院発行の電子地形図二五〇〇を基本として、大日本帝国陸地測量部発行の明治二十年測量の明治二万分の一地形図「富士山」、昭和三年測量の二万五千分の一地形図「富士山」、「須走」などを重ね合わせた。さらに現地踏査の情報を加味して赤色立体地図の判読を行い御中道のルートを示したのが「口絵2 富士山御中道関連地図」である。

赤色立体地図は、レーザー測量で得た一メートル四方のメッシュの平均標高を基に立体表示したものであり、条件によっては数メートルの凹みまで判読可能なものである。この富士山域で面的に得られるデータとしては最も精度が高いものである。

現地踏査は、山梨県側の御庭奥庭から大沢室については、平成二十四年八月二十一日と同年十月二十二日、平成二十八年十月十二日、また静岡県側の新富士宮口については、平成二十八年九月二十八日に踏査を行った。

赤色立体地図の判読は現状の道の痕跡を把握したものであり、当然ながら古い道の痕跡には限らない。そこで、旧版地形図に表記された道を赤色立体地図上に

投影して比較検討を行った。昭和三年測量二万五千分の一地形図から判読した道は、大沢崩の南側以外は赤色立体地図から判読した道と概ね一致するため、大沢崩南側のみを表記した。富士山の東側半分は明治二万分の一地形図、昭和三年測量二万五千分の一地形図、昭和四十六年測量二万五千分の一地形図とも概ね同様であり、地表面は砂礫が主体で、古い道の痕跡は残り難いが赤色立体地図では判読できた部分では、明治二万分の一地形図の道と概ね一致する。富士山の南側の宝永山付近では赤色立体地図から判読した道跡と明治二万分の一地形図の道は若干異なるが測量誤差の範囲内でありほぼ一致する。

富士山の南西の西口（大宮・村山口）から大沢に至る部分は、道の変遷が見られる。明治二万分の一地形図の道は、西口六合小屋跡（口絵2 3）から「一ノ越」（口絵2 5）を直接目指して等高線に沿って水平に進み、大沢の縁に出てから大沢に沿って下降している。先に述べた『富士山真景之図』、『富士山道知留辺』、『富士中道巡』では、「一ノ越」付近で大沢の縁に出て、「一ノ越」を訪れてから、大沢に沿って下降し「二ノ越」ないし「三ノ越」で大沢を渡ったという記述と一致する。これに対して昭和三年測量の地形図の道は、大沢の手前約一キロメートルから明治二万分の一地形図のルートと離れ「二ノ越」（口絵2 6）に直接向かっている。昭和五年に巡った武田久吉は、昔の御中道は、四、五年前迄の地形図に出ている様に、大沢に左岸約二八〇〇メートル辺の所に通じ、ここから左岸の上を真直に今の越場に下ったもので、この間がまた中々困難であつたらしいと述べている。まさしく武田は昭和三年測量の地形図の道を通って二ノ越に至っている。

「大沢御前」（口絵2 6）は赤色立体地図上で人工に造成された平坦な場所である。「大沢御前」もしくは「雲切不動」と言われるところと思われる。現在大沢室にある「雲切不動」（石造物三号）が本来祀られていた場所と推定される。この石造物は、大沢の崩壊の進行により鳥居とともに沢へ転落したものが、対岸の大沢室に運び上げられたという（篠原二〇一六）。6から7が、前述のように宮崎が三ノ越、武田が二ノ越とする場所である。11が「一ノ越への分岐」と伝えられる。10から11

の道は、大沢室を経由せずに、大沢の北岸の縁に達する古い道を踏襲すると思われる。平成二十四年八月二十一日の踏査では踏み跡程度となっていた。

富士山の北側の小御岳神社（口絵 2 15）から御庭へ至る道については、昭和三年測量二万五千分の一地形図、昭和四十六年測量二万五千分の一地形図と赤色立体地図で判読できるルートがほぼ一致する。しかし、これらに対して明治二万分の一地形図では、より標高の高い部分にルートが描かれている。この部分については明治二万分の一地形図を現行の地形図に当てはめる目標物が少なく、地図上の誤差である可能性もあり今後の検討を要す。

踏査前には御中道のルートは、巡拝するものが限られ通行による道の浸食による影響も比較的少なく、赤色立体地図での判読は困難と思われた。しかし、現地踏査により赤色立体地図上でも辛うじて判読可能であることが分かって来た。そして、旧版の地形図を最新の地形図に補正して重ね合わせて比較することで、御中道のルートを図示することができた。今後は、小屋跡や石碑、遺物出土位置などの情報をさらに加味して、さらにルートの精度を高める必要がある。

1…不浄ヶ岳 2…石碑 3…御中道小屋跡 4…三合五勺小屋跡 5…一ノ越（明治二万分の一地形図から記入） 6…「大沢御前」、「雲切不動」と伝えられる平坦な場所。 7…溶岩の露頭に刻まれた金山清新道の明治十三年の歌碑（石造物一号）（篠原二〇一六） 8…大沢室（小山の室） 9…一ノ越 達磨石があったところ（明治二万分の一地形図から記入） 10…石標「見晴台 標高二三八二メートル」がある大沢の縁 11…一ノ越への分岐。大沢室へ直接至る道と大沢崩を目指す道の分岐。 12…滑沢 13…小屋跡、炭小屋と伝えられる 14…御庭山荘跡 15…小御岳神社

註

（1）武田久吉（一九三一）は「木立境」については、昭和初期でもほとんど耳にせず、裾野の原野とその上の森林地帯との境を巡る道であり、路らしいものとしてなく、荊棘を押し分けて行くほか無かったことであろうと述べている。「木立境」の巡拝の存在を示すものとしては、若彦路の天神峠（鳴沢村）近くに立つ文政十年（一八二七）造立の石碑が知られる程度である（山梨県教育委員会一九八六、櫛原功二〇一六）。

（2）富士講信者ではなく、富士山頂上へ登った経験もなく、富士山の初登山で、東京の講社の組長某に促されたとして明治三十七年に御中道巡りに同行しこの記録を残している。富士講信者でなく客観的な視点となっており興味深い。

（3）国土地理院のHPの「基準点成果等閲覧サービス」に記載の基準点ロード「R3538056901」の三等三角点として名称が確認できる。電子地形図二万五千分の一にも三角点が表示されている。

（4）不浄ヶ岳を清浄ヶ岳と呼び変えて、第二次世界大戦後は、床に御座を敷き壁に柵を作り付けにして焼印を推すような小さな小屋だったという（堀内眞二〇一六）。

（5）半時（約一時間）歩いた距離を一里とするものであり、里数で所要時間が判るという単位と思われる。平地であれば、ヒトの歩行といわれる速度時速四キロメートルから一里＝三九二・七メートルに近いが、山道では傾斜や歩行の難易度が加わり、その距離は増減するものと思われる。

（6）堀内眞（二〇一六）によれば、吉田口では、御中道を時計回りに一周することを「本（丸）中渡」、富士宮口を五合目まで下山し大沢を越えて小御岳から吉田口に戻るように御中道を半周するのを「半中渡」、吉田口や須走口では、御中道を半時計回りに逆行して大沢まで行つて戻れることを「裏中渡」と呼んだとし、神奈川県内の講社の巡拝を取り上げている。

（7）山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会（二〇一六）「口絵5」「富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書」二 本文編

引用文献

- 岩科小一郎一九八三 「御中道大行」『富士講の歴史』江戸庶民の山岳信仰 名著出版 p421—p426
 岡田博一九八五 『富士山真景色之図』長島泰行筆画 名著出版
 櫛原功二〇一六 「若彦路」「富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書」二 資料編
 山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会 p45—p52
 小林謙光二〇〇五 『東講「東登山日記簿」（万延元年）に見る富士登拝、中道巡り及び八海巡り（解説と考察）』『富士山文化研究』第六号 p33—p55
 篠原武二〇一六 「大沢室 周辺の石造物」『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書』二 資料編
 堀内眞二〇一六 「御中道と御中道巡り」『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書』二 本文編
 山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会 p155—p157
 富士吉田市史編さん委員会一九九七 「富士中道」「富士吉田市史」資料編第5巻 近世III
 宮崎紋吉一九〇五 『富士中道巡』
 武田久吉一九三一 「富士を廻る三線」『日本地理体系 富士山』改造社 p45—p58
 山梨県教育委員会一九八六 『若彦路』山梨県歴史の道調査報告書第八集

第二章 静岡県側の御中道調査の概要

大 高 康 正

はじめに

日本山岳会創設に関わった武田久吉氏は、昭和五年（一九三〇）八月に御中道^{おちゅうどう}巡拝を行っているが、御中道について「富士の中腹、五合目六合目あたりを通じて一周する道を御中道と称へ、主として富士講が聖地乃至奥ノ院として、巡拝するもので、目出度一周を終れば大願成就の極印を捺され、山中何處へ行つても幅は利くし、意気揚々として下山が出来る。」と記している（１）。

また「その身支度も普通の登山装束と異り、頭には宝冠と称する六尺の白布を巻き、手には七尺の中道杖を握り、足には麻の草鞋を穿ち、本来は山麓吉田の浅間神社に入山届をして万一の場合に備へ、十三里と言はれる道を、通例途中一泊で一周する。（中略）中道は聖地である。故に其所を突いた杖の先は小御嶽に達すれば封じられて、最早普通の登路上に使用されぬ様になる。そのみならず、僅か二・三箇所過ぎない室の傍を通る時でさへ、先達の掛声「杖を上げ！」に応じて、道者は皆杖を不浄な地に触れしめない用意をする。又麻の草鞋も小御嶽で履き代へられて、恭しく杖と共に家に持ち帰られ、床の間に安置される光栄をも有するのである。」とし、御中道廻りの信仰上の特殊性についても触れられている。

御中道は、角行系の富士講においては富士山頂へ登拝するよりも大行とされており、三度以上の登拝を果たしたもののしか許されなかった巡拝と言われる。しかし、その経路については、富士山の幾筋もの沢をまたがって進むために、各年代でかなりの変遷がみられている。さらに昭和四十七年（一九七二）の洪水による大沢の大崩壊により、大沢崩^{おおさわくずれ}を渡ることが困難となり、昭和五十二年（一九七七）に通行止めとなっている。その他にも難所のため崩落箇所は多く、一部遊歩道と

して利用されている区間を除いては、特に整備はされていない。

本稿は、静岡県側の御中道調査として、大宮・村山口登山道（富士宮口登山道）から大沢崩の区間に関する主として近代以降の内容をまとめた概要報告である。まずは御中道の行程について記された文献を確認していきたい。尚、以下各登山口の合目表記は、現在の合目表記ではなく、各登山口に新五合目が開かれる以前の旧の合目表記を記すこととする。

一 御中道の行程について

江戸時代の天保六年（一八三五）以前に成立した新庄道雄による地誌『駿河国新風土記』にも「中道廻」に関する行程が記されている（２）。その部分を引用すると「北口五合の室に中道廻りの行者の名を記す帳あり、夫より六合五勾目に至り須走口六合の下を通り宝永山の頂に登る、此所五反畑と云、夫より左の方に下り、宝永の焼出の口を通り、下の窪き所に降る、此所に十二神の窟といへるあり、此洞穴を拝して又左の方へ下りて、下の方小山の西に出、村山口三合五勾目に到る、其所より登りて五合目より大沢の方を目当に行、此間に鬼ヶ沢と云あり、又天の浮橋と号す石橋あり、此は数十丈の谷の上に渡せる一つの大石にて天造の石橋此道の奇観なり、此所の下の方、冠石と云大岩あり、姥懐といへる所洞穴三つあり、一つは三〇人を容る、二つは七・八人を容る、風雨の時此道に来るものの宿る所なり、夫より大沢役行者、一の渡不動岩と云所に所越がたき故、下の方にて此沢を越て毘沙門岩にのぼる、夫より木花沢、仏石沢あり、此仏石沢といへる所、一町余りの所、山上より山下まで大小の石、みな神仏の形をなさずといふ石なし、空木沢といへるにいたる、此所下の方、神の御庭と称する所なり、神庭の事、春登法師の記に委し、下にあり、夫より小御嶽に出て下山す」とある。

昭和二年（一九二七）刊行の井野辺茂雄氏『富士の歴史』には「中道廻りもまた富士登山に伴う習俗であった。即ち山腹を一周するのである。即ち吉田口の六合五勾から、須走口の五合目を目当にして下り、須山口六合の下を経て、宝永山

の頂に登る。此所を五反畑といふ。夫から左の方に下り、宝永の噴火口を過ぎ、其下の窪地へ出づ。こゝに十二神の窟と称するものがある。此洞穴を拝する後、また左の方に下りて、大宮・村山口の三合五勺に達し、更に再び登りて、五合から大沢を目当に行く。其間に鬼ヶ沢や天浮橋といへる石橋などがある。石橋は数十丈の谷に渡せるもので奇観であった。其下に冠石といふ大きな岩や、姥懐といへる洞穴三つなどあつて、洞穴は、一つは二〇人、他の二つは七・八人を容れることが出来る。風雨の際の避難所になつて居た。それより大沢・役行者渡り・一の渡り・二の渡り・三の渡り・不動岩など称するは此附近にあり。険阻にして足を下し難きが故に、約三里ほど下の方に出で、アサミノ平という所を越えることになつて居た。こゝには岩の間に桜が多く、六月の始め漸く花の盛に達するのである。かくて毘沙門岩に登り、木花沢・仙石沢・空木沢・神の御庭を過ぎて、小御嶽に出で、下山するのである。」と御中道の行程が記されている(3)。

先述した昭和五年(一九三〇)八月に御中道巡拝を行った武田久吉氏は、御中道の行程について以下のように記述している(4)。記述内容は細かいので、以下簡条書きにて整理することにした。

- ① 御中道に向かうには、吉田口六合から左に入る。不浄流ふじようながしと呼ばれる沢を越すことになるが、昔は此所に山伏が居て、不浄を祓ひ、巡拝者を改めた。
- ② 吉田口六合から須走口五合五勺の間は、約二四四〇メートルから約二七八〇メートルまで砂礫地を上ることになる。不浄流の次に燕沢を越える。
- ③ 須走口五合五勺から御殿場口新六合の間は、平坦な砂礫地を推移する。
- ④ 御殿場口新六合から大宮・村山口(富士宮口)五合の間は、宝永山を通過するが、宝永第一火口底は約二四〇〇メートル程で牡丹畑と呼ばれ、火口の北壁を「十二薬師」と呼んで巡拝者の拝所のひとつとなつていた。
- ⑤ 大宮・村山口五合の石室(第二章三で後述)を出発すれば大沢北岸(右岸)の助け小屋(大沢休泊所、第二章三で後述)まで三里の間、休泊する場所はない。赤沢、手杖流しやうじようながし(主杖流、ナメの沢)を越す。手杖流の名称は、食行身

祿が杖を流したという伝承によるらしい。

- ⑥ 手杖流を越え、鬼ヶ沢、桜沢を過ぎると道は下り気味になつて、天ノ浮橋と呼ぶ棧道を下ると大沢南岸(左岸)の拝所に出る。ここには雲切不動が祀られており、不動に念じてから、大沢の落石の合間を見て越していく(武田氏はこの越場を一ノ越と呼んでいるが、第二章二で触れる二ノ越を指すか)。
- ⑦ 鬼ヶ沢から大沢左岸の一ノ越(二ノ越カ)の間には無明橋を通つたというのが既になく、代わりに天ノ浮橋が出来た。一ノ越(二ノ越カ)には兜岩と称する巨岩があり、沢の中程上部には毘沙門岩がある。かつて不動岩と呼んだ拝所もあつたが崩壊のため判明せず、右岸の達磨岩が僅かに余命を存している状態である。

⑧ かつての御中道は、大沢左岸約二八〇〇メートル辺りに出て、ここから真直ぐ下つて、同じ越場を越していたようである。

⑨ 大沢の二ノ越(第二章二で触れる三ノ越を指すか)の越場を越え右岸に出て二・三丁上ると「助ヶ室」(第二章三で触れる大沢休泊所)に到着する。

⑩ 大沢以北は、前谷、青滑沢、仏石沢を越え、御庭に到着する。御庭付近を東に辿れば御中道であるが、側火山の奥庭を経て精進口登山道三合目にも、西へ新道を下れば二ツ山にも行くことができる。

⑪ 御庭から御中道を東に辿ると小御嶽に到着する。小御嶽付近を西北へ下れば精進口新道となるが、御中道は東へと辿り吉田口五合目に到達し、一周となる。

御中道の行程については、この他にも土屋勝太郎による明治十年(一八七七)刊行の『富士之志を里』、上木浩一郎による明治三十一年(一八九八)増訂再版の『富士登山案内』においても記されている(5)。

ここで参考までに、御中道巡りの各行程の古写真を使用した『富士山中道真景』絵葉書を掲載したい(6)〔写真1～10〕。この絵葉書は袋に「富士山中道真景」と印刷され、計一〇点入っているが、発行年と発行元は記されていない。但し、各



大 沢 (道中山士富)

〔写真5〕『富士山中道真景』絵葉書「大沢」



獅子岩 (道中山士富)

〔写真1〕『富士山中道真景』絵葉書「獅子岩」



大 沢ノ石滝 (道中山士富)

〔写真6〕『富士山中道真景』絵葉書「大沢ノ石滝」



宝永山十二ヶ薬師 (道中山士富)

〔写真2〕『富士山中道真景』絵葉書「宝永山十二ヶ薬師」



三柱室三ヶ神社 (道中山士富)

〔写真7〕『富士山中道真景』絵葉書「タスケ室三柱神社」



鬼ヶ沢 (道中山士富)

〔写真3〕『富士山中道真景』絵葉書「鬼ヶ沢」



富士神園 (道中山士富)

〔写真8〕『富士山中道真景』絵葉書「富士神園」



天ノ浮橋 (道中山士富)

〔写真4〕
『富士山中道真景』
絵葉書「天ノ浮橋」

絵葉書の注記は横書きで右から左へと書かれている。文部省の指導で昭和十七年（一九四二）以降に徐々に横書きは左から右へと定着していくようであるが、ひとまずこの絵葉書は昭和初期以前のものであると考えることはできよう。「写真1〜10」は、基本的には御中道巡りの順番に番号を付し並べたが、「写真10」のみ具体的な比定地の特定が困難なため、最後にまわした。「写真5」は絵葉書の注記に「大沢」とだけあって大沢のどの場所かはわからないが、あるいは武田氏の御中道行程⑦の「一ノ越」付近にあった不動岩かも知れない。「写真7」は絵葉書の注記に「タスケ室三柱神社」とあるが、「タスケ室三柱神社」の誤植であろう。「写真8」の「富士神園」は御庭を指しているよう。



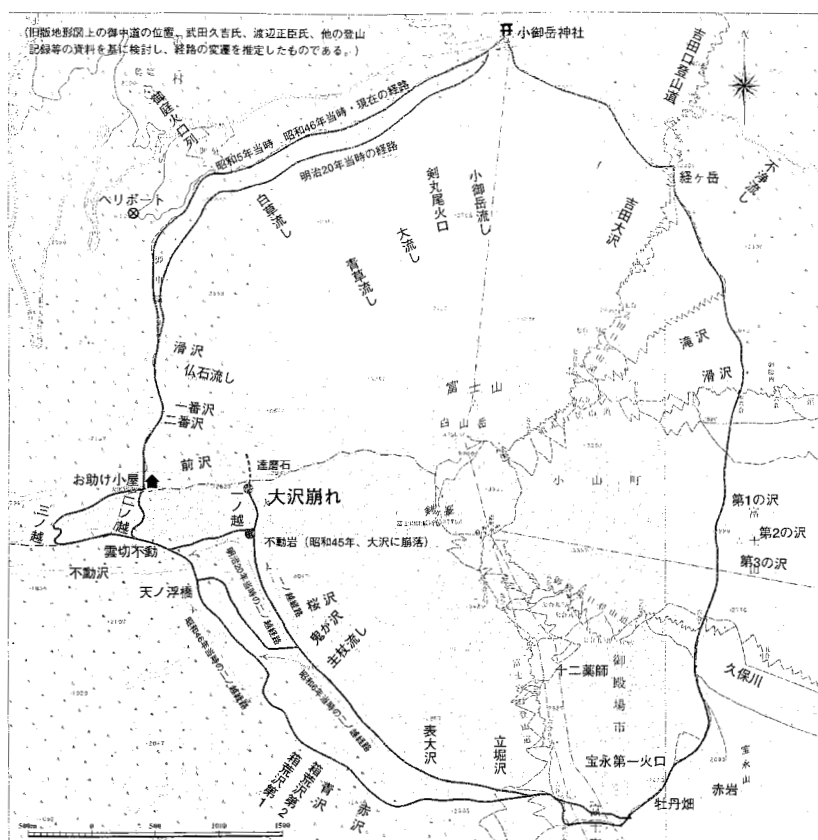
〔写真9〕『富士山中道真景』絵葉書「小御嶽神社」



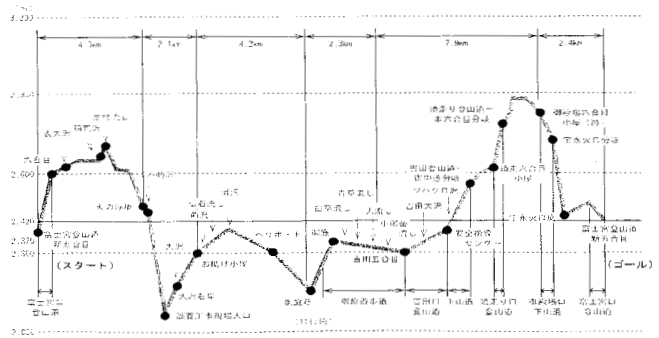
〔写真10〕『富士山中道真景』絵葉書「中道勝景」

二 御中道における大沢の越場の変遷

以上のような御中道の行程の中で、大沢崩を渡ることが最大の難所となっていたようである。大沢崩を渡る通過地点を特に大沢の越場と呼んでいたようであるが、この越場は、江戸時代の終わり頃から昭和にかけて、大沢の崩落に伴いその位置を変遷している。この変遷について、国土交通省富士砂防事務所から出されている冊子、報告書を参考に、その他の文献を比較して整理するが（⑦）、〔図1〕「御中道経路の変遷図」・〔図2〕「御中道経路の断面図」もこの冊子に掲載されているものを転載した（⑧）。この図中において、大宮・村山口旧五合から大沢の



〔図1〕 御中道経路の変遷図（富士砂防事務所作成）



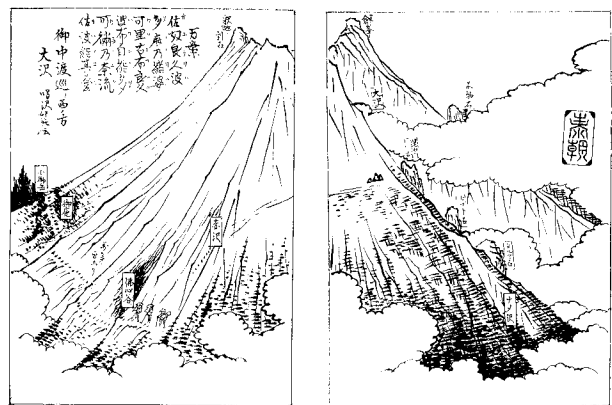
〔図2〕御中道経路の断面図（富士砂防事務所作成）

越場へと至る御中道廻りの経路について、一ノ越経路、明治二十年当時の二ノ越経路、昭和六年当時の二ノ越経路、昭和四十六年当時の二ノ越経路という四つの経路が記されている。大沢の越場の変遷に伴って、御中道の経路自体が変わっていることになるが、残念ながら経路の変遷に関して根拠とした出典が明記されていないので、あくまで参考資料として捉えておきたい。大沢の越場の変遷に関して、本稿で根拠となる出典が確認できたものについては本文に掲げた。

（1）「一ノ越」

江戸時代後期以前の大沢の越場で、標高二八〇〇メートル付近を通過していたルートである。この付近の大沢左岸には不動岩と呼ばれる高さ十五メートル程の巨岩があり、右岸の達磨岩と呼ばれる高さ七メートル程の巨岩という二つの巨岩が「一ノ越」の目印となっていた。実際、嘉永元年（一八四八）に江戸鉄砲洲の富士講、月三講先達の長島泰行による『富士山真景之図』の「御中渡巡り西ノ方 大沢」〔図3〕には、左岸に不動石、右岸に上から毘沙門石、カフト石、タルマ石といった巨石が描かれている（9）。但し、第二章一で触れた江戸時代後期の天保六年（一八三五）以前に成立した『駿河国新風土記』に記される御中道の行程は、「二の渡不動岩と云所に出所越がたき故、下の方にて此沢を越て毘沙門岩にのぼる」とあり、十九世紀初めには既に「一ノ越」を利用することが困難だったようである（10）。

昭和十七年（一九四二）八月に御中道の「二ノ越」を大沢右岸から左岸へと渡り、そのまま左岸を剣ヶ峯へと直登した日本ハイキングクラブ会員の渡辺正臣氏



〔図3〕『富士山真景之図』「御中渡巡り西ノ方 大沢」

の記録によると（11）、「二ノ越」付近の左岸を一〇〇メートル程登ると御中道は水平な道となり、やがて新不動岩があつて、さらに天ノ浮橋へと至っている。新不動岩は越場が「一ノ越」から「二ノ越」へと移った際に新たな目印として設定されたものということで、この時期まだ「一ノ越」付近には『富士山真景之図』にも登場する初代の不動岩が存在していた。しかし、昭和四十五年（一九七〇）春の大沢崩の崩落の拡大に伴って崩壊している。

渡辺氏はこの際に、天ノ浮橋から「一ノ越」方面へと経路を採っている。天ノ浮橋の手前には上井出青年団が登山した際の記念の木碑があったようであるが、そこを「一ノ越」方面への登り口とし天ノ浮橋を渡り、さらに途中「白骨と化した、無妙の橋と呼ばれる梯子」を確認し、この梯子の掛かっていた断崖を下りて少し進んで、不動岩へと辿り着いている。渡辺氏は不動岩の基部に「中道登山記念」と記された石碑が立っていた。風雪に傷めつけられているので、年号ははっきりとは読みとりにくかったが、明治の初期のようで、熱心な信者が、何回か通った記念に建てたものと思う。」と、不動岩の傍らに御中道登山記念碑が建てられていたことを報告しているが、おそらくこの記念碑も不動岩の崩壊に巻き込まれ、大沢底部に落ちてしまったことであろう。

（2）「二ノ越」

大沢崩の崩壊の拡大に伴い、「一ノ越」付近の大沢左岸を真直ぐ標高二三〇〇メートル付近まで下り、そこから通過する経路となった。江戸時代後期には使わ

れだした経路と思われる。第二章で武田久吉氏の御中道巡拝に関する記述を整理した中で(⑧)、かつての御中道は大沢左岸約二八〇メートル辺りに出て、ここから真直ぐ下って同じ越場を越していたようであるとした部分は、この「二ノ越」を越場とする経路を説明している。但し、武田氏はこの経路は採らず、鬼ヶ沢から「一ノ越」付近へは向かわずに直接「二ノ越」付近へと向かう経路を採っている。また昭和二年(一九二七)刊行の『富士の歴史』で井野辺茂雄氏が記述している経路も、鬼ヶ沢、天浮橋から大沢左岸へと至っており、武田氏同様に鬼ヶ沢から「一ノ越」付近へは向かわずに直接「二ノ越」付近へと至る経路を指しているものと思われる。

「二ノ越」の大沢左岸には雲切不動が祀られているが、当初は「一ノ越」の大沢左岸にあった不動岩が同様の信仰を担っていたものと思われる。しかし越場が「二ノ越」へと下がった時点で、付近の左岸に雲切不動が祀られるようになったのではないだろうか。先述した昭和十七年八月に御中道の「二ノ越」を大沢右岸から左岸へと渡った渡辺正臣氏の記録には、「緊張した一〇〇メートルばかりの横断は、五分ほどで左岸の「雲切不動の拝み場」に到着した。雲切不動は役の行者も拝んだ神といわれている。ここには簡素な鳥居と祭壇がある。富士宮口六合目からお中道を来た富士講の人たちは、ここでお祈りしてから、大沢を渡るのである。」とあり、雲切不動は拝所のみではなく、鳥居と祭壇が併設された施設であったことがわかる。この雲切不動の鳥居根元にあった石造物は、現在大沢右岸の三柱神社の前に移されている(12)。

渡辺氏は大沢左岸の初直登を昭和十八年に行い、さらに右岸の初直登も同二十七年(一九五二)に行っているが、「二ノ越」は昭和五十年頃大きく岩盤が崩れ落ちた影響で通過困難となってしまったこと、昭和五十二年(一九七七)五月に滑落事故が起き通行禁止となり、さらに大沢下山道についても昭和五十五年(一九八〇)夏の頂上付近からの岩石崩落事故などで閉鎖となったことなどの経緯が記されている(13)。

(3)「三ノ越」

「二ノ越」経路のバイパスとして一時的に使用された越場のようである。第二章で武田久吉氏の御中道巡拝に関する記述を整理した中で(⑨)、大沢の二ノ越の越場を越え右岸に出て二・三丁上ると「助ヶ室」に到着すると記した経路は、この「三ノ越」を指しているものと考えられる。武田氏が御中道巡拝を行った昭和五年には既に「一ノ越」は利用されておらず、「二ノ越」・「三ノ越」のみが利用されていたため、武田氏は各々を「一ノ越」・「二ノ越」と記したのと考えられる。

三 大宮・村山口登山道及び大沢における山小屋

御中道は、大宮・村山口登山道の旧五合目(現在の六合目の少し上手)を交差する。この付近には、登山道を利用する参詣者と御中道を廻る富士講の行者の利用が考えられるため、大規模な山小屋があったとされている。天保六年(一八三五)以前に成立した新庄道雄による地誌『駿河国新風土記』にも、「四合すぎて五合の室にいたる、此室は大なり、此所は中道めぐりといふ者も登山のものも宿る所なればなり」とある(14)。この旧五合目にあった山小屋(以下、御中道小屋とする)は、大正二年(一九一三)富士郡大宮町の後藤氏に譲与され、平成の初め頃まで営業が行われていたが、廃業となり現在は山小屋も壊されている(15)。

この御中道小屋については、経営者であった後藤豊平氏に平成二十三年(二〇一一)六月二十一日、富士宮市教育委員会富士山文化課(当時)の伊藤昌光氏と梶山沙織氏が聞き取り調査を実施している。後藤氏は御中道と交差する旧五合目御中道小屋の他に、旧五合五勺でも山小屋を経営されており、聞き取り成果は多岐に及ぶが、調査実施時に豊平氏は九四歳前後と思われる、その内容も貴重な聞き取り記録であることから、以下参考までに調査成果を引用させていただくことにする。

(1) 富士山山小屋について

【組合】

- ・中本（中村屋本店）が親方。
- ・後藤亦二郎（豊平氏の父）は組合の中でも年寄りの部類。

【旧五合目の御中道小屋】

- ・御中道が前を通る。
- ・トイレの近くに三角点があった。陸軍参謀本部陸地測量部地図の三角点である。トイレは登山道（登り）の左側にあり、山小屋は右側である。
- ・廃業手続きは宮崎氏（綿屋）とスドウさんに頼んだ。営林署で手続きをする。名義を持っているだけでお金がかかるので。

【旧五合五勺の山小屋】

- ・昭和九年建設（豊平氏高等一〜二年生の頃）
- ・それ以前は何もなかった場所。
- ・当初は休憩所↓材木を運んで小屋に仕立てた。材木費用の書類がある（コピー済）

中屋から借りた天幕で日よけの休憩所を設置（中屋はサクラビール売上のため協力）

- ・山小屋の名づけの際に「経ヶ岳」とした。

- ・当初は県営の六合目小屋として建設する計画があった。

- ・小屋は昭和五十年頃に潰した。

強力佐野マサタケ氏（精進川）と一緒に登り、午前中に火をつけて燃やした。

【他の山小屋】

- ・各山小屋には愛称をつけていた。
- 一合目 … 登山の玄関口であり、値段が高い。
- 二合目 … 湧水がある。
- 三合目 … 特に特徴・名前はない。

三合五勺…「ケナシサカイ」（木なし）

四合目 … 「宝永山」

五合目 … 「御中道」、位置・名前が分かり易く、有名。

五合五勺…「経ヶ岳」

六合目 … 「御来光」（宝永山の方まで歩くと御来光が見える）

七合目 … 「三〇一〇（三〇〇〇？）メートル」（三〇〇〇メートルを超える）

八合目 … 「御来光」（御来光が見える）

九合目 … 「万年雪」（万年雪がそばにある）

九合五勺…「胸突」（胸突き八丁の始まり）、伊藤アラキチ氏経営。

・各山小屋で朱印スタンプや焼印に愛称を入れた。「表口〇合目」・「愛称」

・七合は距離が長いので合目が変わった。元々の七合目の位置を残そうと「元祖七合目」とした。経営は万野のイハラさん。

(2) 御中道

・御中道を回るのは富士講信者であり、普通の登山者は回らない。

・富士講信者は唱えごとをしながら歩く（普通の登山者はしない）

・御中道の整備は七月二十日頃（土用入り）に行う。大沢小屋からは東へ、御中道小屋からは西へと進め、出会うまで行った。御中道小屋では小屋の若い者が出た。

・宝永山方向の整備は表口山小屋が番屋（担当）

・御中道の道筋はケルンを目印にした。宝永山方向は人の歩いた後が何となく路になった。※ケルン…石積み、山頂や登山道の道標にした。

(3) 題目塔

・雪代雪崩で題目塔が転んだ為、御中道小屋若者や強力などが修繕した。その際、小さな経巻が発見された（昭和六年七月）

・発見された経巻は小さいもので固まっている。帝室博物館に預けた。題目塔



〔写真11〕 題目塔

にお参りした人が埋めたのではないか。

・後藤亦次郎氏が帝室営林署・博物館へ届け出た。山小屋は御料地「ゴリョウさん」に間借りしているだけなので、届け出ないといけない。

・題目塔の管理は大泉寺が行うので、大泉寺にも連絡した。何かあった場合には大泉寺に連絡する。

・地名「経ヶ岳」は宣伝の為につけた。「五勺」では半端なので名前をつけた。

※大泉寺の資料には幕末期に「経ヶ岳」という名称が確認できる。

・少し前に二ノ宮石材がきれいにした。有賀さんと大泉寺の遠藤さんが行った。

・傍に木の杭が立っていた。文字が書いてあったかどうかは覚えていない。

・豊平氏は鉛筆で拓本を取ったことがある。

調査成果の(3) 題目塔であるが、万延元年(一八六〇)にこの辺に日蓮大菩薩を祀る祖師堂と題目塔が建てられたようである(16)。祖師堂はその跡を含め確認できていないが、題目塔は御中道沿いにあり、旧五合目室より御中道を少し東側に戻った場所に現在も残されている〔写真11〕。この題目塔の管理は富士宮市

野中の日蓮宗大泉寺が行っており、

大泉寺には祖師堂に安置されていたとされる祖師像も保管されている。

また後藤氏の聞き取り調査の(2)

御中道で、御中道の整備は七月二十日頃に大沢小屋からは東へ、御中道小屋からは西へとある大沢小屋とは、大沢の「二ノ越」の二三〇〇メートル付近の右岸にある通称「お助け小屋」と呼ばれた大沢休泊所のことである。

この休泊所は、昭和初期頃までは

富士講の御中道廻りに主として利用されていたが、大沢崩の調査者や一般の登山者の宿泊所としても活用されていた。休泊所は、中村朝次郎氏(一八九七～一九七九)が毎年の大沢越場の開削とあわせて管理していたが、昭和五十年代に大沢越場が廃止されてからは閉鎖された状態となっている(17)。

この休泊所に隣接して、御中道廻りの際に拝所となっていた三柱神社が鎮座している。三柱神社には、現在も富士講による板マネキといった奉納物が多数残っている。また休泊所の小屋主の中村氏が保管している昭和十九年(一九四四)から同五十一年(一九七六)の間で四年間分を除いた二十九分間の御中道巡拝者名簿を含めたこれらの資料は、平成二十四年(二〇一二)八月及び同二十五年十一月に山梨県富士山総合学術調査委員会によって調査が行われている(18)。これら御中道巡拝者名簿を確認すると、第二章で紹介した日本ハイキングクラブ会員の渡辺正臣氏が昭和二十七年(一九五二)に大沢右岸を直登した際の八月六日の大沢休泊所宿泊をはじめとして、同三十年(一九五五)八月五日の同宿泊、同三十一年(一九五六)七月二十九日の同宿泊、同三十七年(一九六二)八月十二日の同宿泊、同四十年(一九六五)八月十五日の同宿泊、同四十一年(一九六六)八月六日の同宿泊が記されている。また武田久吉氏の名前も昭和三十三年(一九五八)八月二日の大沢休泊所宿泊、同三十六年(一九六二)七月三十日の同宿泊が確認できる。

おわりに

以上、静岡県側の御中道調査の概要として、第二章一で御中道の行程について記された文献を確認し、第二章二では御中道の行程の中で最大の難所とされていた大沢崩を渡る通過地点である越場の変遷について取り上げた。第二章三は御中道と大宮・村山口登山道が交差する旧五合目の御中道小屋経営者への聞き取り調査の成果と、大沢右岸の通称「お助け小屋」と呼ばれた大沢休泊所について触れた。

本稿は、特に大宮・村山口登山道（富士宮口登山道）から大沢崩の区間に関する近代以降を主とした概要報告であるが、最後に総括としてこの区間の経路の変遷についてまとめてみたい。第二章で大沢の越場について、(1)「一ノ越」を越える経路を江戸時代後期以前の大沢の越場とし、(2)「二ノ越」を越える経路を江戸時代後期から使われた経路で、当初は「一ノ越」付近の大沢左岸を真直ぐ標高二三〇〇メートル付近まで下り、そこから通過する経路であったが、昭和初期頃にはまず「一ノ越」付近に向かうということもなくなり、鬼ヶ沢から直接「二ノ越」付近へと向かう経路になっていったとした。さらに「三ノ越」は「二ノ越」付近の崩壊を避けるバイパス経路のひとつであるとした。

越場の経路については、神戸麗山（かんべれいざん）（一八〇二～一八六二）による江戸時代末期の制作と考えられる富士山登山案内図の刷物「富士山表口真面之図」に⁽¹⁹⁾、御中道の経路が描かれている。その経路は「天之浮橋」から「不動岩」方面へと進み、「二ノ越」付近を渡らずに真直ぐ下り、「二の渡」を通過し、「三の渡」とある越場から大沢を渡るように描かれる。この図における「二の渡」・「三の渡」が、近代以降に使われていた「二ノ越」・「三ノ越」と同じ経路に相当するかどうかは確認の仕様が無いが、この図に「一の渡」の注記がない理由は、当時不動岩から先の御中道を「一ノ越」付近からは進むことができなかった状況を示しているよう。また明治時代初期頃の制作と考えられる富士山登山案内図の刷物「駿河国富士山表口図」では、御中道の経路を大沢越場付近で上から三つの経路に分けて描いている⁽²⁰⁾。

おそらく江戸時代末期の十九世紀初めには、大沢の崩壊による影響で、「一ノ越」付近の越場は利用できなくなっていたものと思われる。その影響により近代以降に「二ノ越」・「三ノ越」と呼ばれた越場につながる経路が、江戸時代末期には開かれたようである。越場の変遷に伴って変化したであろう大宮・村山口登山道（富士宮口登山道）から大沢崩の区間に関する経路についても、本稿に掲載した『富士山中道真景』絵葉書の「写真4」「天ノ浮橋」が、天保六年（一八三五）

以前に成立した『駿河国新風土記』では石橋であったとするものが、ここでは丸太三本を渡した栈橋になっている。

御中道の経路が自然環境の影響を受けていく中で、時代によって一時的に迂回をし、また元の経路が整備された段階で再び経路が戻るといった繰り返しも行われてきたのではないだろうか。

註

- (1) 武田久吉『日本地理大系別巻 富士山』（改造社、一九三一年）「中道廻り」項参照。
- (2) 『修訂駿河国新風土記』下（国書刊行会、一九七五年復刻）「富士山下」項参照。同書は新庄道雄著で、文化十三年（一八一六）に編纂を開始し、天保五年（一八三四）の「庵原一」を最後に、同六年（一八三五）の新庄道雄の死去をもって、志太郡・富士郡・駿東郡を未完とする二十五巻の地誌である。
- (3) 井野辺茂雄『富士の歴史』（古今書院、一九二八年）第五章「登山（其二）」参照。
- (4) 註(1) 武田久吉『日本地理大系別巻 富士山』「中道廻り」項参照。
- (5) 土屋勝太郎『富士之志を里』（多気通舎 一八七七年）、上木浩一郎『富士登山案内』（勝見書肆、増訂再版一八九八年）。上記文献は富士山かぐや姫ミュージアム学芸員の井上卓哉氏の御教示による。
- (6) 『富士山中道真景』絵葉書（旧小林謙光コレクション、静岡県世界遺産センター整備課所蔵）。
- (7) 『御中道と大沢崩れ』（建設省富士砂防工事事務所、一九九〇年）、『富士山大沢崩れの発達と御中道経路の変遷』（建設省中部地方建設局富士砂防工事事務所、一九九一年）、『資料集大沢崩れ』（国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所、一九九三年）参照。
- (8) 註(7)『富士山大沢崩れの発達と御中道経路の変遷』及び『資料集大沢崩れ』掲載「御中道経路の変遷図」を転載。
- (9) 長島泰行筆画・岡田博校訂解説『江戸時代参詣絵巻 富士山真景之図』（名著出版、一九八五年）「御中渡巡り西の方 大沢」参照。
- (10) 註(2)『修訂駿河国新風土記』下「富士山下」項参照。
- (11) 渡辺正臣『富士山に魅せられて七十年』（渡辺フミ、一九九八年）「富士山・剣ヶ峰大沢左岸直登」参照。

(12) 『富士山 山梨県富士山総合学術調査報告書二』(山梨県、二〇一六年) 資料編「Ⅲ 御中道資料」参照。雲切不動の鳥居と石造物は、渡辺氏が確認した以降に大沢底に転落したようであるが、昭和五十一年(一九七六)に引き上げられ、右岸の三柱神社前に移されたようである。

(13) 註(11) 渡辺『富士山に魅せられて七十年』「御殿庭からお中道を剣ガ峯大沢へ」・「剣ガ峯大沢右岸登攀」参照。

(14) 註(2) 『修訂駿河国新風土記』下「富士山下」項参照。

(15) 『史跡富士山 大宮村山口登拝道調査報告書』(富士宮教育委員会、二〇一六年)「三 現況」参照。

(16) 『袖日記(八番・九番)』(富士宮市教育委員会、二〇〇〇年) 万延元年六月一日条参照。

(17) 註(7) 『富士山大沢崩れの発達と御中道経路の変遷』参照。

(18) 註(12) 『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書二』資料編「Ⅲ 御中道資料」参照。

(19) 『富士山登山案内図』(富士吉田市歴史民俗博物館、二〇〇〇年)「表口」参照。

(20) 註(19) 『富士山登山案内図』「表口」参照。

〔付記〕 本稿をまとめるに当たり、元富士山表口強力組合長の岩見功様、富士宮市郷土資料館館長の渡井一信様、富士宮市文化課学芸員の松本将太様、富士宮市埋蔵文化財センター嘱託員の志村和恵様、国土交通省富士砂防事務所調査課課長の黒田英伸様、同調査係長の望月浩自様、同技官の大橋優輝様にご協力をいただきました。記して感謝を申し上げます。

第三章 御中道の絵葉書

赤池栄人

はじめに

口絵に掲載されているモノクロの写真は、中道大澤室で発行された『富士中道繪葉書』（以下絵葉書とする）である。絵葉書は、一回り大きい紙袋に一〇枚一組で入っており、その内訳は、寶永山・十二ヶ薬師牡丹畑・天ノ浮橋・不動岩・大澤大行・大澤石瀧ノ全景・三柱神社・大澤達磨岩・御庭・小御岳神社となっている。袋の表には、表題と発行元である大澤室の名前が表記され、富士山と二人の道者の姿が描かれている。裏には朱色のスタンプが押されている。スタンプは、富士山頂上を中心として東西南北が記され、中道入口・燕澤・不浄流・下り須走口・御殿場口・馬之背・宝永山・牡丹畑・十二ヶ薬師・大宮口六合目・赤澤・主杖流・鬼ヶ澤・桜澤・天ノ浮橋・不動岩・大澤石瀧・大澤三柱神社・前谷・青滑澤・佛石澤・金口澤・吉田口六合目となっている。

本稿では、一〇枚の絵葉書を御中道の巡拝路に合わせて配列し、1から10までの番号を付し、絵葉書から読み取れる御中道の要素について考察を試みた。

絵葉書

1 【富士中道】寶永山

宝永山は、宝永四年（一七〇七年）の噴火により誕生した噴火口である。絵葉書は、宝永山南側の砂石の火口縁より宝永山頂を見上げる方向で撮影している。頂の左側に火口が広がり、右側では山頂の赤岩が崩れている様子が写されている。

2 【富士中道】十二ヶ薬師牡丹畑

第一火口を挟んで宝永山の向かいには、「十二薬師」と呼ばれる岩脈があり、そ

の岩脈を薬師如来を守護する十二神将に準え「十二薬師」や「十二神」等と称した。火口の上段の窪んだ部分が「十二薬師」である。また、火山弾のことを「牡丹石」と呼び、「牡丹石」が多く散乱していたため「牡丹畑」と呼ぶようになった。そして「牡丹畑」が転じて「五反畑」と呼ばれるようになった。なお、『富士山道知留辺』（1）には「五反畑」や「十二神の窟」と表記されており、また『富士山真景之図』（2）には「赤岩十二神御前」と題し、十二薬師を拝む富士講道者の姿が描かれている。

3 【富士中道】天ノ浮橋

低木の林の中にある天ノ浮橋へ至る道は、山の崖に直接道を拓くことが出来なかった。そこで、崖に沿って木などを用いて棚のように張り出して作った棧道と呼ばれる道を拓いた。絵葉書に写る道者の支度は、全員が頭に六尺の宝冠をかぶり、行衣の上に帯を締め、手には七尺の中道杖を持ち、道者の中には手袋をしている者もいる。下は股引を履いて下腿を保護しており、足には草鞋（麻草鞋か）を履いている。先頭を行く道者は、結袈裟を掛け肩に背負ったのは御身拔であろうか。また、最後尾の強力は麦わら帽子のようなものをかぶり、法被と背負子を背負っている。

4 【富士中道】不動岩

天ノ浮橋を渡り少し下ったところに不動岩（石）と呼ばれる岩がある。岩の足元には「不動岩」と書かれた角柱が写されている。『富士山真景ノ図』（3）には「不動石あり、是は大岩石立ちたるへ不動の尊像彫りつけて有るを云う」とあり、岩には名前の由来となった不動尊の姿が推測されるが、絵葉書からは岩の表面には削り取ったような痕跡がみられ、不動尊の姿を確認することはできない。

5 【富士中道】大澤大行

大沢を渡る修行は、御中道巡廻行の中では最も危険なもので、「大沢大行」と称された。大小の岩や砂石で出来た大沢の崖を掘削して道を拓いている。道を一段下りた先には、深い谷を渡るために自然木を用いた仮橋を掛けている。橋の取り付け先には低木の林が広がり、その手前には巨大な岩石が写っている。大沢を行く六人の道者は、宝冠をかぶり手には中道杖を持っている。その後ろには、麦わら帽子のようなものをかぶり荷物を背負った中道強力が写されている。

6 【富士中道】大澤石瀧ノ全景

大沢崩は日本最大級の浸食谷である。御中道は吉田口を起点に時計回りに廻り、大沢の縁へ至った道者は、沢そのものを尊び大沢の御前とも称した。大沢の落石を止めその間に道者を渡すことが出来て、はじめて大先達としての資格が認められると云われている。絵葉書には風雨や気温の変化などにより浸食され、崩落したばかりの大小様々な角礫が岩盤の間を埋めている様子が写されている。

7 【富士中道】三柱神社

平入りの神殿の入口上部には「富士三柱大神」の扁額が掲げられ、神殿の正面に「奉納」と記された賽銭箱や、入口には富士講の道具を納めた箱、「三平講」の幔幕が下がる。神殿前の両脇には、明治九年の扶桑教(4)と大正七年の丸岩講の石碑(5)が写されている。また、布製のマネギが八枚と、神田七講の「祈願国威発揚・武運長久」と書いた布が入口の左右の柱に一对吊下がる。布マネギは、東京四谷南元登山会、山三麻生元講社、東川崎講社、山敬本敬神講などが奉納している。

8 【富士中道】大澤達磨岩

岩盤の上に立つ達磨岩とそれを見上げる登山者の姿が写っている。手前には崩落した角礫が写るが、中ほどに進むにつれ角礫は小さくなっている。達磨岩へ渡

るためかロープが渡されている。登山者の身支度は「天ノ浮橋」〔3〕や「大澤大行」〔5〕に写る富士講道者とは異なり、ズボンを履きリュックサックを背負う等、近代登山の格好をしている。

9 【富士中道】御庭

吉田口五合目から御中道へ向かう途中に広がる御庭は、風の影響で樹勢が横へ広がりその様子から「天狗の庭」とも呼ばれている。手前の巨木から山頂へ近づくにつれ樹高を低くするように変化している様子が写っている。「五合目天地堺御庭」や御庭の説明を三行で記した角柱があり、その手前には香台が置かれ、周りには注連縄と注連柱が備えられている。中央に写る登山者は「大澤達磨岩」〔8〕と同じく近代登山の格好をしており、その右横には御庭の説明が記された看板が設置されている。

10 【富士中道】小御岳神社

御中道を巡る道者は、出発前に中道巡拝の受付番号を事前に受け取り、周廻後に証明を貰い御師からオウルシを貰いうけた。絵葉書に写る拝殿は、石積の壁で保護されており拝殿の入り口の前には、中道杖を立て掛けるためか横に一本の木材が渡されている。木材を挟んだ左右には、天狗門または随神門の名残とみられる屋根のある建物が対をなして建立されている。更にその手前には、東京丸不二講社による講紋が記された三つの桶に屋根を付した奉納物(水桶か)が左右一对で奉納され、「国威宣揚皇軍健勝祈願祭」・「武運長久」と記された柱と樹木(落葉松か)が写っている。

小括

以上、一〇枚の絵葉書から読み取れる御中道の要所と道者の様相について考察を試みた。その結果について以下の三点をあげておきたい。

一点目は、絵葉書に写された場所についてである。絵葉書を入れた袋の裏面に押されたスタンプと比較すると、宝永山と十二ヶ薬師以外は、大沢崩を中心とした富士山西側の行場に集中していることがわかった。なぜなら、この絵葉書を発行していたのが大沢を越えた先にある大澤室であり、大沢を渡り終えた道者に「大沢大行」の体験談とともに大行の証明または土産として絵葉書を購入してもらおうという大澤室の意図を読み取ることができる。

二点目は、絵葉書が撮影された年代についてである。「三柱神社」〔7〕と「小御岳神社」〔10〕の絵葉書に写っている「国威宣揚皇軍健勝祈願祭」・「武運長久」等から第二次大戦前もしくは大戦中、おおよそ昭和十年から同二十年の間に撮影されたのではないかと推測される。

三点目は、御中道巡拝に対する認識の変化である。大沢室に残された「御中道巡拝名簿」〔6〕には、戦後になると静岡県立富士高等学校生物部や山と溪谷社、日本ハイキング倶楽部等といった道者とは別に一般登山者の名前が散見され始める。すなわち「大澤達磨岩」〔8〕と「御庭」〔9〕に写っている近代登山の服装をした登山者は、富士山が信仰の山だけではなく観光地として認識されはじめたことの先駆けだったのではないだろうか。

註

- (1) 富士吉田市教育委員会『富士吉田市史 史料編第五卷近世Ⅲ』（一九九七年三月）
- (2) 岡田博校訂・解説『富士山真景之図 江戸時代参詣絵巻』（名著出版、一九八五年七月）
- (3) 前掲註〔2〕
- (4) 山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会『山梨県富士山総合学術調査研究報告書 二 資料編』『御中道資料』石造物四号
- (5) 前掲註〔4〕 石造物二号
- (6) 前掲註〔4〕 御中道巡拝者名簿

第四章 御中道と大沢室の奉納物

堀内 眞

はじめに

富士山の中腹を周廻する中道と呼ばれる巡拝路がある。富士講の修行の中で次第に固定化され、発展してきた修行路であり、特にその修行のことを御中道・御中渡と呼び慣わしてきた。現在は中道・御中渡が崩落しており、通行することとはできない。ここでは中道の巡拝行とそれに関する行場について取り上げてみたい。特に大沢室の奉納物に注目して、この場における信仰の生成や発展について述べてゆくことにする。

中道については近世を遡る資料等は確認されていない。ただ、村山口の歴史資料の中に、「七合 文明年中甲州」というものが出てくる⁽¹⁾。この段階に「七合(目)」という認識はないが、中腹の巡廻に伴う施設の可能性が考えられる。近世前期頃には、資料上に「ふちやうかたけ」(不浄ヶ嶽)が認められる。そこは中道の起点となる場所であり、山伏がここに滞留していたことから⁽²⁾、その頃までに巡拝行が始まっていたと考えられる。

旧来の禪定(道者の登山)には、山内に留まって廻峰を行う認識はない。修験(山伏)の行法の実践から富士講の修行へと移行していった。大沢周辺の施設のあり方も、不動を祀る行場であったものが、富士講の信仰拠点へと転換している。

ここでは中道について資料を概観し、最後に『山梨県富士山総合学術調査研究報告書二』に報告した「御中道(大沢室)周辺の石造物・奉納物一覧」を中心に、据え⁽³⁾、富士信仰とりわけ富士講の展開を知る基礎的な資料とするために、地域ごとに再整理したものを、それ以前のデータに組み合わせて一覧表にして第二部「大沢室奉納物一覧表」に掲げた。なお、この表では、富士に到着した道者(登拝者)の居住地、檀那所(道者場)について、従来の資料を基に整理・配列し、

そこに中道大沢室の奉納物を加えて構成した。大沢の資料は、富士講に即したものが主体を占めるため、ここでは関東地方について網羅的に掲げ、それ以外の地域は資料の所在の記述にとどめた。

一 中道の顕在化と巡拝行

中道は富士山の中腹を周廻する道であり、江戸時代後期頃までにそのルートが固定したものと考えられる。中道廻りは富士登拝に付随して山腹を時計廻りに一周する修行として実践されたもので、近代になると行楽にも利用されるようになった。吉田口の六合五勺(旧来の五合五勺)、不浄ヶ嶽の岩稜を出発点として須走口の五合目を目当てに下り、須山口(現、御殿場口)六合目の下を経て、宝永山に至る。ここを五反畑(牡丹畑)という。宝永の噴火口の下の窪地へ出る。ここに十二薬師(十二神)がある。この場所を拝して後、また左の方に下って、村山口(現、富士宮口)の三合五勺に達し、さらに村山口を五合目まで登り、そこから大沢を目指していく。その間に鬼ヶ沢や天浮橋という栈道などがある。それより大沢・一ノ渡・不動岩等にかかる。大沢は岩石の落下道で、頂上より山麓に及んでいる。一ノ渡・二ノ渡・不動岩などがこの付近にある。険阻であり、足を下ろすことができないので、下の方に出て、アサミノ平という所を越えることになっていた。ここには岩の間に桜が多く、六月の初めによく花の盛りに逢う。そうして毘沙門岩に登り、木花沢(桜沢)・仏石沢・空木沢・神の御庭を過ぎて、小御岳に出て下山する。

江戸時代後期の地誌『甲斐国志』は、

不浄岳古ハ六七ノ間山伏此処ニ籠居登山ノ旅人不浄解除ノ祓セシ所ナリ、故カク称スルトゾ、此ヨリ中堂廻ノ道アリ、信者共山ノ中腹ヲ回ルヲ云、少ク上テ小屋アリ、穴小屋ト号ス、本尊不動明王、

中堂廻(中道廻り)の基点とする不浄岳について、六・七月に山伏が駐留して不浄解除の祓いを行ったこと、関係する穴小屋についても併記する⁽⁴⁾。

表1 御中道対照

場所	「八葉九尊図」	「月旺御身披」	「富士中道」	「富士山御中道図」	「富士中道巡」	「日本地理体系 別巻 富士山」	「富士中道絵巻書」
場所	八葉九尊図	月旺御身披	富士中道	富士山御中道図	富士中道巡	日本地理体系 別巻 富士山	富士中道絵巻書
中宮	延宝八年 (一六八〇)	延宝八年 (一六八〇)	文政四年 (一八二二)	文久二年 (一八六二)	「中道之記」 明治三十八年 (一九〇五)	昭和六年 (一九三二)	中道大沢室発行 (押印スタンプ)
穴小屋			五合穴小屋	五合目 五合五目砂振 七合取附 良方祖母懷龜岩下		吉田口六合	中道入口
不浄岳	ふちやうかたけ	不浄峯	不浄岳		大渡 燕沢 不浄滝・不浄流	不浄流 燕沢	
須走口		すはしり うはこ	須走五合小屋	東方須走口五合目	東口五合目 室・石室(休業) 沙走道(下山道) 沢(昨年崩落) 沢(三四年前に出きし) 不動沢(滑沢)	東口五合五勾	下り須走口
須山口・御殿場口			須山口五合小屋	須山口六合目	南口五合目 南口六合目 馬の背 室	御殿場口六合 御殿場口下り新六合	御殿場口
宝永山			宝永山	巳方宝永山大名岳	宝永山頂上	宝永山 走り	宝永山
牡丹畑			御本畑ケ 八幡石		牡丹畑	牡丹畑	十二ヶ薬師牡丹畑
大宮口・表口			大宮口表五合小屋 雲霧不動	南方大宮口五合目	十二ヶ薬師 西口六合目 日蓮上人行場の立石	十二ヶ薬師 表口五合目石室	十二ヶ薬師大宮口六合目
手杖流				未方牛頭	行者石の下	手杖流	赤沢
鬼ヶ沢			鬼ヶ沢	未方鬼ヶ沢	鬼ヶ沢 姥ヶ懐	鬼ヶ沢	桜沢(8)
無明橋			無明之橋	申方役行者手杖流シ 申方大難所無明橋	無明の橋	(無明橋)	
天ノ浮橋					大沢の室・室 (潰落せし腐朽の木材)	大沢一ノ越、連磨石及不動石(9)	天ノ浮橋 不動石
不動石		不動石	不動石	西方第一大難所 大沢御前	大沢の室・室 (潰落せし腐朽の木材)	大沢一ノ越、連磨石及不動石(9)	天ノ浮橋 不動石
大沢		大沢	大沢縁		大沢(五六階の梯子)	二ノ越	大沢大行 大沢石瀧ノ全景
二ノ越		二ノ越	越場 欠込		大沢(五六階の梯子)	二ノ越	大沢石瀧
大沢室					新道 小山の室	大沢休泊所	三柱神社
毘沙門岩			比砂門石		連磨石	毘沙門石	大沢連磨石
青滑沢			なめ沢	乾方滑沢三沢有之	滑沢	前谷	前谷
仏石流			仏石山	乾方関伽沢	赤沢	滑沢	青滑沢 仏石沢
空木沢			うつき沢	亥方鳴沢	木の花沢	桜沢	
桜沢			桜沢		神の御庭 (飛澤道)	戸峯	御庭
御庭			御庭	北方小御岳御庭	小御嶽 (小御嶽神社)	小御嶽 小御嶽神社	小御岳神社
小御嶽	コミたけ 天狗みや ハイテン コマ	小みたけ 天狗室	小御岳	北方小御岳鳥居前 (小御嶽神社)	小御嶽 中道杖校所	中道巡りの一隊(14)	小御岳神社
泉ヶ滝			和泉岳	北方小御岳横手泉ヶ滝	五合五勾目		吉田口六合目
砂振	スナフルイ	砂振井小家	五合ひも合	北方小御岳横手一ノ鳥居	五合目		

同じ時期に記述された『隔搔録』は、

中道廻リノ行者、一年百人ニ下ラズ。其中或ハ深山ノ瘴煙ニ感ジ、或ハ露宿ノ凍餒ニ逼リ、殞命スル者往々有ト云リ。

と記すように(5)、毎年百人位の巡拝者はあったことがわかる。

また、『駿河国新風土記』は、

コノ山中道廻リト云コトアリ。役小角初メシトイヘリ。未詳。昔ハ山ノ五合ノ所ヲ道ヲ定メズシテ廻リシトイヘド、近年ハ大カタ定レル道アリ(中略)

中道廻リトイウコト、古クヨリアルコトニハアルベカラズ。中古ヨリ富士行者ナドトイウモノ始メシコトニテ、今モソノ法ヲ奉ルモノノスルコトナリ、とあり(6)、富士信仰が盛んになって、登山者が多くなった後に起こったものと推測している。

中道廻りのことを、御中道、ないしは御中渡と呼称し、その巡拝を行ってきた。近世後期から近現代を通じての巡拝は、時代による変遷があったことが知られている(表1)。

もとは不浄ヶ嶽(岳)を基点としたものだった。ここから穴小屋を過ぎ、鎌岩に至るルートを取る。延宝八年(一六八〇)版行の「八葉九尊図」は、不浄ヶ嶽には「ふちやうかたけ」の文字を添え、登山道よりも左手(東側)に回り込んで描写されることから、現在の登山道に沿う場所とは異なっていたと考えられ、むしろ不浄流の近くに存在したものと推測される。もともとの不浄ヶ嶽は、中道上の一点から登山道に沿った場所(五合五勺)に進出した可能性がある。登山道を基点とするものに再編されたものと考えられる。

これらの地誌類に見るように、不浄ヶ岳は中道廻りの起点となり、ここより中堂廻の道がある。信者(富士講中)共が山の中腹を廻ることをいう。少し登ると小屋があり、穴小屋という。登頂を終えた信者はここまで下山し、穴小屋まで戻る。表で見るように、穴小屋と不浄岳の記載順序は錯綜があり、中道に沿った不浄岳を近代になると不浄流と呼び替えている。不浄流は燕沢と同一か。ここから須走

口五合目(五合五勺)を経て、須山口(現、御殿場口)六合へ向かう。宝永山、御本畑(牡丹畑)、八幡石を過ぎ、大宮口表五合へ到着する。さらに、鬼ヶ沢、無明之橋、不動石の所在する大沢縁へ掛かり、越場(二ノ越、大沢の越場)から対岸へ欠込む。明治になると、ここに大沢室(休泊所)ができる。比砂門石(毘沙門石)、なめ沢、仏石山、うつき沢(空木沢)、桜沢を越え、御庭から小御岳に出る。さらに和泉岳、五合ひも合で、もとの吉田口に戻る。ひも合は紐を結び合わせる意味と考えられ、スナフイには砂振小屋が存在した。

遡って、延宝八年(一六八〇)の延宝段階に版行された「八葉九尊図」には、中道は記されていない(7)。登山道から分岐し、「中宮大旦」(現、吉田口五合目)を経て「コミたけ」(小御嶽)に至る横道を、登山道と同じように点線で描くが、その前・後に延びる道はない。同図を用いた中世からの系譜を引く古層の富士信仰とは、富士講中は信仰世界を異にしているが、富士講村上派の月旺の御身拔も、この巡拝路を線で結んで描写してはいない(8)。

中道は富士講の行者(信者)の巡拝行によって、次第に固定化されたものと考えられる。江戸時代後期の文政十三年(一八四二)頃には、表1に見るような形で整備され、富士講村上派の行者たちは、この道を使って修行していたことが知られる。巡拝路の中で、大宮口五合から「雲霧不動」へ下り、再び中道へ戻るように記述する。同不動は、「この所ハ白子なる(●)富沢繁右衛門といふ者寛政五年六月廿日より三十八日目にして見出したると云」とあることから(9)、白子(現、埼玉県和光市)に居住する丸瀧講先達の繁右衛門が寛政五年(一七九三)以降に雲霧不動を祀る行場として開いたことがわかる。すでに一八世紀末には、中道を利用して南口(大宮口)に近接する行場を往復する巡拝行が定着している。現在、雲霧不動に祭祀されていた不動明王像は、村山大日堂(富士宮市)に安置されている。これに対応するように、石造物(富士講碑)の中で、「御中道」(御中渡)を記すものは、寛政二年(一七九〇)頃から出現する(10)。

二 富士講中の御中道

月旺御身抜の以降のものとして、文化文政期の中道に係る資料が、前述した月旺御身抜に関する中道大願成就もの以外に三点掲げられ⁽¹¹⁾、この頃に中道の巡拝が盛行し、その形態が整えられたことが理解される。文化十二年（一一八五）に堀端屋旦家の下総千葉町（千葉市）の参詣人槌屋八五郎と上総木更津（木更津市）の大先達石井善治良は強力七兵衛の案内で御中渡の巡拝を願ひ出ている。翌年には御師の年行司衆中・役頭衆中へ久々田村（習志野市）の三人が御中渡印鑑・切手交付願を提出している。文政四年（一一八二）には「勤之」た村上照山が中道巡拝の覚書を残している。

文久二年（一八六二）には『富士山御中道図』（中村力家蔵）が制作された。川口御師（神官）の上総大夫秦一之（中村信道カ）が河口からの富士山北口の認識を、『富士山明細図』をもとに描いている⁽¹²⁾。その中には、二三枚の絵が掲げられる。①「富士北口登山五合目」、②「北口登山五合五勺目砂振」、③「六合目穴小屋」、④「七合取附」、⑤「御中道長方祖母懷龜岩下」、⑥「御中道東方須走口五合目」、⑦「御中道須山口六合目」、⑧「御中道已方宝永山大名岳」、⑨「南方大宮口五合目」、⑩「御中道未方牛頭」、⑪「御中道未方鬼ヶ沢」、⑫「御中道申方役行者手杖流シ」、⑬「御中道申方大難所無明橋」、⑭「御中道西方第一大難所大沢御前」、⑮「御中道戌方滑沢三沢有之」、⑯「御中道乾方関伽沢」、⑰「御中道亥方鳴沢」、⑱「北方小御岳御庭」、⑲「御中道北方小御岳鳥居前」、⑳「（小御岳神社）」、㉑「北方小御岳横手泉ヶ滝」、㉒「北方小御岳横手二ノ鳥居」、㉓「北方小御岳一ノ鳥居御中道大尾」を描写する。起点を天地境てんちのさかいの中宮として不浄ヶ嶽は記さない。また万葉の歌からの着想なのか、鳴沢を挿入している。

吉田口から御中道に踏み出すものは、穴小屋より入る。そこに宿泊して、翌日に中道を廻る。中道は非常な荒山であり、危険が伴うので、頭に宝冠を被り中道杖を用いる。道に慣れた中道強力を立てる。麻の草鞋に履き替えて、早朝に小屋

を出発し、日暮までに大沢室に到着するようにした。大沢室に宿泊し、小御嶽神社でお許しを受けて下向する。富士講中は、この大沢を渡る大行を「御中渡」といい、この道を踏むことを「御中道」と呼び慣わしている。

東講の富士登山と御中道は安政五年（一八五八）から明治四十五年（一九一二）まで記録される。登山と中道、内八海廻りなどを記す。御中道は、明治十五・十六・十七年と、同二十五・三十四年に踏歩したことが記録される⁽¹³⁾。

明治十七年（一八八四）の「中道分」は、須走小申十郎分の中道廻り祈禱料貳円、中道強力二人分八〇銭に一〇銭の色をつけている（一人四〇銭十五銭）。中道の小札（神札）四五枚分二二銭五厘、上・下小申分茶代一人につき二〇銭、頂上・五反畑・大沢で強力への祝儀、大沢東方茶屋の茶代、大沢茶屋の茶代と宿泊料を支出している。同帳の中に「大沢東方茶屋」と「大沢茶屋」が記される。大沢東方茶屋は、明治二十五年には「大沢不動石続きの小屋」と記述され、大沢左岸に存在した小屋（大沢の室）と考えられる。須走口登山道を上下して中道を廻っている。

三 中道大沢地点

大沢は、中道の中で最も危険な場所であり、扶桑教との関わりが深い。そこをまず、石造物から見えていくことにする（『富士山 報告書二』を再録）。

明治九年（一八七六）八月二日、扶桑教安産教会長の伊藤力は初めて中道を踏み、その感慨を歌に残している。女性の登山が解禁されて四年後のことであり、齢七四歳であった。大正四年（一九一五）の同日に富士講碑（歌碑）が造立された（石造物四号）。

（正面） 明治九年八月二日はじめてこの

道を開きたる時よめる

なめいしのもとより出てひと

山桜 すちの富士の中道

ふみわけに計り

千葉県市原郡養老村山田伊藤力事

扶桑教安産教会長齢七十四翁

大教正藤行

(左面) 大正四年八月二日建立

(背面) 藤行君同村筆者

小社長本吉良平

中道室主 七十六翁

中村歌三郎

とある。揮毫は藤行（本吉良平）であり、中道室（大沢室）主は中村歌三郎と記される。小屋主は大宮の者から船津（富士河口湖町）の中村に変わっている。大沢室と扶桑教とのつながりを示す最古の碑である。

明治十三年（一八八〇）に野州上彦間（栃木県藤岡町）の金山清は、新道沿いの岩盤に作歌を記している（石造物一号）。

道にこる心 眞の

ひとすしに

ふみわけ初し

富士の中道

金山清新道

野州上彦間

金山清

の歌を大岩に彫り込んで、この岩場前を通過する道（「金山清新道」）に標示した。二ノ越を整備した新道はここを登って大沢室へ向かう。

なお、大沢室はこの時期に存在している。室（山小屋）は船津の中村歌三郎が所有した。

大沢室入口の右側に富士講碑が建つ（石造物二号）。富士山溶岩の自然石。

(正面) 埼玉県北足立郡大門村大字差間

扶桑教丸岩一信講社本部長

大教正 鯨井一行心山

日

中道 登山

(㊦) 中道 五十度記念碑

開山

月 内外八湖修行成就

大正七年八月 男豊行書

とあり、扶桑教丸岩一信講社大教正の鯨井一行心山が大正七年（一九一八）に造立した。同講社は大門（さいたま市緑区）や差間（埼玉県川口市）に分布した。

大沢南岸に「大沢東方小屋」（「大沢の室」）があり、その対岸にここで述べている「小山の室」（大沢室）があった。大沢の縁に大沢御前という場所がある。

木造鳥居が建ち、傍らに「参明藤開山石塔」（「雲霧不動尊」）が存在した（石造物三号）⁽¹⁴⁾。この石造物の造立供養は、明治十五年（一八八二）九月一日に、「須走口五合五勺まで登り、参明藤開山石塔の内供養」が行われ、飯泉村（小田原市）東講の先達夏目作兵衛はこの供養に参加している⁽¹⁵⁾。須走口登山道での内供養

の後、大沢の縁（大沢御前）に設置されたのだろう。なお、大沢の崩壊によって、この石碑は沢中に転落した。昭和五十一年（一九七六）の大沢室巡拝者名簿の八月十五日欄には、中村他三名が名前を記し、「大沢渡場の拝所から雲霧不動尊（石柱）を神殿まで御移しました」と記される⁽¹⁶⁾。この石塔（石碑）は、神奈川県

方面の石屋が同地の石材を用いて製作したものと考えられる⁽¹⁷⁾。

正面は、御中渡・雲霧開のほか、東石・東・教社中、(㊦)講社、(㊦)・山眞・(㊦)・(㊦)・(㊦)社中、

右面は、(㊦)子易宿・(㊦)雨坪村・一山武州久良岐郡根岸村・相州足柄下郡大友村社中、御殿場伴野佐吉、

左面は、明治十五午年八月、□□造酒三・米山大住・野木永寛とあり、この三名は須走の御師である。

背面は、「相州社中」の地名と氏名、「武州全」(社中)の㊦・㊧社中、川島田・永原・中畑定宿・グテンバ石工(以上、御殿場市)の氏名を記すものであり、須走口に寄りついた富士講社中を書き連ねる。神奈川県下の富士講社中や村々、山元の関係者が寄進して造立したものの。

碑中にある富士講社は、横浜市(㊦・㊧・イチヤマ)、伊勢原市(㊨)、南足柄市(フジノマル)が地名と笠印を記し、一〇講が笠印のみのものであり、その多くは横浜に存在したもの⁽¹⁸⁾。村名は伊勢原・秦野・平塚市(旧中郡)、南足柄市(足柄上郡)、小田原市(足柄上・同下郡)の村々であり、須走口を利用して登拝する富士講社や村々が寄進して造立したことが理解され、吉田御師の檀那所とは重ならない。この第三号以外のものが、大沢室の神殿前に造立された石造物である。

四 大沢室「神殿」の奉納物

万延の縁年まで、縁年を契機として、中道や関連する施設が整備されることはない。中道の中で、大正度にその傾向が著しいのは、大沢室に限定される。屋外に建つ石造物は、縁年に先立つ大正四年から同七年に造立され、縁年に間に合わせている。縁年への対応は、大正八・九年の大沢室の「神殿」(のちに三柱神社)築造をめぐって顕在化する。

神殿建物の建造を具体的に知ることができる資料はない。建物の外壁は全面に張られている。内壁と天井は、枠が組み込まれるのみで、両方に壁板は張られていない。奉納額を壁板や天井板の代わりに内壁と天井に用いることを想定している。

奉納物(板マネギをはめ込んだ奉納額)について見ていくと、正面の奥壁(東壁)左側に、年代が明らかな奉納額「1-①」(報告書二の整理番号、以下同じ)

が貼り付けられる。大正八年の「神田七講 大正九庚申年七月吉日 中道大沢室 建立記念」を中央に配したもの。同七講の㊩(二四枚)、カクタ(山田、一四枚)、㊪(八九枚)、㊫(三四枚)、山身(三五枚)の五講中のマネギがはめ込まれる。㊬(清水)・山一・㊭・山咲講はない。その下の奉納額「1-②」は、㊮(鍋町・練堀町、二枚)、廿六夜講(麴町区二番町、一枚)、㊯(東京・深川、三枚)、㊰(二枚)、山玉(三枚)、山吉(二枚)、㊱(一枚)、山高(一枚)からなる「深川十講」であり、一番下の隙間は、奉納金額と奉納者名を記した木札を並べ打ち付けて埋める。同じ奥壁でも、中央の祭壇を挟んだ南側は、通常の板壁になっている。

北壁・左側の上位に、タテカワ(立川・九枚)、山真(一六枚)、マルトウ(㊲・七五枚)、山万^(あき)(二八枚)、山三(一枚)のマネギからなる額「1-①」を貼り付ける。下位は、山富^(㊳)・タテカワ・山桜登元講・㊲三夜講の大マネギ各一枚と㊲講(八枚)を組み込んだもの「1-②」。㊲・㊳講は神田八講のうち。

北壁・中央上位に、「元十三講」の奉納額「2-①」が貼り付けられる。㊴(一枚)、㊵(二枚)、月三(三枚)、月参(一枚)、㊶(三枚)、㊷(一枚)、内丸(一枚)、山護(一枚)、㊸(九枚)のマネギを額にはめ込む。その下位の額「2-②」は、上位と同じ規格で、一体で製作されたもの。㊹(五枚)、㊺(一四枚)、東(二枚)、山花(二枚)、㊻^(官位)(二枚)、山三(一枚)、㊼(三枚)、山咲(一枚)、㊽(二枚)、山高(五枚)のマネギをはめ込む。同一三講を網羅する。

北壁・右側上位の額は、上二段を山三講(三八枚)などが占める「3-①」。そのほかは山一(二枚)、㊾(一枚)、タテカワ(三枚)である。三・四段は、瑞江(江戸川区)などの割菱八行(五四枚)、五から七段までが横浜市元浜町四丁目割菱同行(七三枚)である。「東京府下南葛飾郡瑞江」や横浜市に講が族生している。下位は、神田八講(扶桑教、一枚)のもの「3-②」。㊿(三枚)、^(不)(三枚)、^(㊿)(二四枚)、^(㊿)(一枚)である。正面祭壇の腰壁も割菱八行瑞江松江睦講の奉納額「5-①」(四〇枚)である。

南壁は昭和以降に奉納額を張ったものと考えられる。左側中段の額「7-②」

は㉔講社（二二枚）のもの。同下段の額〔7-③〕は㉕（二二枚）、山光（二枚）、開山（一枚）、巴（一枚）、山一（木花元講・一枚）、山身㉖（二枚）、山正広（一枚）を組み込んだもので、神田八講のもの。南壁中央の中段〔8-②〕は㉗（大久保十七夜講）、㉘（廿六夜登山会）、㉙（廿六夜講社）の大マネギ（三枚）と、下段〔8-③〕山桜（野州佐野越名開運講社）、㉚（群馬県前橋市）、山桜（浅草十七夜・登元講社）、㉛（東京府下荏原郡羽田町）の大マネギ（四枚）であり、東大久保町（新宿区）廿六夜講社は「大正九年七月吉日」、㉜講の「麴下六」（廿六夜）を中心とした登山会は「大正拾貳年七月廿日中道紀年」、越名開運講社は「大正拾壹年七月吉日」、㉝講社は「昭和六年六月吉日」にそれぞれ中道を廻っている。南壁右側の額〔9-②〕は山吉惣元講（神田・二五枚）、大井町（九枚）を組み合わせたもの。

これら以外に、本来の額の形態で掲げたものがあり、太刀奉納額〔9-①〕（南壁右側）と、「元祖身祿霊神」〔6-①〕（東壁右側）、「浅間大神」〔7-①〕（南壁左側）、「雲霧不動明王」〔8-①〕（南壁中央）の三枚セットのものがある。太刀奉納額は、大正十一年八月吉祥日に神田七講内の㉞講（神田元同行・外神田講社・下谷一心講・本所一心講）が太刀を付けて奉納している。「元祖身祿霊神」ほか二点は、昭和十九年五月吉日に柳橋富士講（千代田区）先達村山晃行が発起人となって「国威宣揚・天攘無窮」「大東亜戦・必勝祈願」「皇軍将士・武運長久」に掲げたもので、この身祿霊神、浅間大神、雲霧不動の神仏を「富士三柱大神」（三柱神社）としている。講員（寄付者）は、室蘭（北海道）、秋田（秋田県）、山形（山形県）、大宮（埼玉県）、日本橋・新橋・志ば・麻布・淀橋・下谷・浅草・浅草橋・柳橋・千束・本所・両国・向島・寺島・深川・大島・渋谷・代々木・中野・目黒・荏原・大森・蒲田・世田ヶ谷・巣鴨・池袋・板橋・滝野川・荒川・西新井・江戸川・三鷹（東京都）、横浜・鶴見・小田原（神奈川県）、富山（富山県）、熱海・富士宮（静岡県）に分布する。

天井部の額は第二次大戦後に天井に貼られている。南側の額〔10-①〕は昭和

三十三年に山桜扶桑教付属教会の富士天祥教会光信講の勝又照行が発起人になって奉納した。同講は埼玉と、神田・蛸殻町・菊川・亀沢町・堅川・東駒形・入船町・千駄ヶ谷・大森・西荻・練馬・荒川・足立・金町に広がる。続く額〔10-②〕は山吉㉟（二〇枚）、江戸川区（八枚）、江東区（一〇枚）と区の不明のもの一枚である。中央は㊱の額〔11-①〕（五二枚）、東京神徳講・昭和七御縁年大々御神楽記念〔11-②〕、山吉㉟御水講〔11-③〕（三三枚）のもの。北側は「深川十講睦」〔12-①〕で昭和二年に製作されたもの。山玉三夜（木場・一三枚）、同㉟（九枚）、山吉㉟・清（四枚）、山高㉟（二枚）、山菊㉟（六枚）、㉟（四枚）、㉟元（四枚）、㉟（八枚）の八講のもの、㉟・㉟元登山会〔12-②〕のものは、㉟登山会（四谷・二六枚）、㉟元登山会（四谷・一三枚）である。講名を記さないもの〔12-③〕に、江東区と名前（二一枚）、江戸川区と名前（二一枚）がある。山吉㉟講の講員であろう。

これらが屋内の全面に壁や天井として貼られている。近世からの系譜を引く神田七講や深川十三講などの支援を受けて神殿は築造された。そして、近世的な講中から扶桑教に結集する新たな組織へと転換し、近代的な講社が主体となって神殿は支えられてきた。以上の奉納物に関するデータを地域ごとに分別し、それ以前のものに併せて整理し第二部「大沢室奉納物一覧」に掲げた。

次の一九八〇年（昭和五十五年）の縁年には、その四年前の中道での遭難によって大沢の越場が封鎖されたことから、この場を利用した行事等は一切行われなかった。

五 三浦半島の富士講社と御中道

中道を巡拝する富士講には、扶桑教傘下の富士講社が圧倒的に多い。三浦半島（神奈川県）には数多くの富士講が存続した。拠点的な講社に横須賀（緑ヶ丘）の山三祈禱講がある。同市長沢のダイ（台）とイリ（入）には、扶桑教傘下の富士講丸伊講が存在する。斉藤義次氏は台の丸伊講に加入し、現在まで富士講の活

動を継続しているが、現在は一般の講員のいない「一人先達」になってしまった。入も丸伊講で、登山にはともに吉田の浅間坊を定宿にして吉田口を登山した。ハマ（浜）の富元講は須走を定宿にし、そこから登山した。

斉藤義次氏は、昭和二十八年に先達として講員を引率し最初のオチュウド（御中渡）を踏んだ⁽¹⁹⁾。吉田口登山道を登頂・下向し、スナハライの小屋（穴小屋）に泊まって御中道に備えた。翌日に中道へ踏み出して、その日は富士宮口五合目に到着した。そして、一九六四年（昭和三十九年）には、船津口の専用道路に沿うように、山梨県営富士山有料道路（富士スバルライン）が開通した。

斉藤氏を先達とする二度目の御中道は昭和四十一年に実施している。このときは久須志神社の神官の奨めもあって、頂上から富士宮口を五合目まで下山し、そ

こから御中道を半周し大沢を渡る方法をとった。頂上のオハチ（御鉢）を廻ってから、さらに富士宮口の下降点へ向かい、つまり頂上を一周半して下山し、昼を過ぎて三時半から四時ころにようやく大沢室に到着したという。大沢を渡る前に行をしてから越場を渡って大沢室に宿泊し、翌日には吉田に下山した。大沢室の小屋主の話では、その当時、白い浄衣を着て草鞋を履いて通るのが富士講社であり、通常の登山者は靴を履いて通るので、そのどちらであるか足下を見ればすぐにわかったという。浜の富元講や津久井の講社は須走の小申額を定宿にして東口を登山した。

まとめにかえて

中道を巡廻する修行は、富士講の修行の一つ、御中道・御中渡として定着した。その中でも、大沢を越える修行が最も危険なものであり、それを象徴的に御中渡と呼び慣わしている。富士山の中腹を巡拝する信仰の道筋は、近世後期頃までに固定化されたと考えられる。

三浦半島は、富士講の盛んなところであり、㊦の笠印を印した一行が登山にやってきたが、須走からの登山者は、丸中渡という中道を時計廻りに一周する巡拝行よりは、むしろ逆廻りに大沢室まで行って行をする半中渡・裏中渡が新たな信仰形態として一般化したという。

戦後は富士講であっても、登山には馬返までの裏門（富士山自動車）のバス、さらには船津口の登山バスを利用するようになった。船津からは自動車専用の登山道を三合目までバスで行き、そこで小型のバスに乗り換えて小御嶽（五合目）に到着した。そして、一九六四年（昭和三十九年）には、船津口の専用道路に沿うように、山梨県営富士山有料道路（富士スバルライン）が開通した。

斉藤氏を先達とする二度目の御中道は昭和四十一年に実施している。このときは久須志神社の神官の奨めもあって、頂上から富士宮口を五合目まで下山し、そ

大沢周辺には、行場が集中した。大沢を渡る前行の場所、大沢御前付近には、「大沢の室」が存在したが、明治三十八年には「潰落せし腐朽の木材」の建ち腐りとなっていた。一方、その越場には、「小山の室」が存在し、もとは大宮持の室（小屋）であったが、船津の中村歌三郎が継承し、現在の大沢室（大沢休泊所）になっている。雲霧不動とその信仰は、旧来の大沢の室のものであり、現在の小屋の信仰的なあり方は、二つの室の統合の結果と考えられる。この小屋が保持している雲霧不動を祀ること、「御正体」と呼ぶ霊薬（樹木に寄生する茸を粉末にしたもの）を販売していたことなどの修験的な要素は、大沢の室から引き継いだものであろう。そして不動の信仰を核とした小屋は扶桑教の拠点へと転換していくことになる。その画期となったのは、大正九年の縁年であったといえよう。扶桑教傘下の講社が神殿を建立し、それを記念して石造物や屋内の奉納物を寄進して信仰の場に整備している。

昭和五十二年に大沢越場が通行不能となって、ここを踏破する富士講の御中道や一般の巡廻も全く行われなくなってしまった。山梨県側では、一昨年の滑沢や仏石流の崩落によって大沢までも行くことができなくなってしまった。以上、中道廻りと大沢室の奉納物についての現状整理の報告としたい。

註

- (1) 『富士山村山口登山道遺跡調査報告書』富士宮市郷土資料館 一九九三年
- (2) 『甲斐国志』巻三五（第二巻 雄山閣 一九七〇年）
- (3) 『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書二』資料篇 二〇一六年
- (4) 前掲（2）に同じ。
- (5) 『隔搔録』（『富士吉田市史』史料編第五巻 一九九七年）
- (6) 『修訂駿河国新風土記』下（国書刊行会 一九七五年 復刻）
- (7) 『八葉九尊図』（富士山登山案内図）富士吉田市歴史民俗博物館 二〇〇〇年）
- (8) 『月旺御身拔』（『富士吉田市史』史料編第五巻 一九九七年）
- (9) 『富士山道知留辺』（『富士吉田市史』史料編第五巻 一九九七年）
- (10) 『富士山吉田口登山道関連遺跡』富士吉田市教育委員会 二〇〇一年
- (11) 『富士吉田市史』（史料編第五巻 一九九七年）
- (12) 同家が所蔵するものは、『富士山明細図』（富士吉田市歴史民俗博物館 一九九七年）の「天地境浅間宮」を基点にしており、不浄ヶ嶽を出発点として認識してはいない。
- (13) 小林謙光「東講『東登山日記簿』（万延元年）に見る富士登拝、中道巡り及び八海巡り（解説と考察）」（『富士山文化研究』第六号 富士山文化研究会 二〇〇五年）
- (14) 宮崎紋吉『富士中道巡』一九〇五年
- (15) 前掲（13）に同じ。
- (16) 『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書二』資料篇 二〇一六年
- (17) 例えば、道了尊（南足柄市）の石造物群や玉垣等に見られる字体や石材に近似するよう
に思われる。
- (18) 『富士講と富士塚―東京・神奈川―』常民文化研究所研究報告第二集 一九七八年
- (19) 『富士山 山梨県富士山総合学術調査研究報告書二』資料篇 二〇一六年

			岩岡春吉	⑩、㊟神奈川講
			服部邦一	⑩
			吉田栄夫	⑩
			沼田力三	⑩
			岩田孫八	⑩
		横須賀 富士田浦教会(4-③-30)		⑩
		山三 祈禱講(2-②-23)		⑩
		佐原 富士講(三浦富士)		「民俗地図」
			鈴木吉蔵	⑩
			斉藤義次	⑩
			山田巖	⑩
			長谷川新蔵	⑩、富元講
			吉田貫一	⑩
			菊島龍太郎	⑩、㊟講
				⑧
				⑧
				⑧
		山桜 小田原(6-①-1)		⑩
		早川 富士講		⑩

横浜市神奈川区神奈川					
横浜市神奈川区二本榎					
横浜市港北区篠原					
葉山町下山口					
葉山町下山口					
横須賀市田浦					
横須賀市山王町					
横須賀市佐原					
横須賀市林					
横須賀市長沢					
横須賀市長沢					
横須賀市津久井					
横須賀市上宮田					
横須賀市菊名					
座間市					割菱 相模国
厚木市飯山					飯山 (吉田)吉田改所
小田原市小田原					㊦ 小田原宿
小田原市小田原					
小田原市早川					

幕末期	明治時代	大正時代	昭和時代	出典・備考
		大師登山会 川崎大師(13-①-11)		⑧、⑩
		川崎 懇講(4-③-33)		⑩
		⑩ 川崎睦講(13-①-17)		⑧、⑩
				⑧
			佐々木留雄	⑩
		割菱 同行(3-①-119)		⑩
		割菱 同行(3-①-129)		⑩
		割菱 同行(3-①-144)		⑩
		割菱 同行(3-①-157)		⑩
		割菱 同行(3-①-120)		⑩
		割菱 同行(3-①-115)		⑩
		割菱 同行(3-①-139)		⑩
		割菱 同行(3-①-143)		⑩
		割菱 同行(3-①-136)		⑩
		割菱 同行(3-①-156)		⑩
		割菱 同行(3-①-130)		⑩
		割菱 同行(3-①-135)		⑩
		割菱 同行(3-①-145)		⑩
		割菱 同行(3-①-138)		⑩
		割菱 同行(3-①-152)		⑩
		割菱 同行(3-①-159)		⑩
		割菱 同行(3-①-171)		⑩
		割菱 同行(3-①-137)		⑩
		割菱 同行(3-①-132)		⑩
		割菱 同行(3-①-111)		⑩
		割菱 同行(3-①-149)		⑩
		割菱 同行(3-①-121)		⑩
		割菱 同行(3-①-155)		⑩
		割菱 同行(3-①-160)		⑩
		割菱 同行(3-①-15)		⑩
		割菱 同行(3-①-100)		⑩
		割菱 同行(3-①-101)		⑩
		割菱 同行(3-①-102)		⑩
		割菱 同行(3-①-103)		⑩
		割菱 同行(3-①-108)		⑩
		割菱 同行(3-①-109)		⑩
		割菱 同行(3-①-112)		⑩
		割菱 同行(3-①-162)		⑩
		割菱 同行(3-①-165)		⑩
		割菱 同行(3-①-166)		⑩
		割菱 同行(3-①-167)		⑩
		割菱 同行(3-①-168)		⑩
		割菱 同行(3-①-169)		⑩
		割菱 同行(3-①-172)		⑩
		割菱 同行(3-①-106)		⑩
		割菱 同行(3-①-151)		⑩
		割菱 同行(3-①-140)		⑩
		割菱 同行(3-①-141)		⑩
		割菱 同行(3-①-142)		⑩
		割菱 同行(3-①-153)		⑩
		割菱 同行(3-①-154)		⑩
		割菱 同行(3-①-107)		⑩
		割菱 同行(3-①-127)		⑩
		割菱 同行(3-①-128)		⑩
		割菱 同行(3-①-133)		⑩
		割菱 同行(3-①-134)		⑩
		割菱 同行(3-①-163)		⑩
		割菱 同行(3-①-147)		⑩
		割菱 同行(3-①-150)		⑩
		割菱 同行(3-①-118)		⑩
		割菱 同行(3-①-131)		⑩
		割菱 同行(3-①-114)		⑩
		割菱 同行(3-①-123)		⑩、宮崎丸
		割菱 同行(3-①-124)		⑩、宮崎丸
		割菱 同行(3-①-125)		⑩、宮崎丸
		割菱 同行(3-①-126)		⑩、宮崎丸
		西野儀助(4-③-6)		⑩、宮崎丸
		山桜 横浜(8-①-21)		⑩
		割菱 同行(3-①-122)		⑩
		割菱 同行(3-①-104)		⑩
		割菱 同行(3-①-105)		⑩、中国上海
		割菱 同行(3-①-146)		⑩
		割菱 同行(3-①-117)		⑩
		割菱 同行(3-①-110)		⑩
		扶桑拾七夜 鶴見町(13-①-7) 山桜 鶴見(6-①-26)		⑩
			飯島市太郎	⑩
		割菱 同行(3-①-148)		⑩
				⑧

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
川崎市川崎区大師町			川崎		
川崎市川崎区大師町					大師河原（吉田）小沢遠江
川崎市川崎区					
川崎市川崎区					㊦ 川崎宿
川崎市中原区下小田中					山富 玉川村
川崎市多摩区寺尾台					
横浜市中区花咲町					
横浜市中区花咲町					
横浜市中区黄金町					
横浜市中区初音町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区南吉田町					
横浜市中区未吉町					
横浜市中区羽衣町					
横浜市中区相生町					
横浜市中区相生町					
横浜市中区港町					
横浜市中区港町					
横浜市中区港町					
横浜市中区港町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区元浜町					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区北仲通					
横浜市中区(大老町)					
横浜市中区(野牛町)					
横浜市中区(宮崎丸)					
横浜市中区					
横浜市中区					
横浜市中区					
横浜市中区					
横浜市中区北方町					
横浜市中区根岸					
横浜市中区根岸					
横浜市中区根岸					
横浜市中区石川町					
横浜市南区中村町					
横浜市鶴見区鶴見					
横浜市鶴見区生麦					
横浜市鶴見区生麦					
横浜市神奈川区神奈川					山霞(富士霞) 神奈川

			江戸川区(12-③-28)	⑩
			江戸川区(12-③-29)	⑩
			西一之江(5-①-1)	⑩
			須賀又吉	⑩
		割菱八代 世話人(3-①-63)		⑩
		割菱八代 特別訓導(3-①-64)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-65)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-66)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-67)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-68)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-69)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-70)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-74)		⑩
			(割菱) (5-①-8)	⑩
		割菱八代 世話人(3-①-71)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-72)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-73)		⑩
			本沢礼行	⑩
			山岡助次郎	⑩
			(割菱) (5-①-14)	⑩
			(割菱) (5-①-22)	⑩
			(割菱) (5-①-24)	⑩
			(割菱) (5-①-25)	⑩
			(割菱) (5-①-29)	⑩
				⑧
		割菱八代 世話人(3-①-75)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-76)		⑩
		割菱八代 椿一之江同行(3-①-77)		⑩
			(割菱) (5-①-12)	⑩
			(割菱) (5-①-16)	⑩
			(割菱) (5-①-21)	⑩
			(割菱) (5-①-27)	⑩
			(割菱) (5-①-28)	⑩
			(割菱) (5-①-30)	⑩
		割菱八代 谷河内(3-①-83)		⑩
		割菱八代 西一之江(3-①-93)		⑩
		割菱八代 西一之江(3-①-94)		⑩
		割菱八代 西一之江(3-①-95)		⑩
			(割菱) (5-①-5)	⑩
			(割菱) (5-①-6)	⑩
			(割菱) (5-①-7)	⑩
			(割菱) (5-①-11)	⑩
		割菱八代 東小松川(3-①-78)		⑩
		割菱八代 (3-①-84)		⑩
		割菱八代 (3-①-85)		⑩
		割菱八代 (3-①-86)		⑩
		割菱八代 (3-①-96)		⑩
		割菱八代 (3-①-97)		⑩
		割菱八代 (3-①-98)		⑩
		割菱八代 (3-①-99)		⑩
		㊦ 三夜(1-②-4)		⑩
			(割菱) (5-①-2)	⑩
			(割菱) (5-①-3)	⑩
			(割菱) (5-①-4)	⑩
			(割菱) (5-①-9)	⑩
			(割菱) (5-①-10)	⑩
			(割菱) (5-①-13)	⑩
			(割菱) (5-①-15)	⑩
			(割菱) (5-①-17)	⑩
			(割菱) (5-①-18)	⑩
			(割菱) (5-①-19)	⑩
			(割菱) (5-①-20)	⑩
			(割菱) (5-①-23)	⑩
			(割菱) (5-①-26)	⑩
			梅村常吉	⑩
			須賀右蔵	⑩
			渡辺徳次郎	⑩
			荻川権太郎	⑩
			長島 富士講	『民俗地図』
			森万蔵	⑩
		㊦ 西浮田(1-①-75)		⑩
		㊦ 西浮田(1-①-76)		⑩
		㊦ 西浮田(1-①-77)		⑩
		㊦ 西浮田(1-①-78)		⑩
			山桜 三鷹(7-①-25)	⑩
			広瀬幸	⑩、玉川仙元教会
				⑧
		割菱 同行(3-①-113)		⑩
		東都ふぢ島(13-①-34)		⑩

江戸川区瑞江					
江戸川区瑞江					
江戸川区西一之江					
江戸川区東瑞江					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区上今井					
江戸川区前野					
江戸川区前野					
江戸川区前野					
江戸川区江戸川					
江戸川区今井					
江戸川区今井					
江戸川区今井					
江戸川区今井					
江戸川区今井					
江戸川区今井					
江戸川区今井					山か 葛西
江戸川区下今井					
江戸川区下今井					
江戸川区一之江					
江戸川区一之江					
江戸川区一之江					
江戸川区一之江					
江戸川区一之江					
江戸川区一之江					
江戸川区谷河内					
江戸川区西一之江					
江戸川区西一之江					
江戸川区西一之江					
江戸川区西一之江					
江戸川区西一之江					
江戸川区西一之江					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区東小松川					
江戸川区葛西					
江戸川区葛西					
江戸川区葛西					
江戸川区葛西					
江戸川区東葛西					
江戸川区東葛西					
江戸川区宇喜多町					
江戸川区宇喜多町					
江戸川区宇喜多町					
江戸川区宇喜多町					
三鷹市					
日野市					
八王子市					八王子 (吉田)外川美濃
町田市本町田					
(不明)					

			山桜 滝の川(7-①-15)	⑩
			山桜 滝の川(6-①-16)	⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-6)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-7)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-8)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-9)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-10)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-13)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-17)		⑩
		㊦ 西ヶ原(2-②-18)		⑩
		山吉 上中里(9-②-3)		⑩
		㊦ 中里(2-②-14)		⑩
				⑧
			山桜 荒川(7-①-7)	⑩
			山桜 荒川(10-①-2)	⑩
			山桜 荒川(10-①-3)	⑩
			山桜 荒川(10-①-15)	⑩
			山桜 荒川(10-①-17)	⑩
				⑧
			三河島(5-0-4)	⑩
		丸参千住講 羽田(4-③-8)		⑧、⑩
				⑧
				⑧
		丸藤千住講 東京(4-③-34)		
			滝口忠三郎	⑩
			大野亀太郎	⑩
			鹿島三五郎	⑩
		東京㊦ 千住(13-①-37)		⑩
		東京㊦ 千住講元(13-①-38)		⑩
		東京㊦ 千住講元(13-①-39)		⑩
		東京㊦ 千住世話人(13-①-40)		⑩
		東京㊦ 千住世話人(13-①-41)		⑩
		東京㊦ 千住世話人(13-①-42)		⑩
			山桜 足立(10-①-7)	⑩
			鈴木大次郎	⑩
			日比谷留吉	⑩
				⑧
			山桜 西新井(8-①-12)	⑩
			畠山重喜	⑩
			勝又照行	⑩、富士天照教会
			東京㊦ 舎人(11-①-45)	⑩
			山桜 金町(10-①-4)	⑩
			広瀬富美子	⑩
			三原幸	⑩
		山身十七夜講 小松川(4-①-178)		⑩
		割菱八代 瑞江講総同行(3-①-46)		⑩
		割菱八代 元講大先達(3-①-47)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-48)		⑩
		割菱八代 権訓導(3-①-49)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-50)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-51)		⑩
		割菱八代 世話人(3-①-52)		⑩
		割菱八代 教導(3-①-53)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-54)		⑩
		割菱八代 特別講員(3-①-55)		⑩
		割菱八代 (3-①-56)		⑩
		割菱八代 (3-①-57)		⑩
		割菱八代 (3-①-58)		⑩
		割菱八代 (3-①-59)		⑩
		割菱八代 (3-①-60)		⑩
		割菱八代 (3-①-61)		⑩
		割菱八代 ㊦(3-①-62)		⑩
		瑞江講(13-①-3)		⑩
		割菱 八行瑞江曉講御(5-①)		⑩
			山桜 江戸川(7-①-12)	⑩
			江戸川区(10-②-11)	⑩
			江戸川区(10-②-12)	⑩
			江戸川区(10-②-13)	⑩
			江戸川区(10-②-14)	⑩
			江戸川区(10-②-15)	⑩
			江戸川区(10-②-16)	⑩
			江戸川区(10-②-17)	⑩
			江戸川区(10-②-18)	⑩
			江戸川区(12-③-19)	⑩
			江戸川区(12-③-20)	⑩
			江戸川区(12-③-21)	⑩
			江戸川区(12-③-22)	⑩
			江戸川区(12-③-23)	⑩
			江戸川区(12-③-24)	⑩
			江戸川区(12-③-25)	⑩
			江戸川区(12-③-26)	⑩
			江戸川区(12-③-27)	⑩

		北口㊟ 品川講社(4-㉔-6)	品川 ㊟講品川富士	㊟『民俗地図』
			金崎之彦	㊟
		大井町 (9-㉔-26)		㊟
		大井町 (9-㉔-27)		㊟
		大井町 (9-㉔-28)		㊟
		大井町 (9-㉔-29)		㊟
		大井町 (9-㉔-30)		㊟
		㊟ (9-㉔-31)		㊟
		大井町 (9-㉔-32)		㊟
		大井町 (9-㉔-33)		㊟
		大井町 (9-㉔-34)		㊟
			大崎 世話人睦(11-㉔-44)	㊟
			㊟ 大崎居木橋(12-㉔-1)	㊟
			㊟ 五反田(12-㉔-9)	㊟
			山田昌行	㊟
			池田和司	㊟
			山桜 荏原(6-㉔-27)	㊟
		上神明 丸本一講(4-㉔-7)		㊟
			山桜 大森(6-㉔-19)	㊟
			山桜 大森(6-㉔-9)	㊟
		㊟ 馬込(1-㉔-2)		㊟
		東京 馬込元講(13-㉔-9)		㊟
		㊟ 六合講社(1-㉔-125)		㊟
			依田藤利	㊟
			田中敬一	㊟
			さ組 蒲田(5-0-12)	㊟
			山桜 蒲田(6-㉔-7)	㊟
			山桜 蒲田(7-㉔-16)	㊟
		㊟ 梶幸町(1-㉔-43)		㊟
			桜井利信	㊟
		㊟ 木花元講(3-㉔-16)		㊟
		㊟ 鈴木新田木花元講(3-㉔-17)		㊟
			(六角一) 木花元講(7-㉔-17)	㊟
			㊟ 講社八(8-㉔-4)	㊟
		東京 羽田木花講(4-㉔-2)		㊟
		羽田 浅間教会(4-㉔-9)		㊟
			山桜 世田ヶ谷(7-㉔-8)	㊟
			町田洋	㊟、『火山灰は語る』著者
			渡辺正臣	㊟
			穴野健武	㊟
			元木素風	㊟
		山富㊟ 喜多見(1-㉔-1)		㊟
		山富㊟ (4-㉔-19)		㊟
		月三 松ノ木講(4-㉔-13)		㊟
			山桜 西荻(10-㉔-14)	㊟
				㊟
			山桜 中野(7-㉔-23)	㊟
			㊟ 中野下町(12-㉔-7)	㊟
			坂本光雄	㊟
		㊟ 巢鴨元講(2-㉔-18)		㊟
		東京巢鴨 丸嘉講(13-㉔-19)		㊟
				㊟
		山身十七夜講 巢鴨(4-㉔-179)		㊟
		山身十七夜講 西野内(4-㉔-180)		㊟
			山桜 巢鴨(6-㉔-17)	㊟
		月三 池袋同行(2-㉔-17)		㊟
		月三 池袋講社(13-㉔-12)		㊟
			山桜 池袋(8-㉔-26)	㊟
			大貫鉦太郎	㊟
			月三椎名町 東京長崎(5-0-7)	㊟
			月三椎名町 元講社(5-0-8)	㊟
		東京 (13-㉔-26)		㊟
		月三 総元講(2-㉔-13)		㊟
		月三 椎名町元講(2-㉔-19)		㊟
		雑司ヶ谷(13-0-2)		㊟
		東京㊟ 雑司ヶ谷(7-㉔-20)		㊟
			山桜 練馬(10-㉔-8)	㊟
			高山作左衛門	㊟、㊟高松講社
			佐々木留雄	㊟
		(板橋) 永田丸板(13-㉔-13)		㊟、㊟
			山桜 板橋(6-㉔-4)	㊟
			山桜 板橋(6-㉔-21)	㊟
				㊟
				㊟
				㊟
		山吉 神谷世話人(9-㉔-7)		㊟
		山吉 世話人(9-㉔-8)		㊟
				㊟
		㊟ 王子(2-㉔-12)		㊟
		㊟ 滝の川元講(2-㉔-20)		㊟
			御水山吉 滝野川(12-㉔-26)	㊟

		江東区 (12-③-1)	⑩
		江東区 (12-③-2)	⑩
		江東区 (12-③-3)	⑩
		江東区 (12-③-4)	⑩
		江東区 (12-③-5)	⑩
			⑧
			⑧
			⑧
			⑧
		冬木町 剣岩 (13-①-57)	⑩
		深浜 (13-①-58)	⑩
		深浜 (13-①-59)	⑩
		(13-①-60)	⑩
		(13-①-61)	⑩
			⑧
		㊦ 大島講社(3-②-9)	⑩
			⑧
			⑧
		㊦ 深川元講(4-②-12)	⑩
		㊦元 深川(12-①-40)	⑩
		㊦元 深川(12-①-41)	⑩
		㊦元 深川(12-①-42)	⑩
		㊦元 深川仲町(12-①-43)	⑩
		㊦ 深川(12-①-35)	⑩
		㊦ 深川(12-①-36)	⑩
		㊦ 深川(12-①-37)	⑩
		㊦ 深川(12-①-38)	⑩
		㊦ 深川(12-①-39)	⑩
		㊦ 深川(5-0-3)	⑩
		㊦ 四谷深川(12-②-32)	⑩
		山桜 深川(6-①-5)	⑩
		山玉三夜 深川門前岸(12-①-10)	⑩
			⑧
		木場(13-0-1)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-1)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-2)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-3)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-4)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-5)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-6)	⑩
		山玉三夜 (12-①-7)	⑩
		山玉三夜 (12-①-8)	⑩
		山玉三夜 (12-①-9)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-12)	⑩
		山玉三夜 木場(12-①-13)	⑩
		山玉㊦ 木場(12-①-14)	⑩
		山玉㊦ (12-①-15)	⑩
		山玉㊦ (12-①-16)	⑩
		山玉㊦ (12-①-17)	⑩
		山玉㊦ (12-①-18)	⑩
		山玉㊦ (12-①-19)	⑩
		山玉㊦ (12-①-20)	⑩
		山玉㊦ (12-①-21)	⑩
		山玉㊦ (12-①-22)	⑩
		御水山吉㊦ (12-①-23)	⑩
		御水山吉㊦ (12-①-24)	⑩
		御水山吉㊦ (12-①-25)	⑩
		山桜 入船町(10-①-22)	⑩
			⑧
		東京 剣岩講(13-①-5)	⑩
		東京 剣岩講(13-①-15)	⑩
		池ヶ谷弥太郎	⑩
		永田裕康	⑩
		山桜 大島(6-①-15)	⑩
		㊦ 亀戸講社(3-②-11)	⑩
		㊦ 亀戸(4-②-20)	⑩
		東京 亀戸(13-①-31)	⑩
		東京 亀戸(13-①-32)	⑩
			⑧
		山桜 渋谷(7-①-27)	⑩
		中島武治	⑩
		山桜 千駄ヶ谷(10-①-16)	⑩
		㊦ 代々木元講(2-①-23)	⑩
		山桜 代々木(7-①-24)	⑩
		山桜 代々木(8-①-28)	⑩
			⑧
		山桜 目黒(6-①-11)	⑩
		堤箸芳子	⑩
		北口㊦ 品川講社(4-②-5)	⑧、⑩

	山高深 元講新大はし三(2-②-31)		⑩
	山高深 元講新大はし三(2-②-32)		⑩
	山高深 元講新大はし三(2-②-33)		⑩
	山高深 元講新大はし三(2-②-34)		⑩
	山高深 元講常盤・新下二(2-②-35)		⑩
		山高◎ 西六(12-①-27)	⑩
		山高◎ 西六(12-①-28)	⑩
	山高◎ 同行(4-②-14)		⑩
	◎ 深川西元(2-②-11)		⑩
			⑧
			⑧
			⑧
	山吉㊦ 講社(4-②-9)		⑩
		山吉㊦ 御水講開講八拾周年記念	⑩
		山吉㊦ 先達(11-③-1)	⑩
		山吉㊦ 先達(11-③-2)	⑩
		山吉㊦ 先達(11-③-3)	⑩
		山吉㊦ 先達(11-③-4)	⑩
		山吉㊦ 会計監査(11-③-5)	⑩
		山吉㊦ 会計(11-③-6)	⑩
		山吉㊦ 会計(11-③-7)	⑩
		山吉㊦ 大先達(11-③-8)	⑩
		山吉㊦ 副講元(11-③-9)	⑩
		山吉㊦ 講元(11-③-10)	⑩
		山吉㊦ 相談役(11-③-11)	⑩
		山吉㊦ 相談役(11-③-13)	⑩
		山吉㊦ 顧問(11-③-14)	⑩
		山吉㊦ 顧問(11-③-15)	⑩
		山吉㊦ 顧問(11-③-16)	⑩
		山吉㊦ 顧問(11-③-17)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-18)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-19)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-20)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-21)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-22)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-23)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-24)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-25)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-26)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-27)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-28)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-29)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-30)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-31)	⑩
		山吉㊦ 世話人(11-③-32)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-1)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-2)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-3)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-4)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-5)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-6)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-7)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-8)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-9)	⑩
		山吉㊦ (砂町・10-②-10)	⑩
		江東区 砂町(12-③-6)	⑩
		江東区 砂町(12-③-7)	⑩
		江東区 砂町(12-③-8)	⑩
		江東区 砂町(12-③-9)	⑩
		江東区 (12-③-10)	⑩
		江東区 (12-③-11)	⑩
		江東区 (12-③-12)	⑩
		江東区 (12-③-13)	⑩
		江東区 (12-③-14)	⑩
		江東区 (12-③-15)	⑩
		江東区 (12-③-16)	⑩
		江東区 (12-③-17)	⑩
		世話人(12-③-18)	⑩
		江東区 (10-②-19)	⑩
		江東区 (10-②-20)	⑩
		江東区 (10-②-21)	⑩
		江東区 (10-②-22)	⑩
		江東区 (12-③-23)	⑩
		江東区 (12-③-24)	⑩
		江東区 (12-③-25)	⑩
		江東区 (12-③-26)	⑩
		江東区 (12-③-27)	⑩
		江東区 (12-③-28)	⑩
		江東区 (12-③-29)	⑩
		江東区 (12-③-30)	⑩
		江東区 (12-③-31)	⑩
		江東区 (12-③-32)	⑩

	山万㊟ 浅草玉姫町(1-①-100)		㊟
	山万㊟ 浅草玉姫町(1-①-107)		㊟
		東京㊟ 浅草玉姫町(7-②-5)	㊟
		東京㊟ 副先達(7-②-6)	㊟
		東京㊟ 大先達(7-②-8)	㊟
		東京㊟ (7-②-9)	㊟
		東京㊟ 世話人(7-②-10)	㊟
		東京㊟ 世話人(7-②-11)	㊟
		東京㊟ 浅草区玉姫町(7-②-12)	㊟
	(山万㊟) 浅草吉野町(1-①-109)		㊟
		東京㊟ はしば(11-②-42)	㊟
		東京㊟ はしば(11-②-48)	㊟
	山万㊟ 浅草田中一(1-①-108)		㊟
		山桜 東駒形(10-①-20)	㊟
	山万㊟ 浅草金尾(1-①-124)		㊟
	山万㊟ 汐入村(1-①-111)		㊟
		恩田文次郎	㊟
		山桜 堅川(10-①-21)	㊟
		山桜 堅川(10-①-24)	㊟
	神田㊟ 元井(4-①-117)		㊟
	山身十七夜講 横綱(4-①-181)		㊟
	(本所一心講) 白井巳之吉(9-①)		㊟、㊟本所一心講
	(本所一心講) 坂本源治郎(9-①)		㊟
	(本所一心講) 名倉周吉(9-①)		㊟
	(本所一心講) 市村国太郎(9-①)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-47)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-48)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-49)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-50)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-51)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-52)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-53)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-54)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-55)		㊟
	㊟本所 一心講(4-①-56)		㊟
	(山万㊟) 本所(1-①-124)		㊟
		東京㊟ 本所(7-②-18)	㊟
		東京㊟ 本所(7-②-21)	㊟
		東京㊟ 本所(7-②-22)	㊟
		東京㊟ 本所(7-②-18)	㊟
		東京㊟ 本所(7-②-21)	㊟
		東京㊟ 世話人(7-②-22)	㊟
		山桜 本所(6-①-18)	㊟
		山桜 本所(8-①-9)	㊟
		山桜 本所(6-①-18)	㊟
		山桜 本所(8-①-9)	㊟
	東京 山菊丸元講(4-③-10)		㊟
		山菊㊟ 大先達(12-①-29)	㊟
		山菊㊟元 大先達(12-①-30)	㊟
		山菊㊟ 大先達(12-①-31)	㊟
		山菊㊟ 副先達(12-①-32)	㊟
		山菊㊟ 副先達(12-①-33)	㊟
		山菊㊟ 世話人(12-①-34)	㊟
		山桜 菊川(10-①-23)	㊟
	㊟ 元両国(1-①-1)		㊟
	㊟ 両国講元(1-①-2)		㊟
	㊟ 両国先達(1-①-3)		㊟
	㊟ 両国副先達(1-①-4)		㊟
	㊟ 両国講社長(1-①-5)		㊟
	㊟ 両国世話人(1-①-6)		㊟
	㊟ 両国世話人(1-①-7)		㊟
	㊟ 両国世話人(1-①-8)		㊟
		山桜 富士松(8-①-23)	㊟
		山桜 両国(8-①-24)	㊟
		山桜 両国(8-①-27)	㊟
		山桜 緑町(10-①-19)	㊟
			㊟
			㊟
			㊟
	㊟廿六夜(小梅町) 小梅町(4-①-13)		㊟
	小梅(4-①-14)		㊟
	神田㊟ 増井二黒堂(4-①-113)		㊟
	(山万㊟) 本所横川町(1-①-100)		㊟
			㊟
	㊟ 向島講社(3-②-10)		㊟
	㊟ 向島(1-①-67)		㊟
		山桜 扶桑閣富士講	㊟
		向島(8-①-1)	㊟
		向島(8-①-25)	㊟
		山桜 寺島(7-①-14)	㊟
			㊟
			㊟

台東区今戸・清川・橋場・東浅草					
台東区今戸・清川・橋場・東浅草					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区今戸					
台東区橋場					
台東区橋場					
台東区清川・東浅草					
台東区東駒形					
(浅草金尾)					
台東区橋場・日本堤					
墨田区堅川					
墨田区堅川					
墨田区堅川					
墨田区横綱					
墨田区横綱					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区本所					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区立川					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区南国					
墨田区緑					
墨田区本所・東駒形					㊦ 本所馬場
墨田区石原・本所					㊧ 本所割下水
墨田区石原・本所					㊨ 本所割下水
墨田区吾妻橋・東駒形					
墨田区吾妻橋・東駒形					
墨田区石原					
墨田区石原					
墨田区本所					㊩ 本所
墨田区向島					
墨田区向島					
墨田区向島					
墨田区向島					
墨田区向島					
江東区新大橋・森下・常盤					㊪ 深川六間堀
江東区新大橋・森下・常盤					㊫ 深川六間堀

		㊦ 浅草(2-①-9)		⑩
		㊦ 浅草(2-①-10)		⑩
		㊦ 元十三講(2-①-11)		⑩
				⑧
				⑧
		神田㊦ 小倉堂(4-①-133)		⑩
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
		神田㊦ 山崎(4-①-116)		⑩
		㊦心 浅草一心講(7-③-12)		⑩
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
		山(桜) 浅草田町登元講(1-②-③)		⑩
				⑧
			山桜 浅草(6-①-14)	⑩
			山桜 浅草(6-①-22)	⑩
			山桜 浅草(6-①-24)	⑩
			山桜 浅草(6-①-25)	⑩
			山桜 浅草(6-①-28)	⑩
			山桜 浅草(7-①-11)	⑩
			山桜 浅草(7-①-19)	⑩
			山桜 浅草(7-①-22)	⑩
			山桜 浅草(8-①-5)	⑩
			山桜 浅草(8-①-8)	⑩
			山桜 浅草(8-①-13)	⑩
			山桜 浅草(8-①-14)	⑩
			山桜 浅草(8-①-15)	⑩
			山桜 浅草(8-①-10)	⑩
			山桜 浅草(8-①-11)	⑩
			山桜 浅草(8-①-17)	⑩
			山桜 浅草(8-①-18)	⑩
			山桜 浅草(8-①-19)	⑩
			山桜 浅草(8-①-20)	⑩
		㊦ 浅草(1-①-42)		⑩
			(神徳講) 浅草猿若町(11-②-1)	⑩
			(神徳講) 世話人(11-②-2)	⑩
			(神徳講) 相談役(11-②-3)	⑩
			東京㊦ 浅草(11-①-7)	⑩
			東京㊦ 浅草(11-①-39)	⑩
			東北山桜 浅草十七夜	⑩
			登元講社(8-③-3)	⑩
			(東京㊦) 浅草田町(7-②-4)	⑩
			東京㊦ 浅草仲之町(7-②-7)	⑩
		㊦廿六夜 車坂(4-①-10)		⑧、⑩
		㊦廿六夜 今戸(4-①-12)		⑧、⑩
				⑧
				⑧
		山万㊦ 浅草吉野町(1-①-109)		⑩
		浅草田一・浅草山谷		⑩
		山万㊦ 吾妻はし・花川戸(1-①-104)		⑩
		浅千二		⑩
				⑧
		山万㊦ 山谷(1-①-110)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-112)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-113)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-114)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-115)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-116)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-118)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-119)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-120)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-121)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-122)		⑩
		山万㊦ 浅草山谷(1-①-123)		⑩
		山万㊦ 山谷鍛冶町(1-①-99)		⑩
		山万㊦ 山谷(1-①-105)		⑩
		山万㊦ 浅千二(1-①-102)		⑩
		神田㊦ 小淵(4-①-137)		⑩
			山桜 千束(7-①-28)	⑩
		神田七講中道大沢堂建立記念		⑩
		㊦廿六夜 先達(4-①-1)		⑩
		㊦廿六夜 南千・講元(4-①-2)		⑩
		㊦廿六夜 浅草(4-①-3)		⑩
		㊦廿六夜 浅千(4-①-11)		⑩
			東京㊦ 千束(11-①-44)	⑩
		山万㊦ 浅草吉野町(1-①-103)		⑩
		山万㊦ 浅草今戸(1-①-128)		⑩

41

		㊤ 下谷一心講(4-①-44)		㊤
		㊤ 下谷一心講(4-①-45)		㊤
		㊤ 下谷一心講(4-①-46)		㊤
			山桜 下谷(6-①-12)	㊤
			山桜 下谷(6-①-7)	㊤
			山桜 下谷(6-①-13)	㊤
			㊤ 坂本(13-①-71)	㊤
			(㊤) 坂本(13-①-72)	㊤
			(㊤) 坂本(13-①-73)	㊤
			(㊤) 坂本(13-①-74)	㊤
			(㊤) 坂本(13-①-75)	㊤
			(㊤) 坂本(13-①-76)	㊤
				㊤
		㊤廿六夜 浅聖(4-①-4)		㊤
			(神徳講) 上野桜木町(11-②-33)	㊤
			(神徳講) 上野桜木町(11-②-38)	㊤
			(神徳講) ((11-②-39)	㊤
			東京㊤ 池之端(11-①-47)	㊤
		㊤廿六夜 茅町(4-①-6)		㊤
				㊤、㊤力
		㊤㊤ 東京谷中(2-②-22)		㊤、㊤
		㊤㊤ 東京谷中(2-②-26)		㊤
		㊤一心 水野(3-②-15)		㊤
		㊤一心 浅井(3-②-21)		㊤
		㊤ 入谷尾崎(1-②-12)		㊤
		(㊤) 入谷(1-②-5)		㊤
		㊤ 入谷(1-②-7)		㊤
			南入谷(13-①-45)	㊤
			中入谷(13-①-46)	㊤
			南入谷(13-①-47)	㊤
			南入谷(13-①-48)	㊤
		神田㊤ 梅本(4-①-135)		㊤
			(神徳講) 江戸入谷(11-②-40)	㊤
			(神徳講) 江戸入谷町(11-②-15)	㊤
			(神徳講) 丸山(11-②-16)	㊤
				㊤
				㊤
				㊤
		神田㊤ 佐藤(4-①-134)		㊤
			(神徳講) 浅草鳥越(11-②-4・5)	㊤
			(神徳講) 浅草鳥越(11-②-21・22)	㊤
			(神徳講) ㊤(11-②-23・24)	㊤
			(神徳講) 浅草田松(11-②-30)	㊤
		神田㊤ 西川(4-①-115)		㊤
			(神徳講) 浅草向柳原(11-②-6)	㊤
			(神徳講) 講元(11-②-7)	㊤
			(神徳講) 浅草向柳原(11-②-27)	㊤
			(神徳講) 浅草向柳原(11-②-28)	㊤
			(神徳講) 山サ(11-②-29)	㊤
		(㊤) 浅草左衛門町(1-②-6)		㊤
		㊤ 浅草左衛門町(2-①-26)		㊤
		㊤ 浅草(1-②-10)		㊤
		(㊤) 浅草福井町小島(1-②-9)		㊤
			山桜 浅草橋(7-①-5)	㊤
			山桜 浅草橋(7-①-6)	㊤
			山桜 浅草橋(7-①-10)	㊤
			山桜 浅草橋(7-①-21)	㊤
			山桜 浅草橋(7-①-26)	㊤
				㊤
		山万㊤ 浅草山谷講社(1-①-101)		㊤
		浅草北三筋町・浅草小島町		㊤
		山万㊤ 浅草小島町(1-①-127)		㊤
				㊤
				㊤
			山吉 昭和七年 東京神徳講	㊤
			(神徳講) (11-②-17)	㊤
			(神徳講) (11-②-18)	㊤
			(神徳講) (11-②-19)	㊤
			(神徳講) 胸形町(11-②-20)	㊤
		山身十七夜講 浅草三間(4-①-175)		㊤
		㊤ 三間町(2-②-30)		㊤
		神田㊤ 三間町(4-①-132)		㊤
		神田㊤ 武山(4-①-138)		㊤
		山万㊤ 七軒町(1-①-106)		㊤
		㊤ 中道開山講社(2-①-1)		㊤
		㊤ 大先達(2-①-2)		㊤
		㊤ 浅草(2-①-3)		㊤
		㊤ 浅草(2-①-4)		㊤
		㊤ 松葉町(2-①-5)		㊤
		㊤ 浅草(2-①-6)		㊤
		㊤ 浅草(2-①-7)		㊤
		㊤ 浅草(2-①-8)		㊤

台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					東 下谷坂本四丁目
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区三ノ輪					山富 箕輪新町天王前
台東区上野公園					
台東区上野桜木					
台東区上野桜木					
台東区上野桜木					
台東区池之端					
台東区池之端					
台東区池之端					㊤ 池之端七軒町
台東区谷中					㊤㊤ 谷中
台東区谷中					
台東区上野					
台東区上野					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区入谷					
台東区浅草					㊤ 浅草一ノ権現
台東区浅草					㊤ 浅草子チャ刀ノ地内
台東区浅草					浅草 (吉田)塩谷平内左衛門
台東区浅草					
台東区鳥越					
台東区鳥越					
台東区鳥越					
台東区鳥越					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区浅草橋					
台東区鳥越					㊤ 浅草鳥越
台東区小島町					
台東区小島町					
台東区小島町					
台東区小島町					山身 浅草新堀
台東区小島町					山身 セイロウ下(浅草カ)
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区駒形					
台東区寿					
台東区元浅草					
台東区浅草					
台東区浅草					
台東区浅草					
台東区浅草					
台東区松が谷					
台東区浅草					
台東区浅草					
台東区浅草					

	※ 竹早町(3-②-12)		⑩
	神田㊦ 多喜(4-①-143)		⑩
	山護 (大塚坂下町)元講(2-①-22)		⑧、⑩
	山護元講 (4-③-4)		⑧、⑩
	山護 (13-①-52)		⑩
	(山護) (13-①-53)		⑩
		東京㊦ 第一小頭(11-①-1)	⑩
		東京㊦ 第一部長(11-①-2)	⑩
		東京㊦ 敬神会(11-①-3)	⑩
		東京㊦ 本郷(11-①-4)	⑩
		東京㊦ 本郷(11-①-11)	⑩
		東京㊦ 本郷(11-①-41)	⑩
		(東京㊦) 本郷□□町(11-②-32)	⑩
		東京㊦ 元行(11-①-12)	⑩
		東京㊦ 敬神会(11-①-13)	⑩
	敬神講(13-①-1)		⑩
		東京㊦ 第三纏(11-①-16)	⑩
		東京㊦ 第四小頭(11-①-17)	⑩
		東京㊦ 第四小頭(11-①-18)	⑩
		東京㊦ 第三小頭(11-①-19)	⑩
		東京㊦ 第三小頭(11-①-20)	⑩
		東京㊦ 第三部長(11-①-21)	⑩
		東京㊦ 第二部小頭(11-①-22)	⑩
		東京㊦ 第二小頭(11-①-23)	⑩
		東京㊦ 第二部長(11-①-24)	⑩
		東京㊦ 第一小頭(11-①-25)	⑩
			⑧
	(㊦) 湯島天神町(2-②-2)		⑩
		湯島天神(11-②-35)	⑩
		湯島天神(11-②-36)	⑩
		湯島天神(11-②-37)	⑩
		湯島天神(11-②-42)	⑩
		湯島天神(11-②-43)	⑩
		岡本亀次郎	⑩
本郷三丁目	神田㊦ 竹沢(4-①-142)		⑩
	神田㊦ 樋山(4-①-136)		⑩
			⑧
	山花㊦ 本郷講社(2-②-21)		⑩
	(山花) 山花丸本講(13-①-18)		⑩
	(山花) 本郷(13-①-65)		⑩
			⑧
	山咲㊦ 講社((2-②-27)		⑧、⑩
			⑧
			⑧
			⑧
	㊦ 本郷肴町(2-②-29)		⑩
	(㊦) 駒込(2-0-6)		⑩
	㊦ 地元廿三夜講(5-0-11)		⑩
	㊦ 富士前町(2-②-15)		⑩
	㊦ 講元(2-②-16)		⑩
	丸瀬廿三夜講(4-③-25)		⑩
		津屋広達	⑩
			⑧
			⑧
			⑧
	㊦ 下谷忍ヶ岡(2-②-28)		⑩
	㊦ 下谷(2-②-36)		⑩
	東㊦ 下谷講社(2-②-19)		⑩
	㊦ 下谷(2-②-24)		⑩
	㊦ (2-②-25)		⑩
	東京下谷(13-①-67)		⑩
	(13-①-68)		⑩
	(13-①-69)		⑩
	(13-①-70)		⑩
	(下谷一心講) 高尾治郎吉(9-①)		⑩、㊦下谷一心講
	(下谷一心講) 高橋秀之助(9-①)		⑩
	(下谷一心講) 下村善太郎(9-①)		⑩
	(下谷一心講) 小池勝(9-①)		⑩
	(下谷一心講) 増田録一郎(9-①)		⑩
	山身㊦ 練堀町総元(7-③-18)		⑩
	㊦ 神田練堀町(4-②-2)		⑩
			⑧
	神田㊦ 堀口(4-①-130)		⑩
		下谷御徒一(11-②-41)	⑩
		竹町㊦ 竹町(11-②-31)	⑩、山吉東京神徳講
			⑧
		(神徳講) 東京上野町(11-②-9)	⑩
		(神徳講) 世話人(11-②-10)	⑩
		(神徳講) (11-②-11)	⑩
		(神徳講) (11-②-11)	⑩
		(神徳講) 東京上野(11-②-34)	⑩
	㊦ 下谷一心講(4-①-43)		⑩

文京区小石川					
文京区春日					
文京区音羽					㊦ 東青柳町
文京区音羽					㊦ 雄司ヶ谷音羽町一丁目
文京区音羽					
文京区音羽					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区湯島					㊦ 湯島
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区湯島					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					㊦ 本郷六丁目
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					
文京区本郷					㊦ 本郷春木町
文京区本郷					山咲 本郷春木町一丁目
文京区本郷					幣東 本郷元町
文京区西片					(㊦) 本郷丸山町
文京区西片					山吉 本郷大根畑
文京区向丘					
文京区本駒込					㊦ 駒込富士前
文京区本駒込					
文京区本駒込					
文京区本駒込					
文京区西方					
文京区西方					
文京区根津					㊦ 根津
文京区本駒込					山水 駒込
文京区本駒込					(㊦) 駒込
台東区上野公園					
台東区上野公園					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区下谷					
台東区秋葉原					
台東区秋葉原					
台東区上野					㊦ 下谷三枚橋
台東区台東					
台東区台東					
台東区台東					
台東区台東					
台東区東上野					㊦ 下谷薬店
台東区上野					
台東区上野					
台東区上野					
台東区上野					
台東区上野					
台東区下谷					

			㊤ 四谷南町(12-②-16)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-17)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-18)	㊤
			㊤ 府下南町(12-②-19)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-20)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-21)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-22)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-24)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-25)	㊤
			㊤ 四谷登山会(12-②-26)	㊤
			㊤ 四谷登山会(12-②-13)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-27)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-28)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-34)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-35)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-36)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-37)	㊤
			㊤ 四谷南町(12-②-38)	㊤
			㊤ 四谷登山会(12-②-39)	㊤
			丸谷二拾六夜講(4-③-14)	㊤、㊤
			廿六夜登山会(19-①-8)	㊤
			東京㊤ 四ッ谷谷町(7-②-16)	㊤
			㊤ 四谷谷町(12-②-29)	㊤
			㊤ 四谷谷町(12-②-30)	㊤
			丸谷拾三夜講(4-③-32)	㊤
			東京 東運講(13-①-4)	㊤
				㊤
				㊤
				㊤
				㊤
				㊤
				㊤
		㊤ 牛込薬王寺((1-①-53)		㊤
				㊤
				㊤
				㊤
				㊤
			戸山 (13-①-63)	㊤
			(13-①-64)	㊤
				㊤
			㊤ 牛込通寺町(12-②-10)	㊤
			東京㊤ 牛込(7-②-13)	㊤
			東京㊤ 牛込山吹町(7-②-17)	㊤
			東京㊤ 牛込山吹町(7-②-19)	㊤
			北口㊤ 東京講社(7-②-1)	㊤
			東京㊤ 先達(7-2-2)	㊤
			東京㊤ 世話人(7-②-3)	㊤
		北口㊤ 東京(13-①-35)		㊤
		牛込 春□(13-0-3)	東京㊤ 山吹町(7-①-4)	㊤
				㊤
			井田清重	㊤、㊤宮元講
			東京㊤ 早稲田鶴巻町(7-②-14)	㊤
			東京㊤ 柏木(11-①-46)	㊤
			神永政次	㊤
			山桜 淀橋(7-①-18)	㊤
		㊤ (新町)元講(2-①-16)		㊤
		㊤ 廿三夜講(2-①-15)		㊤
		西大久保 丸谷廿三夜講(13-①-21)		㊤
			奥山春季	㊤
		奉納㊤ 大久保十七夜講社同行(8-②-1)		㊤
		東都大久保 (1-0-5)		㊤
		東都大久保 (1-0-7)		㊤
			奉納㊤ 東大久保町廿六夜講社(8-②-3)	㊤
		東京 ㊤総元講(13-①-16)		㊤、㊤
		高田八右衛門		㊤
		東京落合 月三総元講(13-①-20)		㊤
		宇田川金太郎		㊤
			㊤ 府下下落合(12-②-8)	㊤
			岩崎又吉	㊤
			東京㊤ 小石川(11-①-6)	㊤
		下富坂(13-①-66)		㊤
				㊤
				㊤
			㊤ 小石川(12-②-33)	㊤
		神田㊤ 魚玉(4-①-144)		㊤
		神田㊤ ◇栗野(4-①-146)		㊤
		神田㊤ □(4-①-151)		㊤
				㊤
		神田㊤ 木具文(4-①-145)		㊤
		㊤ 小石川御殿町(1-②-8)		㊤
				㊤
				㊤
		(㊤) 丸山新町		㊤

新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					
新宿区南元町					(㊟) 谷町
新宿区南元町					
新宿区若葉					
新宿区若葉					
新宿区若葉					
新宿区若葉					
新宿区若葉					
新宿区新宿・内藤町					内丸 内藤新宿
新宿区新宿・内藤町					(内丸) 新宿
新宿区新宿・内藤町					(内丸) 新宿
新宿区新宿・内藤町					(内丸) 新宿
新宿区新宿・内藤町					(内丸) 新宿
新宿区新宿・内藤町					(内丸) 天竜寺門前
新宿区市谷薬王寺町					
新宿区市谷台町					㊟ 市ヶ谷谷町
新宿区市谷台町					㊥ 市ヶ谷谷町
新宿区牛込原町					(㊟) 原町
新宿区戸山					
新宿区戸山					
新宿区横寺町					㊦ 牛込寺町
新宿区神楽坂					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区山吹町					
新宿区牛込					
新宿区早稲田鶴巻町					
新宿区早稲田鶴巻町					
新宿区北新宿					
新宿区北新宿					
新宿区西新宿					
新宿区西新宿					
新宿区西大久保					
新宿区西大久保					
新宿区西大久保					
新宿区大久保					
新宿区大久保					
新宿区東大久保					
新宿区高田馬場					㊧ 高田馬場
新宿区下落合					
新宿区下落合					
新宿区下落合					
新宿区下落合					
文京区小石川					
文京区小石川					
文京区後楽					(㊨) 小石川
文京区後楽					(㊩) 小石川
文京区小石川					
文京区小石川					
文京区小石川					
文京区小石川					㊪ 小石川鍋差町
文京区後楽					
文京区白山					
文京区白山					㊫ 小石川白山前町
文京区白山					㊬ 白山四ツ辻
文京区白山					

	山三 東京麻布(1-0-2)		⑩
	山三 東京麻布(2-0-7)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-22)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-23)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-24)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-25)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-26)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-27)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-28)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-29)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-30)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-31)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-32)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-33)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-34)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-35)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-36)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-37)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-38)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-39)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-40)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-41)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-42)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-43)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-44)		⑩
	山三 東京麻布(3-①-45)		⑩
	山三 東京麻布(3-0-1)		⑩
	㊦ 可集庵(3-0-2)		⑩
	山三 東都元講(1-0-4)	麻布山三元講(13-①-2)	⑩
			⑧
	山真総元 (1-①-9)		⑩
	山真総元 (1-①-10)		⑩
	山真総元 (1-①-11)		⑩
	山真総元 (1-①-12)		⑩
	山真総元 (1-①-13)		⑩
	山真総元 (1-①-14)		⑩
	山真総元 (1-①-15)		⑩
	山真総元 (1-①-16)		⑩
	山真総元 (1-①-17)		⑩
	山真総元 (1-①-18)		⑩
	山真総元 (1-①-19)		⑩
	山真総元 (1-①-20)		⑩
	山真総元 (1-①-21)		⑩
	山真総元 (1-①-22)		⑩
	山真総元 (1-①-23)		⑩
	山真総元 (1-①-129)		⑩
	山真総元講 (4-③-1)		⑩
	山真㊦講 世話人(13-①-14)		⑩
		山正広元講 (7-③-20)	⑧、⑩
			⑧
		山桜 麻布(7-①-17)	⑩
			⑧
			⑧
			⑧
		㊦ 四谷赤坂(12-③-31)	⑩
			⑧
			⑧
			⑧
			⑧
			⑧
			⑧
	割菱同行 青山北町(3-①-116)		⑩
	内丸元講 新宿(2-①-21)		⑩
	㊦ 新宿(3-②-22)		⑩
	㊦伊藤 四谷(2-①-12)		⑩
		東京 伊藤四谷講(13-①-6)	⑩
		東京㊦ 四谷(13-①-54)	⑩
		(東京㊦) (13-①-55)	⑩
		(東京㊦) (13-①-56)	⑩
			⑧
			⑧
			⑧
	㊦四ッ谷 塗金(1-①-37)		⑩
			⑧
		㊦ 四谷新一丁目(12-②-2)	⑩
		㊦ 四谷伝馬町新一丁目(12-②-3)	⑩
		㊦ 四谷(12-②-6)	⑩
		㊦ 四谷天王横町(12-②-11)	⑩
		㊦ 四谷新一丁目(12-②-12)	⑩
		㊦ 四谷北伊賀町(12-②-4)	⑩
			⑧
			⑧
		㊦ 四谷南町(12-②-14)	⑩
		㊦ 四谷南町(12-②-15)	⑩

		㊦ 鉄砲洲(1-①-82)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-83)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-84)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-85)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-86)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-87)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-88)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-89)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-90)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-91)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-92)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-93)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-94)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-95)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-96)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-97)		㊦
		㊦ 鉄砲洲(1-①-98)		㊦
			山桜 日本橋(6-①-3)	㊦
			山桜 日本橋(8-①-6)	㊦
			山桜 日本橋(8-①-4)	㊦
			山桜 日本橋(8-①-16)	㊦
			東京㊦ 日本橋(11-①-5)	㊦
			東京㊦ 日本橋(11-①-50)	㊦
			山桜 志ば(7-①-2)	㊦
			山桜 志ば(7-①-13)	㊦
			志ば(13-0-4)	㊦
		山身十七夜講 講元(4-①-153)		㊦
		山身十七夜講 先達(4-①-154)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-155)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-156)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-157)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-158)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-159)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-160)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-161)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-162)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-163)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-164)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-165)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-166)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-167)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-168)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-169)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-170)		㊦
		山身十七夜講 先達(4-①-172)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-174)		㊦
		山身十七夜講 志んばし(4-①-177)		㊦
			山桜 新橋(6-①-10)	㊦
				㊦
				㊦
		㊦ 芝新銭座(1-①-40)		㊦
		㊦ 芝新銭座(1-①-41)		㊦
		㊦ 芝新銭座(1-①-76)		㊦
		㊦ 芝新銭座(1-①-64)		㊦
				㊦
				㊦
				㊦
				㊦
				㊦
		㊦ 芝烏森(3-②-1)		㊦
			東京㊦ 芝烏森(7-②-15)	㊦
			㊦ 芝区愛宕下四(12-②-23)	㊦
				㊦
				㊦
				㊦
				㊦
		山三 芝赤羽(3-①-1)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-2)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-3)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-4)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-5)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-6)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-7)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-8)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-9)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-10)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-11)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-12)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-13)		㊦
		山三 芝赤羽(3-①-14)		㊦
				㊦
				㊦

31

[illegible]

中央区日本橋小舟町					
中央区日本橋堀留町					㊤ 日本橋稻荷新道
中央区日本橋小網町			江戸堀四丁目		
中央区日本橋富沢町					山第 日本橋富沢町
中央区日本橋人形町					山万 玄治店
中央区日本橋人形町					
中央区日本橋小網町					山小 日本橋小網町
中央区日本橋蛸殻町					
中央区日本橋蛸殻町					
中央区日本橋蛸殻町					
中央区日本橋蛸殻町					
中央区日本橋蛸殻町					
中央区日本橋人形町					山身 松島町
中央区日本橋箱崎町					㊦ 日本橋箱崎一丁目
中央区日本橋箱崎町					㊧ 日本橋箱崎町
中央区日本橋横山町					山三 横山町三丁目
中央区東日本橋					山光 两国吉川町
中央区東日本橋					山枅 两国
中央区東日本橋					
中央区東日本橋					
中央区東日本橋					
中央区東日本橋					
中央区東日本橋					
中央区東日本橋					山宝 日本橋橋町
中央区日本橋浜町					
中央区日本橋浜町					
中央区日本橋浜町					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区八重洲					
中央区日本橋					山包 江戸橋
中央区八重洲					
中央区八重洲					山包 本材木町
中央区八重洲					
中央区日本橋兜町					
中央区日本橋兜町					
中央区築地					
中央区中橋					
中央区中橋					
中央区京橋					(不明) 南伝馬三水松町
中央区八重洲・京橋					山崎 北横町
中央区八重洲					
中央区京橋					
中央区京橋					㊨ 京橋
中央区京橋					山三 中橋南大工町中通
中央区京橋					
中央区京橋					
中央区京橋					
中央区八重洲・京橋					
中央区八重洲・京橋					
中央区八重洲・京橋					
中央区京橋					山三 中橋ぬし町
中央区京橋					山三 京はし中通鈴木町
中央区京橋					㊩ 京橋竹町
中央区銀座					山白滝 京橋銀座
中央区銀座					㊪ 銀座二丁目
中央区銀座					山崎 新肴町横町
中央区銀座					㊫ 京橋南鍋町
中央区銀座					(㊬) 山城河岸
中央区銀座					㊭ 滝山町
中央区銀座					山登 京橋尾張町
中央区銀座					山崎 京橋尾張町
中央区八丁堀					㊮十三夜 八丁堀
中央区八丁堀					㊯山 八丁堀
中央区八丁堀					
中央区八丁堀					
中央区八丁堀					㊰十七夜 八丁堀水谷町
中央区新川					山□ 雪岸島
中央区新川					㊱ 雪岸島
中央区銀座					㊲ 京橋木挽町
中央区銀座					㊳ 木挽町四丁目
(不明)					山三鱗
(不明)					山□
中央区湊					月三 鉄砲洲
中央区湊					
中央区湊					
中央区湊					

	神田山身 先達(4-①-118)		⑧
	外神田㊤ 仁村参行(4-①-30)		⑩、外神田㊤講元
	台所町 参行男仁村輝基(9-①)		⑩、口頼謹書
	参行妻仁村やす(9-①)		⑩
	外神田㊤ 大野明行(4-①-31)		⑩、外神田㊤先達
	外神田㊤ 飯島長行(4-①-32)		⑩
	(外神田元講社) 飯島長行(9-①)		⑩、㊤外神田元講
	外神田㊤ 原島(4-①-33)		⑩
	(外神田元講社) 原島長蔵(9-①)		⑩
	外神田㊤ 島村(4-①-34)		⑩
	(外神田元講社) 島村仁三郎(9-①)		⑩
	外神田㊤ 神田川(4-①-35)		⑩
	外神田㊤ 高砂(4-①-37)		⑩
	外神田㊤ 玉川酒店(4-①-38)		⑩
	外神田㊤ 若林(4-①-39)		⑩
	外神田㊤ 魚春(4-①-41)		⑩
	外神田㊤ 魚徳(4-①-40)		⑩、旅亭
		巴 神田防(7-③-16)	⑧、⑩
			⑧
	㊤一心 京源(3-②-5)		⑩、㊤一心神田旅籠町
	(㊤) 外神田(1-②-12)		⑩
		神田末広町(11-②-13) 先達(11-②-13・14)	⑩、(不明)
			⑧
	外神田㊤ ひし藤(4-①-42)		⑩、五軒町
		神田五軒町 (11-②-26)	⑩
	㊤ 神田佐久間町(2-②-5)		⑩
		山玉三夜 亀住堤福(12-①-11)	⑩
		総元松永町(7-③-19)	⑩、(不明)
	(山万㊤) 神田松永町(1-①-100)		⑩
		榎本(7-③-19)	⑩、(不明)
		有賀仙(11-②-8)	⑩、(不明)
		㊤福心 東京福代講(7-③-1)	⑩
		㊤福心 講元(7-③-2)	⑩
		㊤福心 世話人(7-③-3)	⑩
		㊤福心 世話人(7-③-4)	⑩
		㊤福心 世話人(7-③-5)	⑩
		㊤福心 世話人(7-③-6)	⑩
		㊤心 神田元講(7-③-7)	⑩
		㊤心 講元(7-③-9)	⑩
		㊤一心 講元(7-③-8)	⑩
		㊤一心 世話人(7-③-10)	⑩
		㊤一心 世話人(7-③-11)	⑩
	神田 村上神徳講(4-③-23)		⑩
		東京㊤ 神田(11-①-9)	⑩
		東京㊤ 神田(11-①-43)	⑩
		山桜 神田(10-①-10)	⑩
		山桜 神田(10-①-12)	⑩
	神田 小島大昇堂揮毫(4-0-1)		⑩
	山身十七夜講 神田(4-①-173)		⑩
	㊤廿六夜 神田(4-①-7)		⑩
	㊤廿六夜 神田(4-①-9)		⑩
			⑧
			⑧
			⑧
	神田 (13-①-43)		⑩
	□□□□町立(13-①-44)		⑩
			⑧
	山万㊤ 品川(1-①-117)		⑩
			⑨
			⑨
			⑨
			⑨
			⑨
	山三 日本橋(1-①-126)		⑧、⑩
	(山三ヵ) 東都魚がし(2-0-2)		⑧、⑩
	(山三ヵ) 卯老□町(2-0-3)		⑩
	山身十七夜講 魚河岸(4-①-185)		⑩
	立川 日本橋(3-①-19)		⑩
	立川 (3-①-20)		⑩
	立川 (3-①-21)		⑩
			⑧
			⑧
	神田㊤ 勝倉(4-①-127)		⑩
	神田㊤		⑩
			⑧
			⑧
	神田㊤ 小倉庵(4-①-98)		⑩
			⑩
			⑧
	山吉 帳元(9-②-9)		⑩、堀江三
	山吉 総代(9-②-10)		⑩

	神田㊤ 道具(4-①-89)		㊤
	西若(4-①-90)		㊤
		大塚慶子	㊤、㊤神田元講(神田囃子保存会)
		神田 神田囃子保存会(5-0-1)	㊤、(威名)
	神田㊤ ぼたん(4-①-91)		㊤
	神田㊤ やぶ(4-①-92)		㊤
	神田㊤ 川志ま(4-①-93)		㊤
	神田㊤ 玉水(4-①-94)		㊤
	神田㊤ 福寿(4-①-95)		㊤
	神田㊤ 松竹庵(4-①-96)		㊤
	神田㊤ 府川光行(4-①-57)		㊤
	奉納(太刀、㊤・神田七講之内)(9-①)		㊤、㊤(神田七講之内)
	(神田元同行) 府川光行(9-①)		㊤
	神田㊤ 真壁□大吉(4-①-58)		㊤
	神田㊤ 武内連雀町(4-①-59)		㊤
	(神田元同行) 武内和行(9-①)		㊤
	神田㊤ 佐藤紀政(4-①-60)		㊤
	(神田元同行) 佐藤政次郎(9-①)		㊤
	神田㊤ 鈴木経金(4-①-61)		㊤
	神田㊤ 神保銅栄(4-①-62)		㊤
	(神田元同行) 神保福次郎(9-①)		㊤
	神田㊤ 権田形豊(4-①-63)		㊤
	神田㊤ 荒井(4-①-64)		㊤
	神田㊤ 鈴木(4-①-65)		㊤
	(神田元同行) 鈴木金次郎(9-①)		㊤
	神田㊤ 田中下町政(4-①-66)		㊤
	神田㊤ 宮田大友(4-①-67)		㊤
	神田㊤ 松本紡ぶん(4-①-68)		㊤
	神田㊤ 小島大昇堂(4-①-69)		㊤
	(神田元同行) 小島庄四郎(9-①)		㊤
	神田㊤ 青山慶(4-①-70)		㊤
	(神田元同行) 青山啓之助(9-①)		㊤
	(神田元同行) 荒井悦三郎(9-①)		㊤
	(神田元同行) 鈴木市三(9-①)		㊤
	(神田元同行) 高田金次(9-①)		㊤
	(神田元同行) 高橋精一(9-①)		㊤
	(神田元同行) 真壁厚助(9-①)		㊤
	(㊤) 南乗物町(2-①-31)		㊤
			㊤
	㊤神田講社 神田(2-①-24)		㊤、㊤神田講社
	大正九庚申年		㊤
	㊤神田元講 神田鍛冶町(2-①-25)		㊤
	㊤ 神田鍛冶町(2-①-28)		㊤
			㊤
	㊤ 神田鍋町(2-①-27)		㊤
	㊤ 鍋町(4-②-1)		㊤
	神田㊤ 通新石(4-①-86)		㊤
			㊤
			㊤
	(㊤) 紺屋町八(2-②-3)		㊤
	㊤ 神田紺屋町(2-①-31)		㊤
	神田㊤ 紺三(4-①-87)		㊤
		㊤ 神田東松下町(7-③-15)	㊤
			㊤
	桜㊤一心 金柳工(3-②-2)		㊤、岩本町㊤一心講
	㊤一心 宮子(3-②-3)		㊤
	㊤一心 神輿屋村地(3-②-7)		㊤
	㊤一心 呉服商(3-②-13)		㊤
	㊤一心 京亀(3-②-14)		㊤、岩本町㊤一心
	㊤一心 京源(3-②-17)		㊤
	㊤一心 呉服商(3-②-20)		㊤
	㊤元 家安(3-②-4)		㊤
	㊤元 花□式(3-②-6)		㊤、岩本町㊤元
	㊤元 紋国(3-②-16)		㊤
	㊤元 近藤成(3-②-18)		㊤
			㊤
	㊤神田東竜閑町(2-②-2)		㊤
	長尾竹次郎		㊤
	神田㊤ 渡り(4-①-128)		㊤、大和町
	山桜 神田八講(3-②-8)		㊤
			㊤
	㊤ 神田川(1-②-11)		㊤
	山吉神田 吉田真行(9-②-1)		㊤
			㊤
	神田㊤ 金田(4-①-147)		㊤
	神田㊤ 中村(4-①-148)		㊤
	神田㊤ 銅茂(4-①-149)		㊤
	神田㊤ 石庫(4-①-150)		㊤
	神田㊤ 竹内(4-①-152)		㊤
	山吉外神田 ぬ□□□(9-②-2)		㊤、山吉
	(外神田元講社) 長平八(9-①)		㊤
	(外神田元講社) 黒柳銀次郎(9-①)		㊤

	神田㊦ 叶庄(4-①-72)		㊦
	神田㊦ 大宗(4-①-73)		㊦
	神田㊦ 大清(4-①-74)		㊦
	神田㊦ 三竹(4-①-75)		㊦
	神田㊦ 角鉄(4-①-76)		㊦
	神田㊦ 万定(4-①-77)		㊦
	神田㊦ ㊦(4-①-78)		㊦
	神田㊦ はし清(4-①-79)		㊦
	神田㊦ 信与(4-①-80)		㊦
	神田㊦ 定国(4-①-81)		㊦
	神田㊦ 上□(4-①-82)		㊦
	神田㊦ 三兼(4-①-83)		㊦
	神田㊦ 西和(4-①-84)		㊦
	㊦ 仲猿楽町(2-②-1)		㊦
	榎本福太郎		㊦
	熊木内		㊦
	茂手木倉太郎		㊦
	㊦ 仲猿楽町(2-①-30)		㊦
	熊木栄次郎		㊦
	神田㊦ 小川(4-①-121)		㊦、表猿(案町)
	神田㊦ 宮田(4-①-122)		㊦
	神田㊦ 奥田源(4-①-123)		㊦
	神田㊦ 板橋(4-①-124)		㊦
	神田㊦ 万成(4-①-125)		㊦
	神田㊦ 建綱(4-①-126)		㊦
	㊦ 今川小路浅野(1-②-9)		㊦
		長新一	㊦
	神田㊦ けぬきすし(4-①-97)		㊦
	神田㊦ ㊦大忠(4-①-111)		㊦
	神田㊦ 金寿司(4-①-99)		㊦
	神田㊦ きびや島野(4-①-105)		㊦
			㊦
	㊦一心 伐採商(3-②-19)		㊦、鎌倉町
	北川		㊦
	神田㊦ 小林悦(4-①-112)		㊦
	㊦ 東福田町(2-②-3)		㊦
	梅谷幾次郎		㊦
	㊦ かじ町吉田定吉(2-②-4)		㊦
	かじ町中村松太郎		㊦
	㊦ 千代田町(2-①-32)		㊦
	榎本千代松		㊦
		山光惣皆川町 鈴竹(7-③-14)	㊦、山光㊦
		山光㊦ 野本(7-③-13)	㊦、朝日町
	山吉惣元講 惣元講(9-②-12)		㊦
	神田 経安長沢(9-②-13)		㊦
	神田 経延長沢(9-②-14)		㊦
	神田 経勝山田(9-②-15)		㊦
	神田 経孝川村(9-②-16)		㊦
	神田 奥山あい(9-②-17)		㊦
	神田 宮川志ば(9-②-18)		㊦
	神田 佐藤宮城園(9-②-19)		㊦
	神田 建祐稲荷(9-②-20)		㊦
	神田 建福旭町(9-②-21)		㊦
	神田 ぬし亀渡辺(9-②-22)		㊦
	神田 須長上富士家(9-②-23)		㊦
	神田 宮田亀三郎(9-②-24)		㊦
	神田 斉藤文治(9-②-25)		㊦
	神田㊦ 梅照亭(4-①-100)		㊦
	神田㊦ 丸ぎん(4-①-101)		㊦
	神田㊦ 魚坂(4-①-102)		㊦
	神田㊦ 金子吉(4-①-103)		㊦
	神田㊦ 大久(4-①-104)		㊦
	神田㊦ 花市(4-①-106)		㊦
	神田㊦ 小沢(4-①-107)		㊦
	神田㊦ 延多免(4-①-108)		㊦
	神田㊦ 高橋(4-①-110)		㊦
	神田田 鍋島(4-①-27)		㊦
	神田田 神田同行(4-①-15)		㊦
	神田田 岸年次郎(4-①-16)		㊦
	神田田 高石鶴吉(4-①-17)		㊦
	神田田 波多野亀吉(4-①-18)		㊦
	神田田 依田経(4-①-19)		㊦
	神田田 小林留吉(4-①-20)		㊦
	神田田 岸和三郎(4-①-21)		㊦
	神田田 安野己太郎(4-①-22)		㊦
	神田田 神保徳太郎(4-①-23)		㊦
	神田田 吉川留吉(4-①-24)		㊦
	神田田 魚清(4-①-25)		㊦
	神田田 宮坂(4-①-26)		㊦
	神田田 大加め(4-①-28)		㊦
	神田㊦ 足立(4-①-85)		㊦
	神田㊦ 新連(4-①-88)		㊦

幕末期	明治時代	大正時代	昭和時代	出典・備考
				⑧
				⑧
				⑧
		◎麹永田式 小泉(1-①-45)		⑩
				⑧
				⑧
		◎麹 (1-①-46)		⑩
		◎ (1-①-47)		⑩
		◎ (1-①-48)		⑩
		◎麹六 舟羽(1-①-44)		⑩
		◎麹八 坪井(1-①-39)		⑩
				⑧
		◎麹 平川屋号(1-①-68)		⑩
		◎麹三番町 白田屋(1-①-36)		⑩
		◎麹町三番 鈴木秀司(1-①-71)		⑩
		◎麹下六 市川(1-①-24)		⑩
		◎(山長) 玉川(1-①-25)		⑩
		◎④ 井上(1-①-26)		⑩
		◎麹下六 井上(1-①-27)		⑩
		◎土手三 勝俣(1-①-28)		⑩
		◎山三 三清(1-①-29)		⑩
		◎麹中六 加藤(1-①-30)		⑩
		◎カネイ 伊勢安(1-①-31)		⑩
		◎麹下六 伊勢安(1-①-32)		⑩
		◎麹下六 加藤美夫(1-①-33)		⑩
		◎(麹下六) 理髪店(1-①-34)		⑩
		◎麹下六 上野(1-①-35)		⑩
		◎麹下六 更房(1-①-50)		⑩
		◎麹下六 川村(1-①-51)		⑩
		◎麹五味坂 吉沢(1-①-52)		⑩
		◎④ 橋政(1-①-54)		⑩
		◎④ 橋亀(1-①-55)		⑩
		◎麹下六 ミッ木亀(1-①-56)		⑩
		◎麹下六 ミッ木礼(1-①-57)		⑩
		◎麹下六 ミッ木専(1-①-58)		⑩
		◎東京 村岡(1-①-59)		⑩
		◎清水印刷所 清水正信(1-①-60)		⑩
		◎麹下六 竹花佐忠治(1-①-61)		⑩
		◎麹下六 酒商信濃屋(1-①-62)		⑩
		◎時計計サック製作業 むら岡(1-①-63)		⑩
		◎麹三 中村(1-①-65)		⑩
		◎麹下六 竹花梅子(1-①-66)		⑩
		◎麹下六 人力製造所(1-①-69)		⑩
		◎麹下六 岩沢政太郎(1-①-73)		⑩
		廿六夜講三番町 小林福造(4-②-3)		⑩
		下六番町 市川亀吉		⑩
		中六番町 井上伊三郎		⑩
		三番町 横田藤三郎		⑩
		土手三番町 勝俣清次郎		⑩
		千駄ヶ谷 小林栄吉		⑩
		横寺町 森峰吉		⑩
		榎町 宮地健次郎		⑩
		原町 吉田長次郎		⑩
		下六番町 ミッ木栄吉		⑩
		月参麹町元講 (2-①-14)		⑩
		◎麹下六 市川亀吉(4-②-2)		⑩
		加賀美雄		⑩
		上野忠八		⑩
		竹花庸元		⑩
		貝塚政吉		⑩
		岩沢政太郎		⑩
		小宮重太郎		⑩
		飯田義三郎		⑩
		新潟 荒木石太郎		⑩
		越中□ 井上伊三郎		⑩
		四谷伝新一 佐藤智吉		⑩
		麹下六 加藤安次郎		⑩
		牛込喜久井町 矢島堅吉		⑩
		四谷内藤町 宮崎仁太郎		⑩
		麹下六 ミッ木栄吉		⑩
		麹十一丁目 宇佐美幸太郎		⑩
		芝新銭座町 船戸栗太郎		⑩
		◎麹富士見寺 佐藤(1-①-49)		⑩
		神田◎ 板垣(4-①-119)		⑩
		神田◎ 横塚(4-①-120)		⑩
		神田◎ 田塾村(4-①-139)		⑩
		神田◎ 須川(4-①-140)		⑩
		神田◎ 石定(4-①-141)		⑩
		神田◎ 叶久(4-①-71)		⑩、神田市場

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
千代田区					松本様御家中（川口）本庄監物
千代田区霞が関					外桜田（川口）中村備後
千代田区霞が関					外桜田（吉田）小申谷伊予
千代田区永田町					
千代田区麹町					㊤山 麹町元
千代田区麹町					㊥ 麹町すし屋
千代田区麹町					
千代田区麹町					
千代田区麹町					
千代田区麹町					
千代田区平河町					㊦長 麹町平川
千代田区麹町					
千代田区九段南・北					
千代田区九段南・北					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区五番町					
千代田区五番町					
千代田区四番町					
千代田区四番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区四番町					
千代田区九段南・北					
千代田区五番町					
(新宿区霞岳町)					
(新宿区横寺町)					
(新宿区榎町)					
(新宿区原町)					
千代田区六番町					
千代田区麹町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
千代田区六番町					
(新潟市)					
(江東区越中島)					
(新宿区四谷)					
千代田区六番町					
(新宿区善久井町)					
(新宿区内藤町)					
千代田区六番町					
(新宿区四谷)					
(港区新橋)					
千代田区九段南					
千代田区富士見					㊧ 元飯田町
千代田区神田					
千代田区神田					
千代田区神田					
千代田区神田					
千代田区神田					

				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
				⑧
			皆川国太郎	

幕末期	明治時代	大正時代	昭和時代	出典・備考
		千葉市 月星講(13-①-23)		⑩
			鶴沢町 月星講	
		烏帽子岩講(13-①-25)		⑩
		寒川山真講(4-③-15)		⑩
		向寒川 山真講(13-①-30)		⑩
		山参三夜元講(4-3-22)		⑩、山参三夜元講
		向寒川 山参講(13-①-27)		⑩
		向寒川 山水講(13-①-28)		⑩
		寒川新宿講(4-③-16)		⑩
		山王丸下(4-③-21)		⑩
		千葉 星祖講(13-①-10)		⑩
		千葉 成増誠心講(13-①-24)		⑩
			幕張 富士講	『民俗地図』
		検見川町 割菱同行((3-①-158)		⑩
			川島錦次	⑩
			鈴木晃	⑩
			小池春吉	⑩
			土屋武雄	⑩
			飯島勢一	⑩
			臼井明行	⑩
			金子浅吉	⑩
			武藤貞一	⑩
			田中清	⑩
			中島康臣	⑩
			露木太郎	⑩
			高瀬長右衛門	⑩、富士教会本部
		欠真間 割菱八代(3-①-80)		⑩
		割菱八代(3-①-81)		⑩
		割菱八代(3-①-82)		⑩
		南行徳 割菱八代(3-①-79)		⑩
		行徳 ㊤行徳講社(奉納額×1)		⑩
		船橋 中村奎太郎(4-③-28)		⑩
		船橋 □□□□(4-③-29)		⑩
		船橋 ㊤講員(高木亀吉、(4-③-31))		⑩
			吉岡桑之進	⑩
		松戸町 宮□栄次(4-③-27)		⑩
			大橋 富士講	『民俗地図』
			中村進	⑩
			鈴木孝男	⑩
		佐倉 富士講世話人一同(4-③-17)		⑩
				④
				④
				④
				④
			割菱 同行(3-①-170)	⑧
		芦崎 割菱同行(3-①-161)		⑩
			伊藤清之助	⑩
			小川清	⑩
			大上 富士講	『民俗地図』
			荒井五郎	⑩
			中島賢	⑩
			中村正之	⑩
			中野平松	⑩
			西野 富士講(別に浅間講)	『民俗地図』
			鈴木房吉	⑩
			清達 富士講(浅間さま)	『民俗地図』
			庄司信二	⑩
		千葉県 鈴木茂右衛門(13-①-33)		⑩

深谷市矢島					矢島 (吉田)小沢隠岐
深谷市高島					高島 山三 (吉田)外川美濃
深谷市原郷					原野郷 (吉田)田辺主膳
深谷市国済寺カ					国沢 山三 (吉田)外川美濃
熊谷市熊谷					熊谷宿 (吉田)外川美濃
熊谷市熊谷					熊谷宿 山三 (吉田)刑部采女
熊谷市石原					石原 山三 (吉田)外川美濃
熊谷市村岡					村岡 (吉田)小友谷肥前
熊谷市原島					原島 (吉田)刑部采女
熊谷市三ヶ尻カ					国沢 (吉田)外川美濃
熊谷市上奈良					上奈良 (川口)川口改所
熊谷市小曾根					小曾根 (吉田)外川美濃
熊谷市下川上					下川上 (吉田)竹谷肥後
行田市小針					㊤ 武州忍領小針
さいたま市岩槻区本町					㊤ 武州岩附町元
さいたま市岩槻区斉藤新田					斉藤 (吉田)田辺伊賀
(不明)					

12〔千葉県〕

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
千葉市中央区					月星 下総国千葉
千葉市中央区鶴沢町					
千葉市中央区鶴沢町					
千葉市中央区寒川					
千葉市中央区寒川					
千葉市中央区寒川					
千葉市中央区寒川					
千葉市中央区寒川					
千葉市中央区					
千葉市中央区					
千葉市中央区					
千葉市花見川区幕張					
千葉市花見川区検見川					
千葉市稲毛区稲毛					
千葉市稲毛区稲毛					
千葉市若葉区古泉町					
八千代市米本					
八千代市米本					
習志野市花咲町					
船橋市宮本町					
船橋市宮本町					
船橋市宮本町					
船橋市海神町					
市川市鬼越					
市川市南行徳					
市川市欠真間					
市川市欠真間					
市川市欠真間					
市川市南行徳					
市川市行徳					
船橋市本町					
船橋市本町					
船橋市本町					
松戸市根本					
松戸市					
松戸市大橋					
佐倉市上座					
佐倉市上座					
佐倉市					
大栄町所				所	
山田町仁良			にらう		
東庄町笹川い			すか山		
東庄町窪野谷			くぼや野		
香取市佐原			さわら・さはら		
(海上郡芦崎)					
下総□□(不明)					
下総					
銚子市芦崎町					
旭市					
松尾町					
睦沢町大上					
市原市君塚町					
市原市五井町北					
市原市青柳台					
市原市青柳					
君津市山滝野					
鋸南町勝山					
天津小湊町清澄					
鴨川市川代					
(不明)					

	成島村 山致(布30〔鳥居室〕-401・404)	成島村 山致(布30・514)、山致(30・208・209・204)		『マネキ』
			大街道 山■(布30〔鳥居室〕-448)	『マネキ』
		高根 山桜富士桜講(布30〔鳥居室〕-414)		『マネキ』
	傍示塚 ㊤(紙30〔鳥居室〕-99・100)			『石造物』、『マネキ』
	下早川田 ㊤(紙30〔鳥居室〕-25・32・37・44)	下早川田 ㊤(紙30〔鳥居室〕-140・217)		『マネキ』
		㊤(紙30〔鳥居室〕-177)		『マネキ』
				㊤
千塚 ㊤(石碑43〔旧上文司〕-240)				『石造物』
		羽附村 ㊤(紙30〔鳥居室〕-176・226)		『マネキ』
上赤生田初10村 田辺安芸				㊤299文書
	富士原(富士嶽神社)			
				『石造物』

[illegible]

館林市成島					
館林市大街道					
館林市高根					
館林市傍示塚町					傍示塚 ㊤(石碑U(馬返)-8)
館林市下早川田町					
館林市下早川田町					
館林市新当郷					細内初5村 幡野豊前
館林市羽附町					
館林市花山町					
館林市羽附町					赤羽 浅間さま((富士塚)、富士浅間神社)
館林市赤生田町					
館林市小桑原					小桑原 富士浅間神社
(上州・不明)					上州 (燈籠65〔小御嶽〕-562-1上文司淡路守)

11〔埼玉県〕

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
鴻巣市大芦					大足 (吉田)小沢和泉
さいたま市浦和区大門					
さいたま市南区文蔵					文蔵 (吉田)田辺越後
さいたま市桜区大久保					
さいたま市西区塚本					塚 (吉田)小竹谷肥後
さいたま市西区塚本					(吉田)竹谷肥後
さいたま市大宮区 (埼玉県)					
(埼玉県)					
川口市下青木					下青木 (吉田)田辺近江
川口市下青木					
川口市鳩ヶ谷本町					㊤ 武州鳩ヶ谷宿
川口市鳩ヶ谷本町					
川口市本町					
蕨市塚越					塚越 (吉田)持山播磨
さいたま市中央区八王子		八王子			
さいたま市西区西新井					荒井 (吉田)大雁丸大内蔵
さいたま市見沼区深作					
さいたま市見沼区深作					
鴻巣市鴻巣					光野須 (吉田)小沢志摩
鴻巣市原馬室					
朝霞市根岸					根岸 (吉田)田辺摂津
朝霞市根岸					
新座市片山					㊤ 武州片山
越生町越生					今市 (吉田)小沢河内
越生町小杉					
吉見町北下砂					北下砂 (吉田)大儀和泉
川越市高沢町		たかさわ			
小川町高見		たかみ			
川越市川越					川越六軒町 (吉田)小沢隠岐
川島町安塚					安塚 (吉田)小沢遠江
滑川町羽尾					葉尾 (吉田)小沢河内
ときがわ町大野					
東松山市野本					野本 (吉田)小沢紀伊
東松山市石橋新郷	金屋				金谷 (吉田)小沢志摩
東松山市早俣					早又 (吉田)小沢志摩
皆野町大淵		大藤			
皆野町大淵					
皆野町大淵					
皆野町大淵					
皆野町大淵					
秩父市浦山					
美里村木部					木部 (川口)本庄監物
本庄市児玉町保木野					保木野 (吉田)羽田伊勢
本庄市児玉町長沖					長置 (吉田)中雁丸由太夫
本庄市児玉町元田					元田 (川口)宮下加賀
上里町嘉美立野カ					立根 (吉田)大猿谷筑前
本庄市牧西					木才 (吉田)田辺主膳
熊谷市津田					津田 (吉田)外川能登
熊谷市板井篠場カ					志の原 (吉田)外川美濃
深谷市本田		本田			本田 ㊤ (吉田)田辺越後
深谷市畠山		はたけ山			
深谷市花園町永田					長田 山三 (吉田)池谷佐渡
深谷市花園町飯塚					飯塚 (吉田)小沢志摩
寄居町赤浜		あかはま			
寄居町塚田		つかた			
寄居町富田		とみた			
寄居町立原					
深谷市針ヶ谷					張加屋 (吉田)外川美濃
熊谷市原井					原日 (吉田)田辺伊賀
深谷市深谷					
深谷市西島カ					西江 (吉田)刑部采女
深谷市上敷免					上敷免 (吉田)池谷佐渡

	広沢邸 山致富士一山講(板17-71)			『マネキ』
下菱初2村 塩谷平内左衛門				⑨298文書
(上菱) (塩谷平内左衛門)				⑨298文書
		笠懸 ⑨岩崎開行講社(玉垣361〔北口〕-271)		『石造物』
	笠懸村 ⑨(布30〔鳥居室〕-408)	笠懸 ⑨杉山連行講社(玉垣361〔北口〕-253)		『マネキ』、『石造物』
	鹿村 ⑨(板3〔毘沙門屋〕-2)	笠懸村 ⑨杉山連行講社(布30〔鳥居室〕-430)		『マネキ』、『石造物』
		市ノ井村 ⑨(紙30〔鳥居室〕-210)	市野井 ⑨(布30〔鳥居室〕-444)	『マネキ』
下田中初10村 大友肥前				⑨299文書
	赤堀村 (板3〔毘沙門屋〕-2)			『石造物』
				⑨
	小角田村 ⑨(石碑50〔北口〕-398〔196〕大上田守人)			石造物』
徳川郷初24村 田辺近江				⑨298文書
(新田御屋鋪(徳川郷々)) (外河美濃)				⑨299文書
(安養寺) (外河美濃)				⑨299文書
	亀岡村 ⑨(石碑1〔扶桑教会〕-20)			『石造物』
(本宿) (外河美濃)				⑨299文書
(阿久津) (外河美濃)				『石造物』
	岩松村 (板3〔毘沙門屋〕-2)			『マネキ』
備前島13村 小沢志摩守				⑨299文書
太田宿初37村 塩谷平内左衛門				⑨298文書
		太田 北沢講(30〔鳥居室〕-527・30-527)		『マネキ』
	内ヶ島 ⑨(紙13〔榎田〕-2、⑨紙30〔鳥居室〕-66、⑨赤万字分教会紙30-69)	内ヶ島 ⑨本部分教会(紙30〔鳥居室〕-118・117)、⑨赤万字分教会(紙30-162、⑨分教会講社(紙30-202)		『マネキ』
(飯田) (外河美濃)	飯田 (奉納額3〔毘沙門屋〕-4)			⑨、『マネキ』
	飯塚 ⑨(布30〔鳥居室〕-397)	飯塚 ⑨(紙30〔鳥居室〕-119、紙30-179)		『マネキ』
(新井) (外河美濃)	新井 (奉納額3〔毘沙門屋〕-4)	新井 ⑨(紙30〔鳥居室〕-138)		⑨、『マネキ』
(上浜田) (外河美濃)				⑨
上浜田 ⑨(板2〔簡屋〕-1)				『マネキ』
下浜田 ⑨(板2〔簡屋〕-1)				『マネキ』
古戸2村 小沢志摩守				⑨299文書
	岩瀬川 ⑨(紙30〔鳥居室〕-48)	岩瀬川 ⑨(紙30〔鳥居室〕-186)		『マネキ』
	下田島 (板3〔毘沙門屋〕-2)	下田島 ⑨(紙30〔鳥居室〕-220・225・237)	宝泉村 登山講(盆17-58)	『マネキ』
	中根村 (板3〔毘沙門屋〕-2)	中根 ⑨(板17-56、板3〔毘沙門屋〕-30)		『マネキ』
	藤阿久 (奉納額3〔毘沙門屋〕-4)			『マネキ』
大島初5村 羽田伊勢	大島 山桜(紙30〔鳥居室〕-61・57)	大島 山桜(紙30〔鳥居室〕-224)		『マネキ』
	上島山 (奉納額3〔毘沙門屋〕-6)			『マネキ』
	西長岡 (板3〔毘沙門屋〕-2)			『マネキ』
	吉沢 (奉納額3〔毘沙門屋〕-6)	吉沢 ⑨(玉垣361〔北口〕-254)		『マネキ』、『石造物』
古水初11村 大友肥前				⑨299文書
今泉 (塩谷平内左衛門)				⑨298文書
	只上 (奉納額3〔毘沙門屋〕-5)			『マネキ』
	富若 ⑨(紙30〔鳥居室〕-8)			『マネキ』
		蕪川村 ⑨神道富士派(紙30〔鳥居室〕-150)		『マネキ』
	下□□ ⑨山(自然石碑1〔扶桑教会〕-32)			『マネキ』
	下小林 ⑨本部分教会(布30〔鳥居室〕-405)			
富士塚(鹿島の浅間さま)				
浅間さま				
				⑨
		小泉町 ⑨(紙13〔榎田〕-22)		『マネキ』
	藤川 山桜(紙30〔鳥居室〕-65)			『マネキ』
石打2村 羽田伊勢				⑨299文書
中野初 佐藤出羽		中野 ⑨(紙30〔鳥居室〕-120、布30〔鳥居室〕-420)		⑨299文書、『マネキ』
中野 浅間山				
舞木 浅間山				
		萱野 ⑨(紙30〔鳥居室〕-192、⑨(布30〔鳥居室〕-438)		『マネキ』
中谷初34村 上文司淡路守				⑨299文書
江黒初9村 佐藤備後				⑨299文書
	初谷 ⑨神道扶桑教講社(紙30〔鳥居室〕-293)			『マネキ』
	内蔵新田 ⑨(紙30〔鳥居室〕-31)	内蔵新田 ⑨(紙30〔鳥居室〕-131)		『マネキ』
	板倉村 ⑨(紙30〔鳥居室〕-14)	板倉村 ⑨(紙30〔鳥居室〕-129・130)		『マネキ』
		大曲 ⑨扶桑教(紙30〔鳥居室〕-141)		『マネキ』
	除川村 ⑨(紙30〔鳥居室〕-21)			『マネキ』
館林町 ⑨(石碑7〔羽田〕-62)	館林 ⑨(石碑59〔一合目〕-516羽田讃岐守)			『石造物』、『マネキ』
	館林町 ⑨(奉納額5-49)	館林町		『マネキ』
	館林町 ⑨(紙30〔鳥居室〕-321)	館林町 ⑨(紙30〔鳥居室〕-121・185)		『マネキ』
		館林町 山館講社(布17-29)		『マネキ』
				⑨298文書

桐生市新田					富士山(古墳、消滅)
桐生市相生町					天王宿 (富士山下)
桐生市広沢町					
桐生市菱町黒川					
桐生市菱町黒川					
笠懸町笠懸					
笠懸町鹿					
笠懸町笠懸					
新田町市野井					
新田町下田中早川					
新田町赤堀					
新田町木崎					渋江→小沢志摩
尾島町小角田					
尾島町世良田					
尾島町徳川					
尾島町徳川					
尾島町安養寺					
尾島町亀岡					
尾島町尾島				小島	
尾島町阿久津				安久津 村上光晴同行(燈籠50〔北口〕-366-1〔160〕・2〔161〕河口坊)	
尾島町岩松					
尾島町備前島					
太田市					
太田市					
太田市内ヶ島					
太田市飯田					
太田市飯塚					
太田市新井町					
太田市上浜田					
太田市上浜田					
太田市下浜田					
太田市古戸					
太田市岩瀬川					
太田市下田島					
太田市中根					
太田市藤阿久					
太田市大島					
太田市長手					長手 富士峰(浅間神社)
太田市鳥山					
太田市西長岡					
太田市吉沢					
太田市古氷					
太田市東今泉					
太田市只上					
太田市富若					
太田市東金井					
太田市下小林					
太田市下小林					
大泉町古氷					
大泉町仙石					
大泉町古海カ					保海 山三 (吉田)小友谷肥前
大泉町小泉					小泉 (川口)高橋市ノ正
邑楽町藤川					
邑楽町石打					
邑楽町中野					
邑楽町中野					
邑楽町狸穴					狸穴 行人塚
千代田町舞木					
千代田町萱野					
千代田町上中森カ				東森	
明和村中谷					
明和村新里				仁里	
明和村江黒					
明和町斗合田					斗合田 富士塚(富士嶽古墳)
板倉町初谷					
板倉町内蔵新田					
板倉町					
板倉町大曲					
板倉町除川					
館林市					
館林市					
館林市					
館林市					
館林市仲町					千眼寺
館林市台宿町					館林台町初23村 田辺近江

前橋町初9村 田辺近江	(前橋) ㊦教会(写真)	㊦講社 前橋市(8-③-2)		㊧298文書、㊧
				城下町の南東端
(国領) (外河美濃)	国領町 山泰泰明講社(布16〔穀屋〕-18、紙30〔鳥居室〕-290)			㊧298文書、『マネキ』
	石碑(29〔中雁丸〕-158)			『石造物』
		前橋市 ㊦講社(8-③-2)		㊧
				㊧講社
				㊧
				㊧
三ッ股64村 田辺近江				㊧298文書
東片貝3村 小佐野出雲				㊧299文書
		上大島 山藤丸(紙30〔鳥居室〕-142、紙30-143、紙30-203)		『マネキ』
			元丸上教会(奉納額上-32、5〔上文司〕-32)	『マネキ』
上増田初4村 池谷備後守				㊧298文書
				㊧
	西善 ㊦(紙30〔鳥居室〕-60)	㊦(紙30〔鳥居室〕-139)		『マネキ』
	宮地 ㊦(紙30〔鳥居室〕-6)			『マネキ』
	横手 富士塚(横手古墳、明治14年、岩祠)			
				㊧
				㊧
				㊧
小保方3村 田辺近江				㊧298文書
上洞名初3村 大友肥前				㊧299文書
木島初68村 池谷備後守				㊧298文書
(百々) (外河美濃)				㊧299文書
堺町初9村 外河美濃		境町 ㊦(玉垣〔北口〕361-113)	境町 ㊦(自然石碑〔北口〕405〔203〕)	『石造物』
(上武士) (外河美濃)				㊧299文書
(下武士) (外河美濃)				㊧299文書
(中島) (外河美濃)	中島 山桜報恩講社(紙30〔鳥居室〕-19)			㊧299文書
(小此木) (外河美濃)				㊧299文書
(島村) (外河美濃)				㊧299文書
(前川) (外河美濃)				㊧299文書
(矢島) (外河美濃)				㊧299文書
(境) (外河美濃)				㊧299文書
高岡初2村 池谷備後守				㊧298文書
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
伊勢崎町初12村 外河美濃	伊勢崎 (外河家紋・燈籠17〔大外河〕-113)			㊧、『石造物』
伊勢崎町 ㊧同行(燈籠89〔松尾神社〕-648)	伊勢崎町 ㊧講社(板15-74)			『石造物』、『マネキ』
				㊧
(波志江) (外河美濃)		三郷村 ㊧波志江講社(布30〔鳥居室〕-419)		『マネキ』
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
				㊧
堀口初 上文司淡路守				㊧
				㊧
				㊧
(馬見塚) (外河美濃)				㊧
長沼初68村 上文司淡路守				㊧、㊧299文書
				㊧
蓮沼初7村 外河美濃	蓮沼郷 ㊧(紙30〔鳥居室〕-20)			㊧
(飯島) (外河美濃)				㊧
		大間々町 ㊦(自然石碑4〔毘沙門屋〕-54)		『石造物』
		大間々町 ㊦真行講(玉垣361〔北口〕-274)	大間々町 ㊦大間々真行講(布30〔鳥居室〕-776・662)、大間々真行講(布30〔鳥居室〕-564)	
	大間々町五丁目 ㊦(紙30〔鳥居室〕-77)	大間々町五丁目 ㊦(紙30〔鳥居室〕-133、㊦(紙30〔鳥居室〕-144)		『マネキ』
				『マネキ』
				㊧
下神梅初21村 田辺近江				㊧298文書
久方初29村 羽田伊勢				㊧299文書

前橋市					
前橋市天川町					天川 二子山古墳(不二山古墳)
前橋市国領町					
前橋市城東町					
前橋市田口町					不二山
前橋市田口町					富士塚(古墳、築山)
前橋市西大室町					富士山(古墳)
前橋市小神明町					富士塚(消滅、㊦講)
前橋市鳥取町					藤塚(富士浅間神社〔近戸神社〕)
前橋市幸塚町					富士塚(㊦講)
前橋市上沖町					上奥野 (吉田)浅間坊
前橋市下沖町					下奥ノ (吉田)浅間坊
前橋市三俣町					
前橋市東片貝町					
前橋市二之宮町					筑波山
前橋市上大島町					
前橋市東上野町					
前橋市上増田町					富士塚(古墳)
前橋市増田町					増田 (吉田)浅間坊
前橋市西善町					
前橋市下佐鳥・上佐鳥町					佐鳥(吉田)浅間坊
前橋市宮地町					
前橋市横手町					
前橋市青梨子町					富士塚
前橋市元総社町					本双紙 (吉田)浅間坊
前橋市江田町					高崎枝 (川口)本庄監物
前橋市小相木町					庄相喜 (吉田)中雁丸由太夫
東村小保方					
境町上測名					
境町木島					
境町百々					
境町境					富士浅間山(遙拝所)
境町上武士					
境町下武士					
境町中島					
境町小此木					
境町島村				島村	
境町島村					
境町上矢島					上矢島 (吉田)田辺内匠
境町栄					
境町米岡					
玉村町飯塚	飯塚				
玉村町福島	福島				
玉村町箱石	箱石				
玉村町川井	川合かし				
玉村町飯倉	飯倉				
玉村町角淵					
玉村町五科	沼上				
境町米岡	新屋敷				
伊勢崎市西上之宮町	西神宮				
伊勢崎市東上之宮町	東神宮				
伊勢崎市					伊勢崎 (川口)本庄鞠負
伊勢崎市					
伊勢崎市安堀町					安堀 御富士山古墳(富士神社)
伊勢崎市波志江町					
伊勢崎市稲荷町	伊成山				
伊勢崎市田中島町	田中島				
伊勢崎市連取町	連取				
伊勢崎市丹良塚町	にらつ				
伊勢崎市阿弥大寺町	あミたいじ				
伊勢崎市柴町カ	瀬端				
伊勢崎市柴町				柴	柴宿 (川口)本庄監物
伊勢崎市中町	中町				
伊勢崎市堀口	坂口				
伊勢崎市除ヶ町	よけ				
伊勢崎市大正寺町	大正寺				
伊勢崎市馬見塚町					馬見塚 (吉田)上原伊豆
伊勢崎市長沼町					長沼 浅間様(築山、富士浅間碑)
伊勢崎市長沼町	長沼				
伊勢崎市上連・下連町	□(連カ)沼				
伊勢崎市飯島町	飯□(島カ)				
みどり市大間々町大間々					
みどり市大間々町大間々					
みどり市大間々町大間々					
みどり市大間々町浅原			朝原 奉納額(富士浅間大菩薩)5(上文司)-40)		
みどり市大間々町小平					尾平 ㊦ (吉田)中雁丸由太夫
みどり市大間々町下神梅					
桐生市東久方町					

				㊸
藤岡町初10村 外河美濃				㊸299文書
芦田初20村 羽田伊勢				㊸299文書
(小林) (外河美濃)				㊸
(栗須) (外河美濃)				㊸
(岡之郷) (外河美濃)				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
	上大島 渋江因幡(川口)			㊸
	本郷 渋江因幡(川口)			
				㊸
	白岩 渋江因幡(川口)			
				㊸
				㊸
	和田山 渋江因幡(川口)			
	白川 渋江因幡(川口)			㊸
				㊸
	下芝 渋江因幡(川口)			
				㊸
	(高崎) ㊸講社(紙30〔鳥居室〕-319)			『マネキ』
				㊸
				㊸
	下之城 渋江因幡(川口)			
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
	上豊岡 渋江因幡(川口)			
	上乗附 渋江因幡(川口)			㊸
	石原 渋江因幡(川口)			
	寺尾 渋江因幡(川口)			
	根小屋 渋江因幡(川口)			
				㊸
		高崎市 招き猫(35〔白雲荘〕-16)		『マネキ』
				㊸
				㊸
				㊸
	上野田 渋江因幡(川口)			
	下野田 渋江因幡(川口)			
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
				㊸
	鶴ヶ谷 ㊸(紙30〔鳥居室〕-4)			『マネキ』

上野村橋原					奈良原 (川口)胸谷善太夫
藤岡市					
藤岡市芦田					芦田町 富士浅間神社
藤岡市藤岡					(宮本町) 富士浅間神社
藤岡市小林					
藤岡市三本木					三本木 浅間山(浅間神社)
藤岡市下栗須					
藤岡市岡之郷					
藤岡市中島					中島 (川口)中村筑前
高崎市倉測町三ノ倉					三ノ倉 (川口)本庄靱負
高崎市榛名町上室田カ					上市田 (川口)本庄監物
高崎市榛名町中里見					中里見 浅間神社
高崎市榛名町上大島					上大島 (川口)渋江因幡
高崎市榛名町本郷					
高崎市榛名町神戸					神戸 (川口)本庄監物
高崎市榛名町白岩					
高崎市箕郷町善地					(川口)宮下加賀
高崎市箕郷町富岡					富岡 (川口)本庄監物
高崎市箕郷町和田山					
高崎市箕郷町白川					白川 (川口)渋江因幡
高崎市箕郷町箕輪					三輪 (吉田)吉田改所
高崎市箕郷町下芝					
高崎市群馬町井出					井出 (川口)本庄監物
高崎市群馬町福島					複島 浅間神社
高崎市群馬町金古			金子		
高崎市新田町			新田乗		
高崎市高崎			高崎	㊤ 高崎町	
高崎市下並榎町				下浪 (川口)中村左京	
高崎市貝沢町			かい沢		
高崎市飯塚町			飯塚		
高崎市上中居町				上中井 (川口)本庄監物	
高崎市下之城町					
高崎市下佐野町				下佐 (川口)本庄監物	
高崎市下佐野町				下佐野 富士塚(円墳)	
高崎市倉賀野町			蔵金	倉賀野宿 浅間山古墳	
高崎市東中里町				中里 (川口)渋江因幡	
高崎市東中里町				(川口)本庄監物	
高崎市綿貫町				綿抜 (川口)中村筑前	
高崎市下大類町				下大類 富士塚(円墳、消滅)	
高崎市矢島町				矢島 (吉田)浅間坊	
高崎市矢島町				(川口)本庄監物	
高崎市萩原町			萩原		
高崎市日高町			日高		
高崎市大八木町			大屋木小八木		
高崎市南新波町				南新波 (川口)川口改所	
高崎市菊地町			菊池		
高崎市藤塚町			富士塚	藤塚(川口)本庄靱負	
高崎市鼻高町				富士塚(小林山)	
高崎市豊岡町				豊岡 (川口)本庄監物	
高崎市豊岡町				(吉田)中雁丸由太夫	
高崎市中豊岡町カ				中岡 (川口)胸谷若狭	
高崎市上豊岡村					
高崎市栗附				野附 (川口)上野坊因幡	
高崎市栗附				(川口)渋江因幡	
高崎市石原					
高崎市寺尾					
高崎市根小屋					
高崎市山名町				山名 (川口)上野坊因幡	
高崎市					
子持村北牧カ				牧原 (川口)本庄監物	
子持村横堀				横堀 (川口)中村筑前	
渋川市小野上小野子				小野子 (川口)俵谷多門	
渋川市小野上小野子				小野子 向甲山((富士山)富士浅間神社)	
伊香保町伊香保				浅間山(浅間の社)	
伊香保町伊香保				浅間山	
吉岡町上野田					
吉岡町下野田					
吉岡町北下				藤塚(古墳、消滅)	
渋川市渋川				渋川 (川口)本庄監物	
渋川市半田				半田 (川口)本庄監物	
渋川市赤城町見立				浅間塚(古墳)	
渋川市赤城町津久田				津久田 (川口)中村左京	
渋川市赤城町長井				富士塚	
渋川市北極箱田			下箱田		
富士見村引田				藤塚(古墳)	
富士見村原之郷				富士塚(古墳)	
富士見村時沢				藤塚(消滅)	
前橋市富士見町小暮				小暮 (川口)中村左京	
前橋市鼻毛石町				花切石 (吉田)小沢主水	
新里村山上				不二塚(古墳)	
新里村鶴ヶ谷				不二山(古墳、消滅)	
新里村新川				富士山(不二山)	

	久野 富士登山(紙30〔鳥居室〕-91)	久野 山三(紙30〔鳥居室〕-157)		『マネキ』
			朝日 自然石碑(〔東洋館〕-596)	『石造物』
				『石造物』

[illegible]

足利市野田					
足利市小曾根町					小曾根 浅間山古墳
(那須塩原市カ・不明)					
(不明)					(野州) 燈籠(65〔小御嶽〕-562-1)
(太平山 日隈)					太平山(富士浅間神社)

10 (群馬県)

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
みなかみ町					浅間岳(谷川富士(富士権現))
昭和村系井					糸井 富士浅間山
沼田市白沢輪組					
沼田市利根町日影南郷					下曾根 (川口)中村伊勢介
川場村谷地					谷地 富士山(浅間神社境内)
川場村谷地					富士新田
みなかみ町小日向					大日向 (川口)中村伊勢介
みなかみ町谷川					谷川 谷川富士(富士浅間神社)
みなかみ町小川					小川 (川口)中村伊勢介
みなかみ町小川					藤塚(森原の富士山)
みなかみ町月夜野					橋上の富士塚
みなかみ町下津					下津 (川口)中村筑前
新治村相又					富士新田
みなかみ町布施					布施 (川口)小河原玄番
沼田市中発知					中法師 (川口)中村左兵衛
沼田市中川田					藤塚(古墳、消滅)
高山村中村					新田 (川口)小河原玄番
中之条町伊勢町					伊勢町 (川口)小河原玄番
中之条町上沢渡					上沢渡 (川口)小河原玄番
中之条町上沢渡					フジヤマ(石祠)
東吾妻町植栗カ					上栗原 (川口)小河原玄番
東吾妻町松谷					松谷 富士塚
東吾妻町三島					三島 (川口)本庄監物
東吾妻町本宿					本宿 (川口)小河原主殿
安中市松井田町五科					五科 (川口)渋江掃部
安中市松井田町五科					五科 藤塚(古墳)
安中市松井田町新堀					新堀 (川口)渋江掃部
安中市松井田町二軒在家					鳥留 (川口)渋江因幡
安中市松井田町上増田					上増田 (川口)渋江掃部
安中市松井田町下増田					下増田 (川口)渋江因幡
安中市松井田町土塩カ					桐塩 (川口)渋江掃部
安中市安中					安中下町 (川口)上野坊因幡
安中市安中					(吉田)中雁丸由太夫
安中市安中小間					小間 藤山(古墳、消滅)
安中市小俣					尾又 (川口)改会所
安中市郷原					郷原 (川口)上野坊因幡
安中市郷原					松枝郷原 (川口)渋江因幡
安中市嶺					峰 (川口)渋江因幡
安中市中野谷					中野屋 (川口)中村土佐介
安中市中野谷					(川口)駒谷若狭
安中市下秋間カ					秋田 (川口)本庄鞠負
安中市秋間					秋間 (川口)本庄鞠負
安中市下秋間					下秋間 (川口)本庄鞠負
安中市下後閑					下後菅 (川口)駒谷若狭
安中市下後閑					下後ケ (川口)駒谷若狭
安中市中後閑					中後ケ (川口)駒谷若狭
安中市中後閑					上中後ケ (川口)駒谷若狭
妙義町下高田				高田	
下仁田町南野牧					
下仁田町森平					
下仁田町小坂					中小坂 (川口)渋江因幡
下仁田町下小坂					
下仁田町下仁田					下仁田 (川口)本庄鞠負
下仁田町馬山					真山 (川口)中村但馬
南牧村砥沢				砥沢領	
南牧村大日向					南李大日向 (川口)本庄鞠負
甘楽町					
富岡市丹生原					丹庄原 (川口)上野坊右近
富岡市神成					神成 (川口)三浦刑部
富岡市神成					不二塚(石祠)
富岡市神原					蚊野川 (川口)三浦刑部
富岡市後賀					五ヶ (川口)改会所
富岡市後賀					(川口)三浦刑部
富岡市高瀬					富士塚(古墳)
吉井町神保					富士塚(古墳)
吉井町黒能					藤塚(古墳、消滅)
吉井町小串					ふじ塚(古墳、消滅)
吉井町岩崎					岩崎 (川口)本庄監物
鬼石町鬼石					
鬼石町譲原					譲原 (吉田)中雁丸由太夫
万場町万場					
万場町坂井					境 (川口)三浦刑部
神流町持倉					李倉 (川口)本庄鞠負
中里村平原カ					屋津礼 (川口)本庄監物

茂呂 外河筑後				⑨298文書
				⑧
	水代村 静 赤万ず(紙、30-3)	㊤晴山講(奉納額、5-31)	㊤晴山講(奉納額、5-30)	『マネキ』
			野州晴山講(布5〔上文司〕-4・7・6)	『マネキ』
	富山村 ㊤(自然石碑、465)			『マネキ』
	富山村 晴山講(自然石碑、567-1・2)		栃木県晴山講・丸上講社・佐野丸講社(奉納額、上-39、5-39)	『マネキ』
	燈籠(10上文司)			『石造物』
	下皆川 (晴山講、奉納額、上-28、5-28)			『マネキ』
山田 ㊤(石碑、u-17〔508〕)				『石造物』
野田初32村 佐藤出羽	西野田 ㊤(板、8-59)			⑨298文書、『マネキ』
藤岡町14村				
藤岡町 ㊤、石碑(〔上文司〕240)				『石造物』
			藤岡町 ㊤(板、34-28)	『マネキ』
緑川初44村 上文司淡路守				⑨299文書
	部屋野 (奉納額、上-9、5-9)			『マネキ』
帯刀新田初 芹沢大隅				⑨298文書
大塚迄 (芹沢大隅)				⑨298文書
赤間初17村 外川能登				⑨298文書
小曾戸16村 幡野豊前				⑨299文書
新井初60村 佐藤備後				⑨299文書
新井 三(〔先達田行高山〕外河)				『石造物』
佐川野初3村 庵丸豊前				⑨299文書
		中村 ㊤(布、30-426、〔軍衣物拾枚〕板、8-67)		『マネキ』
				一心講
				礼講、一心講(実任教)
中久喜18村 小猿伊予			星野行道(85)	⑨299文書
				⑩
下国府塚初8村 上文司淡路守				⑨299文書
迫間田初6村 上文司淡路守				⑨299文書
網戸 浅間神社(富士講碑)				
上生井9村 上文司淡路守				⑨299文書
皆川初2村 田辺伊賀				⑨298文書
(田辺伊賀)				⑨298文書
栃木 富士登山(明治初年まで)	栃木講(奉納額、17-48)			『マネキ』
	㊤講社(奉納額、5-58、5-25、5-67、5-66、5-68)			『マネキ』
	大塚 奉納額(奉納額、17-47)			『マネキ』
	癸生 ㊤(石碑〔上文司〕、84)			『マネキ』
野中初30村 田辺安芸				⑨299文書
牧初5村 佐藤出羽				⑨299文書
上仙波初16村 佐藤出羽				⑨299文書
上岩崎2村 幡野豊前				⑨299文書
(幡野豊前)				⑨299文書
栃本初8村 田辺伊賀				⑨298文書
	田沼町 ㊤(紙、30-13、30-22、30-87)	田沼町仲町 登山(紙、30-189)		『マネキ』
	佐野町 さの丸(布16-26、布5-5、板5-33、奉納額5-26)			『マネキ』
		佐野町 佐野分教会(紙30-180、布30-431)	佐野市 佐野分教会(奉納額5-43)	『マネキ』
			開運講社 佐野越名(8-㊤-1)	扶桑教講社
			佐野市 佐野丸教会(奉納額上-33)	赤万字講、『マネキ』
天明町 羽田伊勢				⑨299文書
小屋町 羽田伊勢				⑨299文書
				『石造物』
	佐野町 ㊤扶桑教三柱講社(紙30-28、紙30-410)	堀米町 ㊤扶桑教三柱講社(紙30-108、紙30-116・113、布30-415、布30-424)		『マネキ』
	界村馬門 ㊤(紙30-46)		馬門 佐野丸講(奉納額5-17)	『マネキ』
				『マネキ』
				『石造物』
船津川初27村 上文司淡路守				⑨299文書
船津川 石碑(〔上文司〕239)				『石造物』
		飯田 ㊤(紙30-191)		『マネキ』
		高松 山致(紙30-135、紙30-146、紙30-134、紙30-188)		『マネキ』
	足利町 ㊤(布19-4)	足利町 ㊤(布30-413)		『マネキ』
				『石造物』
	松田 渋江因幡(川口)		松田 ㊤(板〔3毘沙門屋〕-29)	『マネキ』
	板倉 渋江因幡(川口)			⑧
	小俣 (3〔毘沙門屋〕-2)			⑧
	小俣湯沼 渋江因幡(川口)			⑧
	葉鹿 渋江因幡(川口)			⑧
	堀島 ㊤講社(布30-519)			『マネキ』
八木宿 田辺対馬				⑨298文書
島田外18村 田辺対馬				⑨298文書
	上波毛 ㊤(紙16〔穀屋〕-5)			『マネキ』
久保田 ㊤(石碑〔上文司〕-239)				『石造物』

岩舟町静					浅間神社
岩舟町静					富士山新田 浅間神社
大平町大平					
大平町大平					
大平町大平					
大平町大平					
大平町大平					
大平町大平					
大平町下皆川					
大平町西山田					
大平町西野田					
藤岡町藤岡					
藤岡町藤岡					浅間塚古墳
藤岡町藤岡					
藤岡町緑川					
藤岡町部屋					
藤岡町帯刀					
小山市大塚					
藤岡町赤麻					
藤岡町小菅戸					
藤岡町甲					
藤岡町甲					
野木町佐川野					
野木町佐川野					浅間塚古墳
小山市豊田					
小山市宮本町					浅間神社(石碑)、仙元宮(石碑)
小山市千駄塚					千駄塚 千駄塚古墳(浅間山古墳)
小山市中久喜					
小山市中久喜					
小山市下国府					
小山市迫間田					
小山市網戸					
小山市上生井					
栃木市皆川					
栃木市皆川					
栃木市万町					
栃木市万町					
栃木市大塚					
栃木市癸生					癸生 浅間神社(鎮守)
栃木市野中					
葛生町牧					
葛生町仙波					
田沼町岩崎					
田沼町岩崎					
田沼町栃本					
田沼町田沼					
佐野市					佐野 ㊤(燈籠〔北口〕、344)
佐野市					
佐野市					
佐野市大蔵町					天明町 浅間塚(築山)
佐野市天明町					
佐野市天明町					
佐野市大伏町					佐野大伏町 燈籠(〔小御嶽〕561-1・2)
佐野市堰米町					
佐野市奈良刈町					浅間山(〔男浅間〕浅間神社)
佐野市奈良刈町					富士
佐野市馬門					
佐野市高山					高山 ㊤(紙30-47)
佐野市田島					田島 ㊤(石碑〔一合目〕520)
佐野市船津川					
佐野市船津川					
佐野市飯田町					
佐野市高松					
足利市					
足利市					足利 ㊤
足利市大月				足利大月 村上光清同行(燈籠270-1・2)	
足利市松田町					
足利市板倉					
足利市小俣					
足利市小俣					
足利市葉鹿					
足利市堀島					
足利市借宿					(富士山城) 浅間山・富士山
足利市田中					浅間山(浅間神社)
足利市福屋町					
足利市島田町					
足利市小俣町麻葉					
足利市久保田					

釈迦 外川能登				⑨298文書
志鳥初38村 外川能登				⑨298文書
栗山初6村 小沢左近				⑨298文書
山崎初19村 渡辺安居				⑨299文書
染谷初14村 外河筑後				⑨298文書
伏木初5村 大雁丸筑前				⑨298文書
古河町初11村 刑部讃岐				⑨298文書
長谷初18村 池谷備後守				⑨298文書
筵内 佐藤越中				⑨299文書
立木6村 佐藤越中				⑨299文書
押付新田初10村 羽田長門				⑨298文書
羽中初3村 雁丸豊後				⑨299文書
中内初56村 渡辺安居				⑨299文書
	(旧村社浅間神社)			
樽井初12村 外河筑後				⑨298文書
				⑧

幕末期	明治時代	大正時代	昭和時代	出典・備考
				⑧
大和地17村 上文司淡路守				⑨299文書
大貫68村 上文司淡路守				⑨299文書
		氏家町 ㊤百舌鳥社(30-196)		『マネキ』
高根沢初23村 梅谷上総				⑨298文書
高根沢 雁丸豊前				⑨299文書
				⑧
小貫 上文司淡路守				⑨299文書
石井 上文司淡路守				⑨299文書
水室初49村 雁丸豊前				⑨299文書
				⑧
				⑧
	上三川町 奉納額(17-51)			『マネキ』
				⑧
				⑧
下吉田初99村 雁丸豊前				⑨299文書
宇都宮初42村 雁丸豊前				⑨299文書
				⑧
				⑧
大塚初10村 梅谷上総				⑨298文書
板戸初15村 雁丸豊前				⑨299文書
				⑧
(金崎) (上文司淡路守)				⑨299文書
(和久井) (上文司淡路守)				⑨299文書
金井 ㊤奉納額(17-40) (上文司淡路守)				⑨299文書
鹿沼宿初76村 上文司淡路守				⑨299文書
				⑧
				⑧
	楡木宿 奉納額(上-38、5-38)			『マネキ』
		椋山 ㊤(上-71・奉納額[上文司]-71)		『マネキ』
	塩山 ㊤(奉納額[上]-48)	奉納額(上-53)		『マネキ』
	㊤扶桑教(紙30[鳥居室]-2)			『マネキ』
	㊤(奉納額[上文司]-46)	塩山 ㊤(奉納額[上文司]-47)		『マネキ』
	㊤(奉納額[上文司]-8)	㊤神徳教会太々講社(布30[鳥居室]-539・434)		『マネキ』
	奉納額(上-20)	㊤神徳教会本部(布30[鳥居室]-436)		『マネキ』
	奉納額(上-51)			『マネキ』
	㊤(奉納額5[上文司]-57)			『マネキ』
	奉納額(上-52・5[上文司]-52)			『マネキ』
				⑧
	酒野谷 奉納額(上-21・5[上文司]-21)	酒野谷 ㊤(奉納額[上文司]-71・5-71)		『マネキ』
	奉納額(5[上文司]-21)	㊤(奉納額[上文司]-63・5-63)		『マネキ』
	奉納額(上-54・5[上文司]-54)			『マネキ』
	㊤(奉納額(上-65・5[上文司]-65)			『マネキ』
原宿初15村 佐藤出羽				⑨298文書
塩野室2村 佐藤備後				⑨299文書
□ (佐藤備後)				⑨299文書
柴初2村 雁丸豊前				⑨299文書
□ (雁丸豊前)				⑨299文書
壬生町初42村 梅谷上総				⑨298文書
		南犬飼村 ㊤(奉納額[上文司]-16、5-16)		『マネキ』
				⑧

古河市釈迦					
境町志鳥					
境町栗山					
境町山崎					
境町柴谷					
境町伏木					
古河市					
古河市長谷					
古河市中田					
板東市小山					浅間神社(浅間沼)
坂東市篠内					
利根町立木					
利根町押付新田					
利根町羽中					
取手市中内					
取手市藤代					藤代(富士代) 富士神社(相馬神社)
守谷市高野					
取手市樺村					浅間神社
取手市長兵衛新田					浅間神社
(不明)					浅間神社(晦日浅間)
(不明)					乳干 (吉田)小沢伯耆

9 (栃木県)

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
黒羽町両郷田中					下田中 富士神社(鳴電神)
湯津上村蛭田					富士山古墳群
小川村吉田					富士山古墳
那須塩原市					富士山
那須塩原市大和地					
(那須郡)					
氏家町氏家					
高根沢町上高根沢					
高根沢町上高根沢					
高根沢町石末					石すへ 吉田)佐藤因幡
茂木町小貫					
石下村河井					
芳賀町水室					
芳賀町八ッ木					八ッ木 浅間山古墳
真岡市若旅					富士塚(浅間神社)
真岡市下能谷					富士塚(浅間神社)
真岡市下大和田					下大和田 浅間神社(子安浅間、旧村社)
上三川町上三川					富士塚(浅間神社)
上三川町上神主					上神主 浅間神社古墳(浅間神社(鎮守))
下野市谷地賀					谷地賀 星宮古墳
南河内町下吉田					
宇都宮市					
宇都宮市山本町					山本 富士浅間神社(鎮守)
宇都宮市石井町					石井 久部浅間山古墳
宇都宮市大塚					
宇都宮市板戸					
宇都宮市竹下町					竹下 浅間山古墳(富士山神社)
西方村金崎					
西方村和久井					
西方村金井					
鹿沼市					
鹿沼市花岡	(浅間神社)				花岡 富士山(浅間神社)
鹿沼市深津					深□ 燈籠(〔上文司〕三十三度大願成就)
鹿沼市榎木町					
鹿沼市樺山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市塩山町					
鹿沼市西沢町	(浅間神社)				西沢 浅間神社
鹿沼市酒野谷					
鹿沼市酒野谷					
鹿沼市酒野谷					
鹿沼市酒野谷					
日光市原宿					
日光市塩野室					
日光市塩野室					
国分寺町柴					
国分寺町柴					
壬生町					
壬生町上田					
壬生町表町西高野					西高野 西高野古墳
壬生町羽生田					羽生田 富士山古墳

				⑧
麻生初18村 羽田長門				⑨299文書
				⑧
府中宿10村 小菊駿河				⑨258・299文書
藤津初10村 幡野豊前				⑨299文書
土浦町初36村 川口坊土佐				⑨298文書
木田余初61村 小菊駿河				⑨299文書
真鍋 幡野豊前				⑨299文書
上高津初15村 川口坊土佐				⑨298文書
黒子初18村 大竹下総				⑨299文書
久下田初44村 小猿伊予				⑨299文書
久下田初4村 雁丸豊前				⑨299文書
				⑧
坂井初50村 大竹下総				⑨299文書
	(旧村社富士神社)			
今泉初38村 小猿伊予				⑨299文書
大島初8村 川口坊土佐				⑨299文書
山木2村 大竹下総				⑨299文書
玉取 佐藤越中				⑨299文書
中根3村 幡野豊前				⑨299文書
上郷18村 佐藤越中				⑨299文書
高田初152村 雁丸豊前				⑨299文書
小張初41村 大竹下総				⑨299文書
豊休初84村 田辺伊賀				⑨298文書
青木初13村 大雁丸筑前				⑨298文書
弥柳初5村 外河筑後				⑨298文書
下平柳初6村 渡辺安房				⑨298文書
本郷2村 小菊駿河				⑨299文書
新川初27村 上文司淡路守				⑨299文書
柴崎初7村 小林山城				⑨298文書
平川初33村 小林山城				⑨298文書
田川初9村 上文司淡路守				⑨298文書
鍋子新田初3村 外河筑後				⑨298文書
(生板鍋子新田) (外河筑後)				⑨298文書
(大徳鍋子新田) (外河筑後)				⑨298文書
牛久宿初12村 小菊駿河				⑨298文書
小坂初11村 羽田長門				⑨298文書
奥原初55村 雁丸豊後				⑨298文書
上太田初9村 羽田長門				⑨298文書
高崎 佐藤越中				⑨299文書
	(旧郷社富士神社)			
羽原初60村 雁丸豊後				⑨299文書
須藤堀 佐藤越中				⑨299文書
元豊田2村 佐藤越中				⑨299文書
			結城講(布マネギ、30-578)	『マネギ』
結城郡 小猿伊予				⑨299文書
岡田郡 小猿伊予				⑨299文書
大生郷 佐藤越中				⑨299文書
大崎初33村 大竹下総				⑨299文書
水海道初5村 大雁丸筑前				⑨298文書
坂手初21村 大雁丸筑前				⑨298文書
諸川初4村 小猿伊予				⑨299文書
西牛谷初22村 佐藤出羽				⑨299文書

行方市手賀					手ケ (吉田)上文司
行方市麻生					
潮来市牛堀					(権現山)
潮来市潮来					
玉里村高崎					富士峰(富士峰館)
出島村柏崎					柏崎 富士見塚古墳
出島村深谷八千代台					
石岡市太田					
石岡市柿岡					
石岡市金指					富士山(古代祭祀)
石岡市総社					府中 (吉田)改所
(不明・土浦市)					
土浦市中央					
土浦市					
土浦市真鍋					
土浦市上高津					
土浦市小岩田					
筑西市門井富士山					
桜川市真壁					
桜川市山尾					
桜川市下谷貝峯					
筑西市黒子					
筑西市下館甲					
筑西市久下田					
筑西市久下田					
筑西市久下田					富士東古墳群
筑西市蒔田					真木田 (吉田)雁丸豊後
筑西市小川					富士神社(旧村社)
筑西市下妻					
下妻市坂井					
下妻市下木戸					富士神社(旧村社)
下妻市今泉					
つくば市上大島					
つくば市山木					
つくば市玉取					
つくば市要中根					
つくば市上郷					
つくば市高田					
つくばみらい市稲田					
つくばみらい市小張					
つくばみらい市城中					浅間神社
つくばみらい市豊体					
つくばみらい市青木					
つくばみらい市弥柳					
つくばみらい市下平柳					
つくばみらい市箕和					富士神社(浅間さま)
阿見町荒川本郷					
稲敷市江戸崎					
稲敷市下君山富士台					
稲敷市羽生					浅間神社
稲敷市上須田					
稲敷市幸田					富士山(浅間神社)
稲敷市柴崎					
河内町平川					
河内町田川					
河内町宮測					
河内町宮測					
河内町宮測					
牛久市牛久					
牛久市小坂					
牛久市奥原					
つくば市大井					
つくば市高崎					
龍ヶ崎市八原					
龍ヶ崎市大塚町					
龍ヶ崎市八代町	(富士神社)				富士神社(旧郷社)
龍ヶ崎市羽原町					
龍ヶ崎市須藤堀町					
龍ヶ崎市豊田町					
八千代町高崎					
下妻市長堂					浅間神社
結城市結城					
結城市鹿窪					向原浅間塚古墳
(結城市)					
(常総市)					
常総市大生郷					
常総市大崎					
常総市水海道					
常総市坂手					
古河市諸川					
古河市西牛谷					
古河市磯部					浅間神社(釈迦沼)

[illegible]

大沢室奉納物 一覧

8〔茨城県〕

場 所	中世末	近世初頭	近世前期	近世中期	近世後期
日立市伊師			伊師		
日立市伊師			あたご		
日立市友部			友部		
日立市山辺			山部		
日立市					富士の越山(富士神社)
日立市川尻町			川尻		
日立市折笠町			折笠		
日立市砂沢町			砂沢		
日立市日高町			荻津		
日立市田尻町			田尻		
日立市滑川町			滑川		
日立市宮田町			宮田		
日立市助川町			助川		
日立市会瀬町			会瀬		
日立市成沢町			成沢		
日立市鮎沢町			油縄子		
日立市諏訪町			諏訪		
日立市末広町			大窪		
日立市鮎沢町			下孫		
日立市金沢町			金沢		
日立市河原子町			河原子		
日立市水木町			水木		
日立市大沼町			大沼		
日立市森山町			森山		
日立市久慈町			久慈		
日立市石名坂町			石名坂		
上小川村碩藤					
大子町小生瀬					
常陸太田市国安					ふじ山
常陸太田市東連地					富士山
常陸太田市金砂郷					
常陸太田市亀作			亀作		
常陸太田市真弓町			真弓		
常陸太田市真弓町			瀬谷		
常陸太田市大森町			大森		
常陸太田市大森町			手縄		
常陸大宮市大宮					
常陸大宮市下村田					富士山古墳群
那珂市古徳					下村田富士山東 富士神社
那珂市額田南郷					
那珂市豊喰			鳥屋脇(鳥喰新田ヵ)		
東海村石神内宿			石神		
東海村舟石川		富士神社(慶長15年〔1610〕)			舟石川 富士神社
ひたちなか市佐和			沢		
ひたちなか市田彦			旅子		
ひたちなか市高野					高野富士山 富士山(館跡)
ひたちなか市長砂					
ひたちなか市馬渡			馬渡		
ひたちなか市中根			中部中根		
ひたちなか市金上			金山		
ひたちなか市東大島					
ひたちなか市勝倉					
ひたちなか市富士ノ上					富士ノ上 富士(社、榎原神宮境内社)
ひたちなか市平磯					
ひたちなか市前浜	水戸前浜 奉納額(板、7-1)				
大洗町磯浜町					
大洗町大貫町					大貫
大洗町松川					
水戸市内原五平					
水戸市内原鯉淵					
茨城町石崎					
茨城町若宮					
小美玉市世楽					
小美玉市榎谷				富士神社	富士神社(湯殿権現)
水戸市富士山町					富士山町 (富士権現)
水戸市下国井町					富士山古墳群(権現山下横穴群)
笠間市下郷					岩間富士
桜川市友部					友部
桜川市上城					
桜川市長方					
笠間市					
笠間市大郷戸					浅間神社
鉾田市田崎					富士神社(旧村社)
鉾田市大戸					
鉾田市					オフジヤマ(富士峰古墳群)
鹿嶋市大船津					
神栖市矢田部					

第二部 資料編

凡 例

- 1 『山梨県富士山総合学術調査研究報告書2』に報告した「御中道（大沢室）周辺の石造物・奉納物一覧」を中心に、富士信仰とりわけ富士講の展開を知る基礎的な資料とするために、地域ごとに再整理したものを、それ以前のデータに組み合わせて一覧表にした。この表では、富士に到着した道者（登拝者）の居住地、檀那所（道者場）について、従来の資料を基に整理・配列し、そこに中道大沢室の奉納物を加えて構成した。大沢の資料は、富士講に即したものが主体を占めるため、ここでは関東地方について網羅的に掲げ、それ以外の地域は資料の所在の記述にとどめた（第1部 第4章参照）。
- 2 表の出典の中で、中世末については、『山梨県史』（資料篇4 中世1 1999年）〔①〕、『浅間文書纂』（第4 公文富士氏記録3 御炊坊道者帳写、名著刊行会 1995年）〔②〕、『旦那所江状越申候覚』（『河口湖の古文書と歴史』その2 甲州史料調査会調査成果報告書 2005年）〔③〕、近世初頭は、『浅間文書纂』（第4 公文富士氏記録5 道者帳）〔④〕、同前期は、『富士吉田市史』（史料編 第5巻 1997年、258文書）〔⑤〕、同中期は、『富士に集う心 ―表口と北口の富士信仰』（『境界と鄙に生きる人々』新人物往来社 1995年、所収資料）〔⑥〕、とこれ以降、主に『富士塚報告書』（富士市立博物館 1995年）〔⑦〕の報告内容を分解して時期ごとに配列し、また、近世後期の括りで天保9年・同12年の川口御師の改帳を掲げた（『河口集落の歴史民俗的研究』〔天保9年分「富士登山人改帳」〕（山梨県立博物館調査・研究報告7 2014年）、『山梨県富士山総合学術調査研究報告書2』〔天保12年「富士登山導者人別改帳」資料篇V 富士参詣関連資料―1〕（山梨県 2016年）、『富士御師の檀那所と御山参詣』〔両年の一覧表「8 茨城県」から「14 神奈川県」分〕（山梨県立博物館調査・研究報告書12 2016年）〔⑧〕。幕末期に、『東側・西側惣御師持旦家取調帳』（『富士吉田市史』史料編 第5巻 1997年、298・299文書）〔⑨〕、昭和・戦前期には、御中道の奉納物のデータ（『山梨県富士山総合学術調査研究報告書2』資料篇 III御中道資料―2・3）〔⑩〕、このほか文化庁編『日本民俗地図Ⅲ』（信仰・社会生活 日本地理協会 1972年、『民俗地図』と省略）、『上吉田の石造物』（富士吉田市史編さん室 1991年、『石造物』と省略）、『マネキ』（同室 1996年）の内容を引用して全体を整理した。

【山梨県富士山総合学術調査研究委員会】（敬称略）

委員長 萩原 三雄（歴史考古民俗部会・考古班）
副委員長 菊池 邦彦（歴史考古民俗部会・文書班）
委員 石田 千尋（文学部会）

上杉 陽（自然環境部会）

紙谷 威廣（歴史考古民俗部会・民俗班）

清雲 俊元（歴史考古民俗部会・宗教考古班）

濱田 隆（有形文化財部会）

【山梨県富士山総合学術調査研究調査員】（敬称略）

○自然環境部会

内山 高、内山 美恵子、北原 正彦、

興水 達司、杉田 幹夫、中井 均、

中野 隆志、長谷川 達也

○歴史考古民俗部会（文書班）

海老沼 真治、小宮 佐知子、中野 賢治、

堀内 亨、宮澤 富美恵

○歴史考古民俗部会（考古班・宗教考古班）

石神 孝子、出月 洋文、植月 学、

関間 俊明、河西 学、櫛原 功一、

熊谷 晋祐、篠原 武、杉本 悠樹、

中山 誠二、新津 健、野代 恵子、

畑 大介、平野 修、深沢 広太、

布施 光敏、保坂 和博、保坂 康夫、

宮澤 公雄、村石 眞澄、室伏 徹、

望月 秀和、望月 祐仁、森原 明廣、

八巻 與志夫、山下 孝司

○歴史考古民俗部会（民俗班）

浅野 久枝、高橋 晶子、高橋 健一、

古屋 和久、松田 香代子、丸尾 依子

○歴史考古民俗部会（建築班）

北川 直子、北川 洋

○有形文化財部会

井澤 英理子、近藤 暁子、鈴木 麻里子、

高橋 晶子、松田 美沙子

○文学部会

石川 博、高室 有子、堀川 貴司

【事務局】（山梨県立富士山世界遺産センター）

所 長 秋道 智彌

副所長 志村 勇

（調査研究スタッフ）

学芸員 西川 広平（リーダー）

学芸員 赤池 栄人

学芸員 堀内 眞

職員 三浦 さゆり

山梨県立富士山世界遺産センター研究紀要
山梨県富士山総合学術調査研究報告

世界遺産 富士山 第1集

特集「御中道調査報告」

平成二十九年三月十七日発行

編集・発行 山梨県立富士山世界遺産センター

電話 〇五五五―七二―〇二五九

〒四〇一―〇三〇一

山梨県南都留郡富士河口湖町船津六六六三―一

印刷・製本 株式会社 少 國民社

電話 〇五五―二二六―二二二五

〒四〇〇―〇八五一

山梨県甲府市住吉一―一三一―一

無断転載・複製を禁じます。